

はじめに

このたびはe.Typistエントリー2 をお買い上げいただき、ありがとうございます。

e.Typistエントリー2 は、OCR（Optical Character Recognition：光学式文字認識）と称されるアプリケーションソフトウェアです。OCRとは、文字を含んだ画像データを認識処理してテキストデータに変換する技術をいいます。

e.Typistエントリー2 が認識できる文字の種類は、JIS第一水準の漢字、JIS第二水準の漢字、ひらがな、カタカナ、アルファベット、英数字など、合計で約6,700字種です。明朝体やゴシック体などの日本語フォントも、高精度で文字認識できます。

このマニュアルは、Windowsの基本的な操作方法について知識をもっている方を対象として記述しています。Windowsおよびパソコン、使用するスキャナの操作方法については、それぞれの製品に添付された取扱説明書をお読みください。

1. 本書およびプログラムは、メディアドライブ株式会社が著作権を有します。
2. 本書の無断転載およびプログラムのバックアップ以外を目的とした不法なコピーを禁止します。
3. 本書は2010年3月現在のプログラム（R3）で作成されたものです。本書の内容は、技術改良などによって予告なく変更されることがあります。
4. 本書の内容とプログラムの内容に違いがある場合は、プログラムの内容を優先させていただきます。

Windows はマイクロソフト社の登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

Copyright (C) 1991-2006 Media Drive Corporation.

Copyright (C) 1988-1997 Sam Leffler.

Copyright (C) 1991-1997 Silicon Graphics, Inc.

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

e.Typistエントリー2の主な機能

日本語・英語の基本認識エンジン

低解像度画像やつぶれ画像での日本語、英語の認識を強化したほか、新たに日英混在文書 of 原稿に対応した「日本語(英語混在)モード」を搭載しました。また、原稿中の写真や図などに含まれる余計な文字を認識させないようにする認識フィルター機能を搭載しました。

◆操作ナビ機能

初めてOCRソフトを使う方にも次の操作がすぐわかる「操作ナビ」画面を用意しました。操作手順のナビゲーションと機能を解説するヘルプボタンを並列した使いやすいインターフェースです。

◆画像入力

e.Typistで処理できる画像の最大枚数を500枚としました。また、TIFF LZW圧縮形式の画像読み込み・保存に対応しました。

◆イメージジョイント機能

画像を2枚選択して結合させる機能を搭載しました。これまで、A4スキャナでは取り込めなかったA3やB4サイズの原稿を分割して取り込み、認識させることができます。(※なお、本機能はWindows 2000/XP/Vista/7のみ有効です。結合後の最大画像はA3サイズまでとなります)。

◆下線削除機能

原稿のタイトル部分など、文章領域で下線(アンダーライン)に接触した文字を補正して認識できる機能を搭載しました。

◆リアルOCR機能

認識結果をWord、Excelに出力する際の再現性を強化しました。これまで再現の難しかった見積書などの帳票をできる限り原稿に近い状態でExcel上に再現します。読み込んだデータをあらためて編集する手間を省いて、スキャナからダイレクトに活用できます。

PDFファイル関連の機能

認識結果をPDFで出力する際に圧縮率の指定が可能になりました。

◆候補文字の分割

複数の文字として認識されるべき文字画像が1文字として認識された場合に、それを手で分割して再認識することができるようになりました。

◆Microsoft Word形式の出力に対応

認識結果をMicrosoft Word形式 (*.doc) として出力できるようになりました。報告書などを効率的に作成することができます（※なお、ご使用にはMicrosoft Word 97以降がインストールされている環境が必要です）。

◆ワンタッチ転送機能

従来の「データ転送」ツールバーを「ワンタッチ転送」ツールバーとして改良しました。WordやExcelなどのボタンを押すだけで簡単にWordやExcelの文書を作成することができます。また、複数ページの結果をまとめて転送することも可能になりました。

目次

第1章 お使いになる前に

1-1	インストール	2
1-2	スキャナの選択	7
1-3	アンインストール	9

第2章 基本操作

	ウィンドウの構成	13
	OCR操作の流れ	15
2-1	e.Typistの起動	17
2-2	スキャナから画像を読み込む	18
2-3	画像の修正	19
2-3-1	画像の回転	19
2-3-2	画像の傾き補正	20
2-4	レイアウト解析（認識範囲の設定）	22
2-4-1	自動レイアウト解析	22
2-4-2	認識枠の作成	23
2-4-3	認識順の変更	25
2-4-4	認識条件の設定	26
①	領域種別指定	26
②	認識言語指定	27
③	段組指定	27
④	改行コード挿入指定	29
⑤	空白文字挿入指定	29
⑥	データ区切り設定	30
⑦	認識字種設定	31
⑧	ルビ認識指定	32
2-5	文字認識	33
2-6	認識結果の修正	35
2-6-1	シンクロ表示	35
2-6-2	候補文字で修正	36
2-7	認識結果の保存・転送	37
2-7-1	認識結果の保存	37
2-7-2	認識結果の転送	39
2-8	e.Typistの終了	42

2-9	その他の画像入力.....	43
2-9-1	画像ファイルを読み込む.....	43

第3章 「スキャナ取り込み」と画像ウィンドウ

3-1	「スキャナ取り込み」.....	47
3-2	画像ウィンドウ.....	48
3-2-1	画像ウィンドウの共通ツール.....	48
3-2-2	「範囲設定」モードのツール.....	51
3-2-3	「画像修正」モードのツール.....	55

第4章 テキストの解析—修正

4-1	テキスト表示モードの選択.....	60
4-2	テキストウィンドウのツールバー.....	63
4-3	認識結果の解析.....	69
4-3-1	解析の設定.....	69
4-3-2	解析の実行.....	71
4-4	「検索・置換」でテキストを修正.....	73
4-4-1	「検索・置換」ダイアログの設定.....	73
4-4-2	置換リストで複数の語を置換.....	75
4-4-3	置換リストの保存と読み込み.....	76
4-5	「候補文字」でテキストを修正.....	78
4-5-1	候補文字で修正.....	78
4-5-2	候補文字を分割して修正.....	79

第5章 文字パターン学習辞書

5-1	「文字パターン学習辞書」への登録.....	82
5-2	「文字パターン学習辞書」の新規作成.....	84
5-3	「文字パターン学習辞書」の登録内容.....	86
5-4	文字認識に適用する文字.....	87

第6章 活用のヒント

6-1	操作ナビ.....	90
6-2	自動処理.....	94
6-2-1	連続自動処理.....	94
6-3	表組の文字認識.....	97

6-3-1	通常の罫線で囲まれた表組の文字認識	97
6-3-2	罫線が欠けた表組（補助線設定）	100
6-3-3	データ区切り設定	101
6-3-4	行単位、列単位で認識字種を設定	103
6-4	テキストを別形式で保存	105
6-5	両面印刷原稿を読み込む	110
6-6	個別字種の設定	112

第7章 操作設定・環境設定

7-1	「操作設定」パネル	117
7-1-1	「連続自動処理」タブ	118
7-1-2	「スキャナ」タブ	119
7-1-3	「ファイル読込」タブ	121
7-1-4	「レイアウト」タブ	123
7-1-5	「認識」タブ	124
7-1-6	「ファイル保存」タブ	127
7-2	「環境設定」パネル	129
7-2-1	表示	129
7-2-2	認識	133
7-2-3	読込・保存	135
7-2-4	ワンタッチ転送	137
7-2-5	全般	139

第8章 メインウィンドウ

8-1	メニューバー	144
8-1-1	「ファイル」メニュー	144
8-1-2	「編集」メニュー	148
8-1-3	「表示」メニュー	149
8-1-4	「検索」メニュー	151
8-1-5	「画像リスト」メニュー	153
8-1-6	「文字認識」メニュー	154
8-1-7	「解析」メニュー	156
8-1-8	「ツール」メニュー	157
8-1-9	「ヘルプ」メニュー	159
8-2	操作ツールバー	160
8-3	ワンタッチ転送ツールバー	162
8-4	認識属性ツールバー	164
8-5	認識設定ツールバー	166
8-6	画像リスト	167

付録

e.Typistエントリー2 スペック	171
動作環境	172
索引	174
カスタマサポート	179
ユーザー登録について	180
ユーザー登録変更届	181

第 1 章 お使いになる前に

e. Typist のインストールとスキャナの選択について説明
しています。

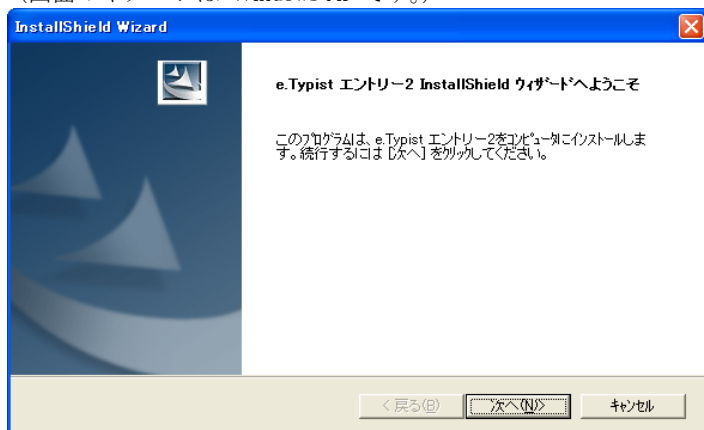
1-1 インストール

e.Typist をインストールします。

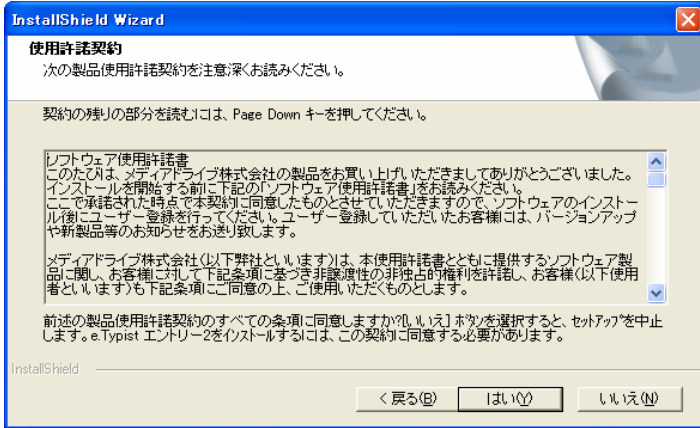


Windows 2000/XP/Vista/7 へインストールする場合は、必ず「管理者」権限でログオンしてから行なってください。インストールする前に起動中のプログラムはすべて終了しておいてください。

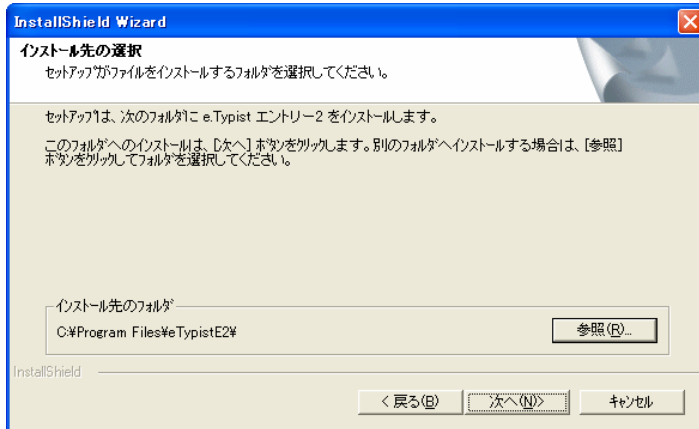
- 1 パソコンの電源をオンにし、Windows を起動します。
- 2 e.Typist を含む CD-ROM を、パソコンの CD-ROM ドライブにセットします。Windows の [マイコンピュータ] にある CD-ROM アイコンを右クリックし、表示メニューから「開く」を選択し、[eTypistE2] フォルダにある [setup.exe] ファイルをダブルクリックしてください。
- 3 「ようこそ」画面が表示されます。そのまま「次へ」をクリックしてください。
(画面のイメージは Windows XP です。)



- 4 「使用許諾契約」ダイアログが表示されます。
内容をご確認のうえ「はい」をクリックしてください。

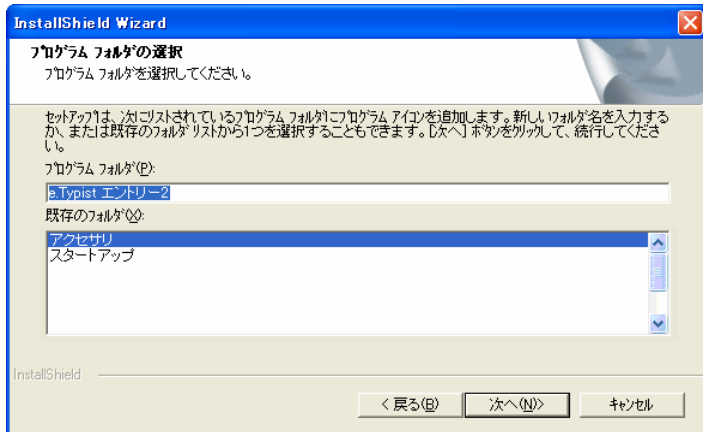


- 5 「インストール先の選択」ダイアログが表示されます。
指定のフォルダでよければ「次へ」をクリックしてください。

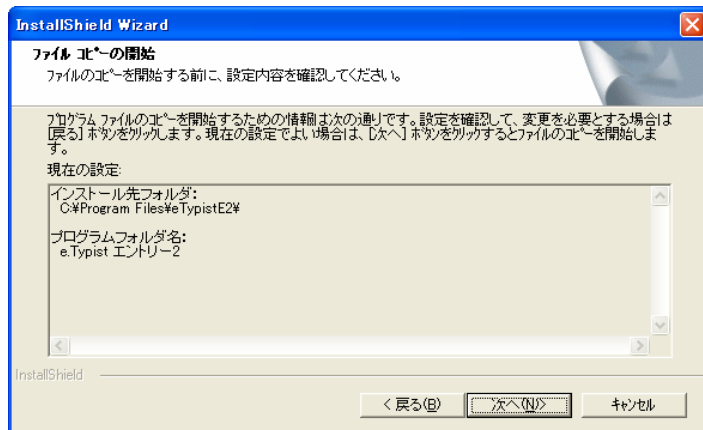


デフォルトで設定されたインストール先のフォルダ (C:\Program Files\%eTypistE2) を変更する場合は、「参照」をクリックして「ディレクトリの選択」ダイアログからフォルダを指定してください。

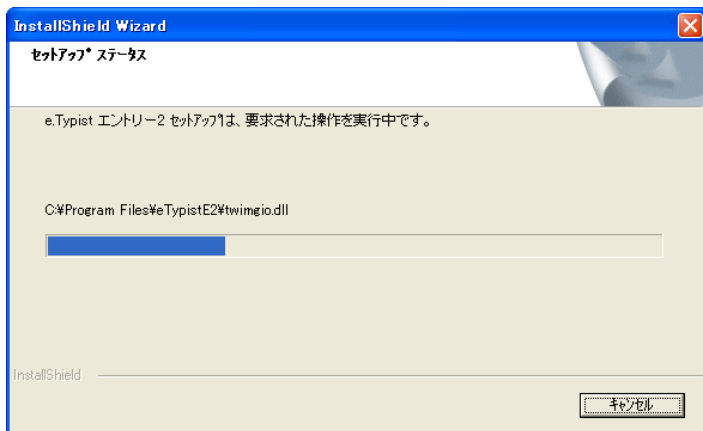
- 6 「プログラムフォルダの選択」ダイアログが表示されます。
指定のプログラムフォルダでよければ「次へ」をクリックしてください。



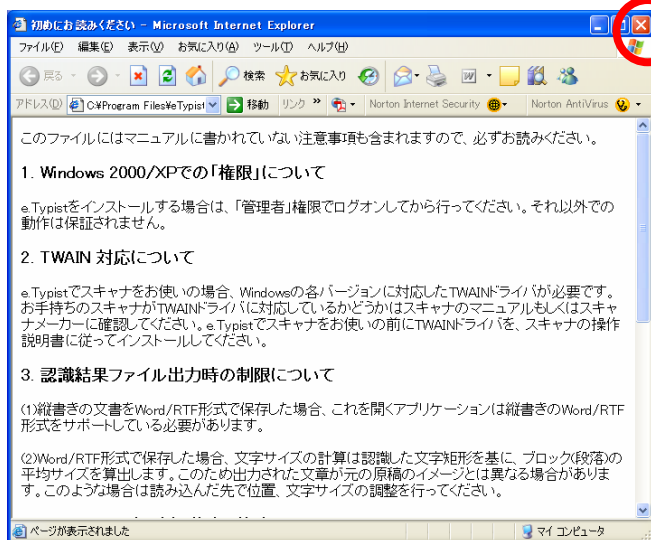
- 7 「ファイルコピーの開始」ダイアログが表示されます。
「次へ」をクリックしますと、ファイルのコピーが開始されます。



8 パソコンにファイルをコピーしています。



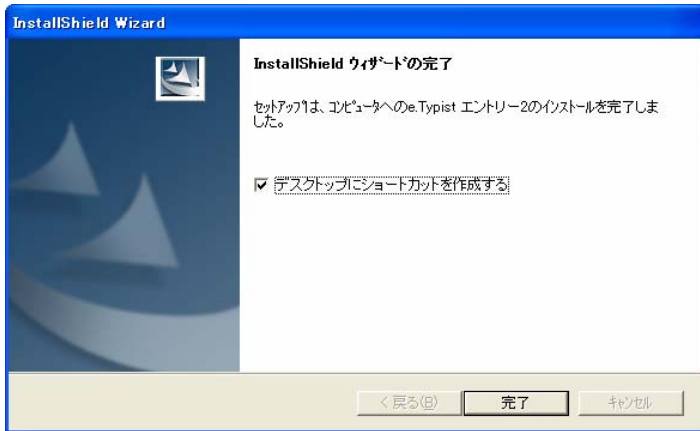
9 インストールが完了しますと「Readme.txt」が表示されます。注意事項が書かれてありますので必ずお読みください。読み終わりましたら、起動されたアプリケーションを閉じてください。（下は Windows XP のメモ帳を閉じる場合です。）



インストール後に「Readme.txt」をご覧いただくには、Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「e.Typist エントリー2」→「初めにお読みください」を選択してください。

10

「Install Shield ウィザードの完了」ダイアログで「完了」をクリックしてください。
「デスクトップにショートカットを作成する」にチェックを付けますと、e.Typist
を起動するためのアイコンがデスクトップ画面に作成されます。



以上で、e.Typist のインストールが完了です。

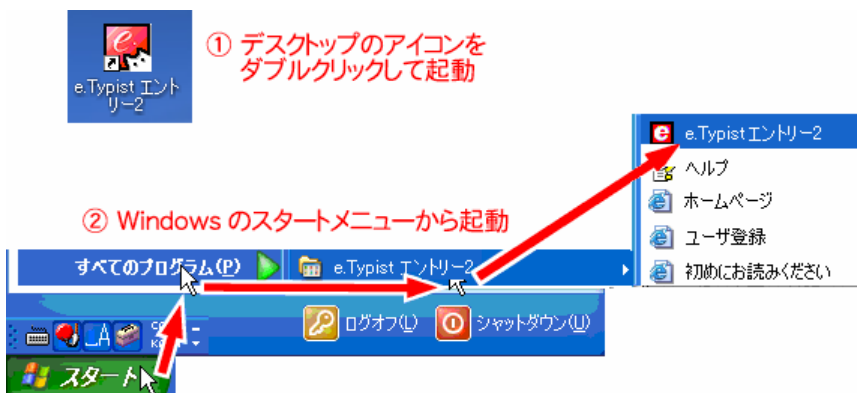
(※Windows 98/Me でご使用の際はパソコンの再起動が必要になります。)

1-2 スキャナの選択

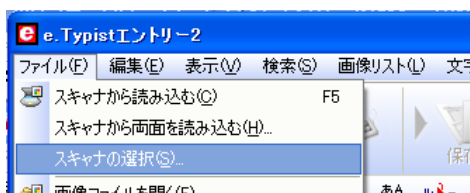
e.Typist のインストール後、パソコンに接続して使用するスキャナを選択してください。スキャナを選択することで、e.Typist のメニューからスキャナを操作することができます。

ヒント e.Typist の操作中でもスキャナの変更することができます。その場合も、ここで説明している方法と同じです。

- 1 スキャナをパソコンに正しく接続し、使用するスキャナの TWAIN ドライバを、あらかじめインストールしておいてください。
(ご使用になるスキャナの取扱説明書をお読みください。)
- 2 e.Typist を起動します。
デスクトップ画面に表示された e.Typist のアイコンをダブルクリックします。または、スタートメニューの [すべてのプログラム] → [e.Typist エントリー2] → [e.Typist エントリー2] を選択します。



- 3 メインウィンドウの「ファイル」メニューから「スキャナの選択」を選択します。



- 4** 「スキャナドライバの選択」ダイアログが表示されます。
ダイアログに表示されたリストからスキャナドライバを選んで表示を反転させます。(下図はサンプルです。ご使用のパソコンにインストールされているスキャナドライバが表示されます。)



- 5** 「OK」をクリックし、「スキャナドライバの選択」ダイアログを閉じます。

以上でスキャナの選択が完了しました。

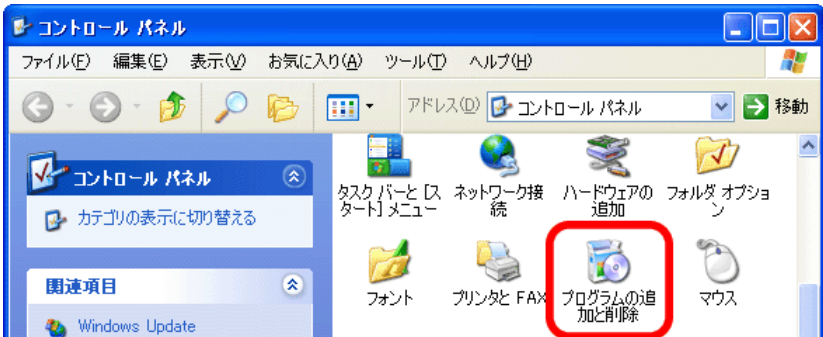
1-3 アンインストール

e.Typist をアンインストール（パソコンから削除）します。

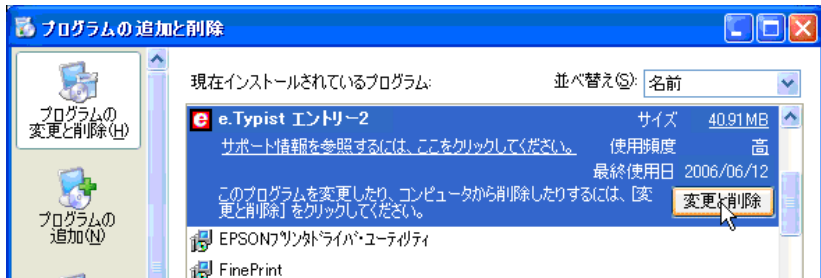


e.Typist を再インストールする場合は、その前にこのアンインストールを実行するようにしてください。なお、この操作ではユーザーが作成したデータは削除されません。

- 1 e.Typist が起動中であればこれを終了します。
- 2 Windows の「スタート」メニューから「コントロールパネル」を選択します。
- 3 「プログラムの追加と削除」（Windows Vista/Windows 7 の場合はプログラムのアンインストール）をダブルクリックします。

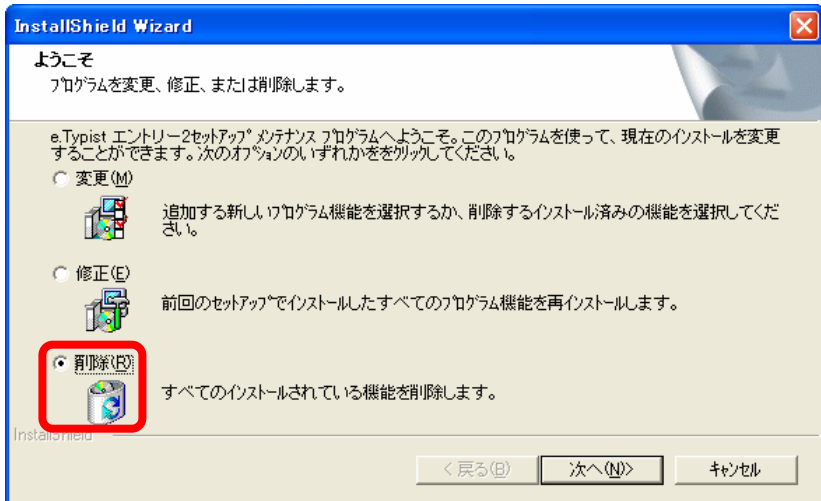


- 4 リストから「e.Typist エントリー2」を選択し、「変更と削除」をクリックします。

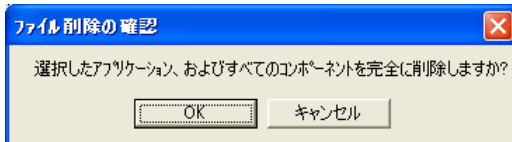


「プログラムの追加と削除」ダイアログは、ご使用の Windows のバージョンにより画面が異なります。

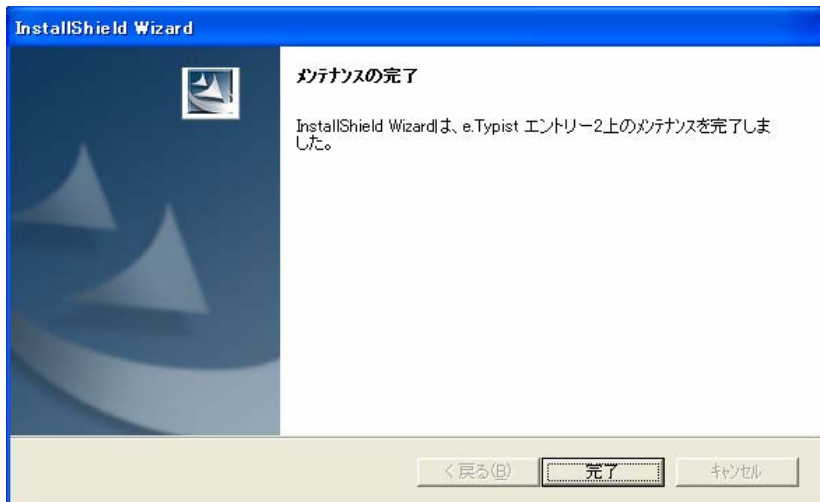
- 5 表示されたダイアログで「削除」にチェックを付け、「次へ」をクリックします。



- 6 確認ダイアログが表示されます。
「OK」をクリックしますと、アンインストールがスタートします。



- 7 アンインストールが完了しますと、「メンテナンスの完了」ダイアログが表示されます。「完了」をクリックし、「コントロールパネル」を閉じます。



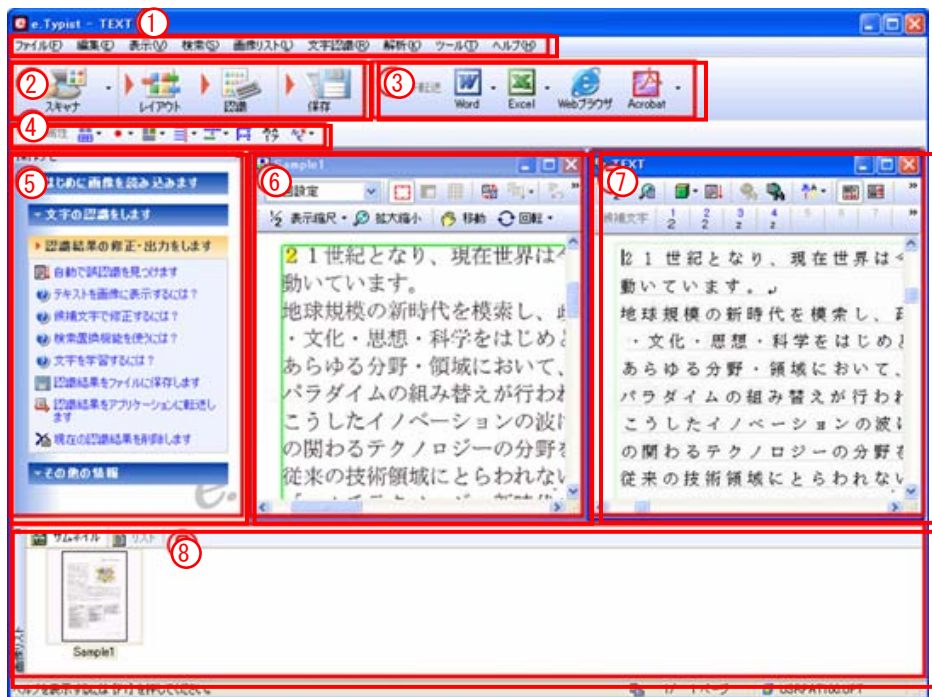
以上の操作で、e.Typist のアンインストール作業が完了です。

第2章 基本操作

e. Typist の基本操作（原稿をスキャナから読み込んで、文字認識、保存するための操作）を説明しています。

ウィンドウの構成

e.Typist のウィンドウ構成は次のとおりです。
詳細についてはそれぞれの参照ページをご覧ください。



- ① **メニューバー** ⇒ 144 ページ参照
e.Typist の様々な機能が利用できるメニューです。
- ② **操作ツールバー** ⇒ 160 ページ参照
原稿（画像）の読み込みから文字認識、認識結果の保存までの基本操作を実行します。
- ③ **ワンタッチ転送ツールバー** ⇒ 162 ページ参照
パソコンにインストールされているアプリケーションに認識結果を転送します。
- ④ **認識属性ツールバー** ⇒ 164 ページ参照
画像ウィンドウに作成された認識枠の属性を設定します。

- ⑤ **操作ナビ** ⇒ 90 ページ参照
e. Typist の操作をナビゲートするメニューを表示します。ヘルプアイコンが表示されたメニューをクリックするとヘルプメニューが表示され、機能についての説明をご覧ください。
- ⑥ **画像ウィンドウ** ⇒ 48 ページ参照
読み込んだ原稿（画像データ）を表示します。また、レイアウト解析の結果を表示し、認識枠の設定を行います。
- ⑦ **テキストウィンドウ** ⇒ 63 ページ参照
文字認識の結果を表示します。誤認識された文字の訂正を行います。
- ⑧ **画像リスト** ⇒ 167 ページ参照
読み込んだ画像をサムネイル（縮小画像）やリストで表示します。

OCR操作の流れ

基本操作に入る前に、e.Typist の OCR 操作の流れを説明します。

e.Typist を起動させる前に、ご使用のパソコンとスキャナが正しく接続されていることを確認してください。

1 e.Typist の起動 ⇒ 17 ページ参照

e.Typist を起動します。

2 スキャナから画像を読み込む ⇒ 18 ページ参照

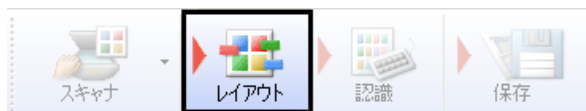


スキャナを操作して原稿を画像データとして読み込みます。
読み込んだ画像データは「画像ウィンドウ」に表示されます。

3 画像の修正 ⇒ 19 ページ参照

読み込んだ画像データの方向や傾きを補正して、文字が認識しやすいように調整します。

4 レイアウト解析（認識範囲の設定） ⇒ 22 ページ参照



画像データ上でレイアウト解析を行い、文字を認識する範囲を指定します。
また、認識枠の種類や言語などの認識属性を設定します。

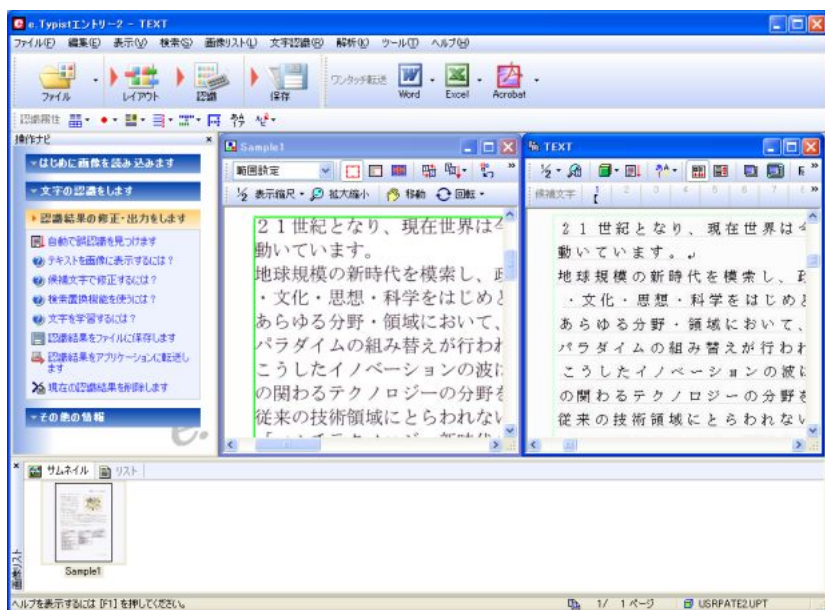
5 文字認識 ⇒ 33 ページ参照



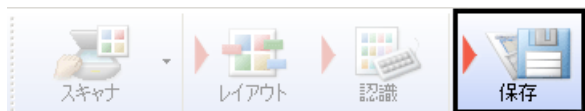
文字認識を実行しますと「テキストウィンドウ」に認識結果が表示されます。

6 認識結果の修正 ⇒ 35 ページ参照

画像データとシンクロ表示させながら誤認識された文字を修正します。

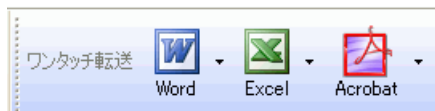


7 認識結果の保存・転送 ⇒ 37 ページ参照



認識結果をファイルに保存します。

また、e.Typist からダイレクトに他のアプリケーションに転送することもできます。

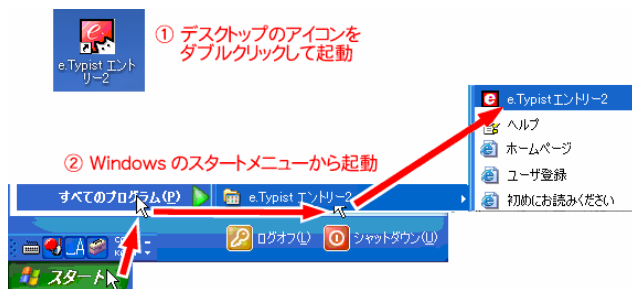


8 e.Typist の終了 ⇒ 42 ページ参照

e.Typist を終了します。

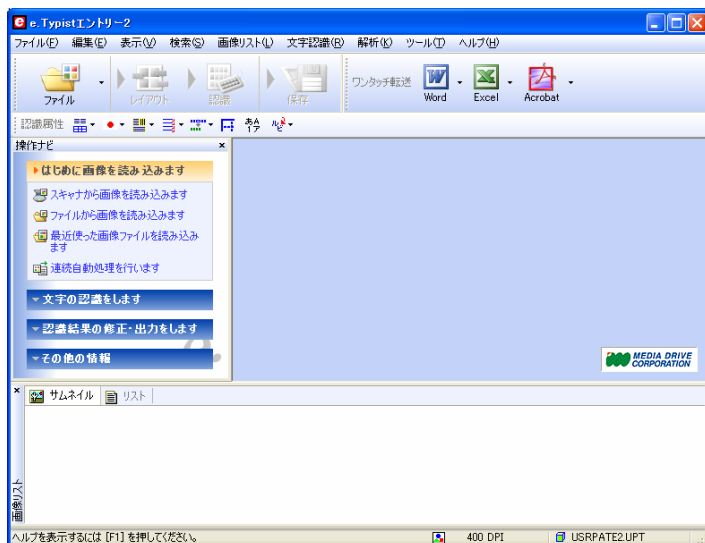
2-1 e.Typist の起動

- 1 Windows のデスクトップ画面に表示された「e.Typist エントリー2」アイコンをマウスでダブルクリックするか、Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」→「e.Typist エントリー2」→「e.Typist エントリー2」を選択します。



注意 インストール後の初回起動時に、プログラムを最新の環境に更新するためのアップデートメッセージが表示されます。「OK」をクリックしますと、インターネットに接続し、自動アップデートを開始します。

- 2 e.Typist が起動し、メインウィンドウが表示されます。



注意 ここまで説明した操作で e.Typist が起動しない場合には、2 ページの「インストール」に戻って、もう一度インストールし直してください。

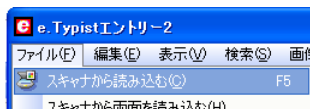
2-2 スキャナから画像を読み込む

スキャナを使って原稿を読み込みます。



⇒ スキャナ以外から原稿（画像データ）を読み込む方法は、43 ページの「その他の画像入力」をお読みください。

- 1 スキャナに原稿をセットして、操作ツールバーの「スキャナ」をクリックするか、または「ファイル」メニューから「スキャナから読み込む」を選択します。

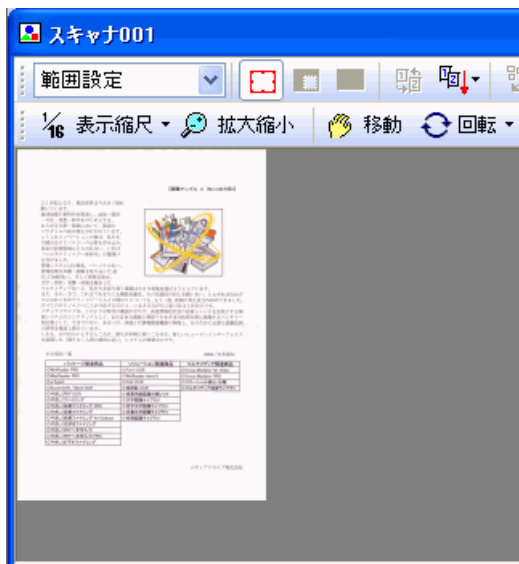


- 2 「スキャナ取り込み」画面とその操作手順は各スキャナメーカー様により相違があります。各スキャナメーカーの TWAIN パネルの指定に従って操作して下さい。（詳細はスキャナ付属の説明書をご覧ください）



スキャナの解像度は 300～600dpi でスキャンすると、文字認識に適した画像となります。

- 3 正常にスキャンされると画像ウィンドウにスキャンした画像が表示されます。



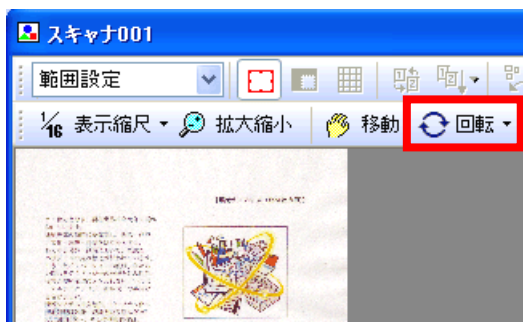
2-3 画像の修正

読み込んだ画像データの回転、傾きの補正を行います。

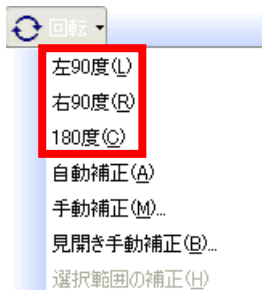
2-3-1 画像の回転

取り込んだ画像を正しい向きに回転します。

- 1 画像ウィンドウのツールバーで「回転」をクリックします。



- 2 表示されたメニューから回転方向（左90度、右90度、180度）を選択し、画像の向きを正しい方向に回転させます。



2-3-2 画像の傾き補正

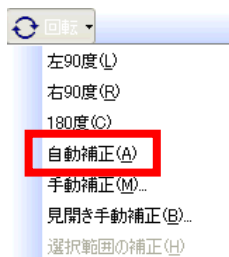
取り込んだ画像の傾きを補正します。

● 自動補正

プログラムが傾きを検出して自動補正します。
補正できる角度は最大±20°です。

1 画像ウィンドウのツールバーで「回転」をクリックします。

2 表示されたメニューから「自動補正」を選択します。



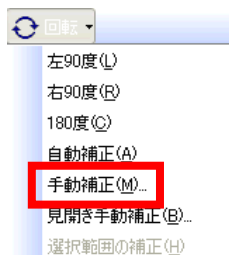
3 画像の傾きが検知され自動で補正されます。

● 手動補正

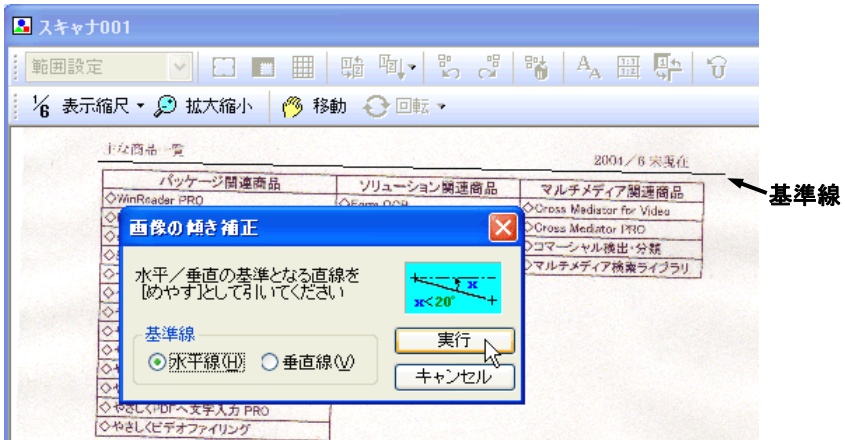
自動で傾きが補正できない原稿については、手動で補正します。

1 画像ウィンドウのツールバーで「回転」をクリックします。

2 表示されたメニューから「手動補正」を選択します。



- 3 「画像の傾き補正」ダイアログが表示されます。
傾きを補正するための基準線を「水平線」、「垂直線」から選択します。
- 4 画像データ上でマウスをドラッグして基準線（水平もしくは垂直にしたい線）を引いて「実行」をクリックしますと、画像の傾きが補正されます。



e. Typist では「画像の回転」と「傾き補正」以外の画像編集機能も使用することができます。詳しくは 48 ページの「画像ウィンドウ」をお読みください。

2-4 レイアウト解析（認識範囲の設定）

読み込んだ画像のレイアウト解析を行います。

レイアウト解析を実行すると、原稿の文字や表、図などが領域ごとに自動判別され、文字認識の対象となる認識枠が生成されます。

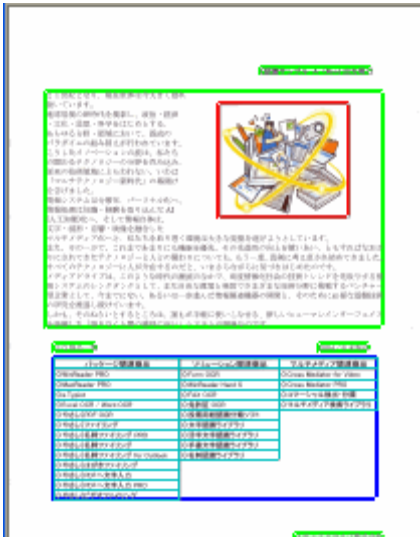
2-4-1 自動レイアウト解析

自動で認識枠を生成します。

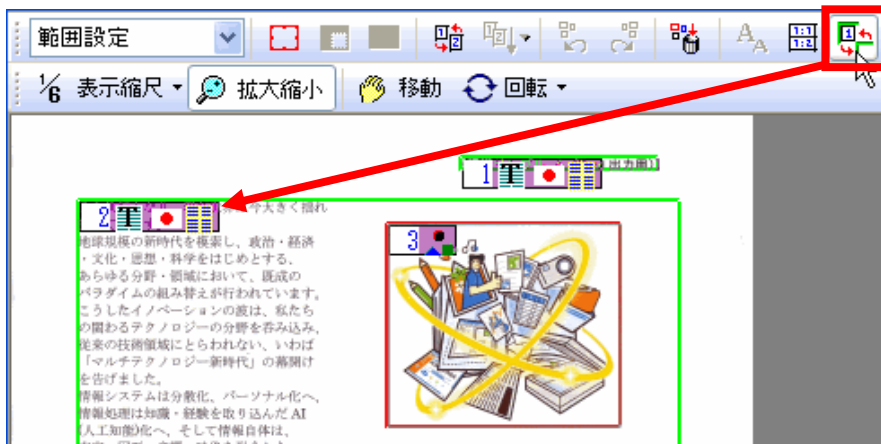
- 1 操作ツールバーの「レイアウト」をクリックします。



- 2 画像上に自動で認識枠が生成されます。
文章として認識された領域は緑色の枠、表組として認識された領域は青色、図領域は赤色など、認識枠は種別ごとに色分けされて表示されます。



- 3 画像ウィンドウのツールバーで「認識領域番号表示」をクリックしますと、認識枠の左上に「①認識枠番号、②領域種別、③認識言語、④段組」の属性が表示されます。再度「認識領域番号表示」をクリックしますと表示が消えます。



- 4 生成された認識枠を削除する場合は、認識枠上でマウスをクリックしてアクティブな状態にし（枠内が青色で表示されます）、キーボードの [Delete] キーを押してください。

2-4-2 認識枠の作成

自動レイアウト解析が思った結果と異なる場合は手動で認識枠を作成します。

- 1 画像ウィンドウのツールバーで「範囲設定」を選択します。



2 画像上の文字認識したい部分をマウスで範囲選択します。



3 マウスを放すと選択範囲内でレイアウト解析が行われ、認識枠が自動的に生成されます。



2-4-3 認識順の変更

文字認識は認識枠の左上コーナーに表示される番号順に実行されます。認識順を変更するには、認識枠に付いた番号を変更します。

- 1 画像ウィンドウのツールバーで「認識順変更」をクリックします。



- 2 変更する順番に認識枠をマウスでクリックしますと、番号が自動で変更されます。
- 3 操作が完了しましたら、再度「認識順変更」をクリックして解除します。



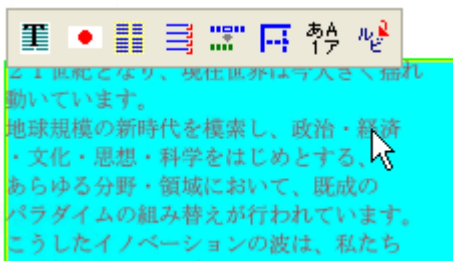
認識枠上でマウスの右ボタンをクリックし、表示されたメニューの「領域の順番変更」から変更する番号を選択することができます。(ただし、「認識領域番号表示」ボタンがONの状態のみ有効です)。



2-4-4 認識条件の設定

文字認識を実行する前に、生成された認識枠ごとに手動で認識条件を設定しておくことで、認識の精度が向上することがあります。

- 1 認識枠をクリックしてアクティブな状態（青色の表示）にします。
- 2 認識枠にカーソルを置いたままにしておくと、上部に認識属性ツールバーのアイコンがポップアップ表示されます。（表示されない場合はウィンドウ上の認識属性ツールバーで操作してください。）

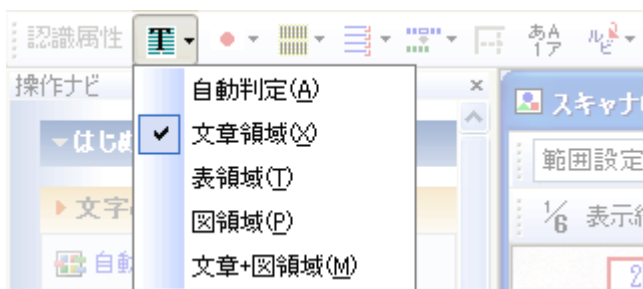


- 3 各ボタンをクリックして認識条件を変更します。

① 領域種別指定

認識枠内の種別を設定します。

認識属性ツールバーの「領域種別指定」をクリックしてポップアップリストから選択します。設定された領域種別によって属性のデザインが切り替わりますので、現在の領域種別の設定が確認できます。



<領域種別指定とアイコンのデザイン>



「自動判定」

領域の種別を自動的に判定します。



「文章領域」

文章の領域として認識します。



「表領域」

表組の領域として認識します。



「図領域」

図の領域として認識され、文字認識の対象外となります。



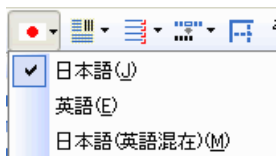
「文章+図領域」

認識枠で囲まれたブロック内の文章と図を自動的に判別します。

② 認識言語指定

認識枠の認識言語を設定します。

認識属性ツールバーの「認識言語指定」をクリックしてポップアップリストから選択します。設定された認識言語によって属性のデザインが切り替わりますので、現在の設定が確認できます。



<認識言語指定とアイコンのデザイン>



日本語



英語

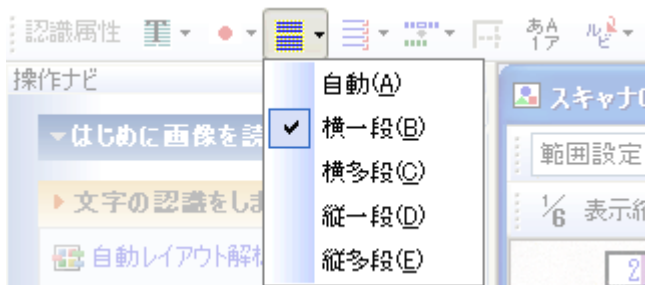


日本語 (英語混在)

③ 段組指定

認識枠の文章レイアウト（段組）の状態を設定します。

認識属性ツールバーの「段組指定」をクリックしてポップアップリストから選択します。設定された段組によって属性のデザインが切り替わりますので、現在の設定が確認できます。



<段組設定とアイコンのデザイン>



「自動」

段組を自動で判定し、文字認識されます。



「横一段」

横書き 1 段組の文章として認識されます。



「横多段」

横書き 2 段組以上の文章として認識されます。



「縦一段」

縦書き 1 段組の文章として認識されます。



「縦多段」

縦書き 2 段組以上の文章として認識されます。

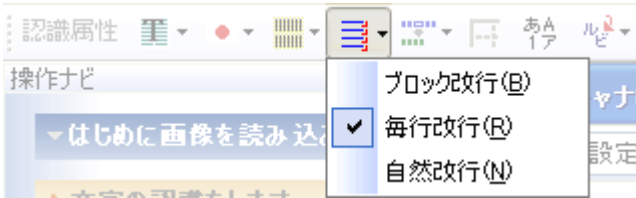


日本語以外の文章を認識する場合（「認識言語」に「英語」を指定した場合）、「縦一段」と「縦多段」は選択できません。

④ 改行コード挿入指定

認識結果をテキストとして出力する際に、テキスト中に改行（リターンコード）を挿入する条件を指定します。

認識属性ツールバーの「改行コード挿入指定」をクリックしてポップアップリストから選択します。設定された改行コードの挿入指定によって属性のデザインが切り替わりますので、現在の設定が確認できます。



<改行コード挿入指定とアイコンのデザイン>



「ブロック改行」

ブロック（行間隔や行頭の変化）で改行を挿入します。



「毎行改行」

画像データに合わせて行末で改行を挿入します。



「自然改行」

段落の情報を判断して改行を挿入します。

⑤ 空白文字挿入指定

文中に含まれた空白部分を、認識結果のテキストに空白文字（スペース）として出力するかどうかを設定します。

認識属性ツールバーの「空白文字挿入指定」をクリックしてポップアップリストから選択します。設定された空白文字の挿入指定によって属性のデザインが切り替わりますので、現在の設定が確認できます。



<空白文字挿入指定とアイコンのデザイン>



「出力なし」

空白部分を無視してスペースを出力しません。



「空白出力」

空白部分をスペースとして出力します。



日本語（英語混在を含む）の文章で、「各行改行」または「自然改行」を指定している場合のみ設定できます。

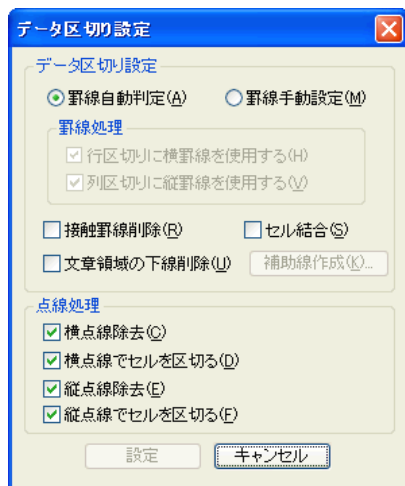
⑥ データ区切り設定

認識枠の罫線の区切り方法、罫線や下線に接触している画像の認識、点線処理方法を設定します。

- 1 認識属性ツールバーの「データ区切り設定」をクリックします。



- 2 「データ区切り設定」ダイアログが表示されますので、認識条件を選択して「設定」をクリックします。



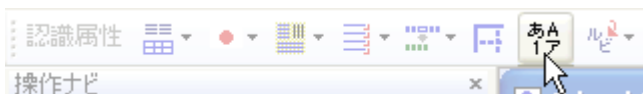
⇒「データ区切り設定」ダイアログの操作方法については、101 ページの「データ区切り設定」をお読みください。

⑦ 認識字種設定

認識枠の文字種を設定します。

認識の対象とする文字の種類を限定すると、文字認識の精度が向上することがあります。ただし、日本語以外にはこの機能は使用できません。

- 1 認識属性ツールバーの「認識字種設定」をクリックします。



- 2 「認識字種設定」ダイアログが表示されますので、認識字種にチェックを付けて選択します。すべての字種を選ぶときは「全属性設定」をクリックします。チェックをすべて外すときは「全属性解除」をクリックします



「設定範囲」は、認識枠が「表領域」の場合だけ矢印が表示され使用可能となります（上の右側の図）。これらの矢印ボタンは、表組のセル単位で行や列を指定し、字種を設定する際に使用します。

⇒操作方法については、103 ページの「行単位、列単位で認識字種を設定」をお読みください。

「個別字種」はあらかじめ登録しておいた文字種を選択して文字認識に使用することができます。初期設定では「全字種」が登録されています。すべての第2水準漢字を認識対象とする場合に選択してください。

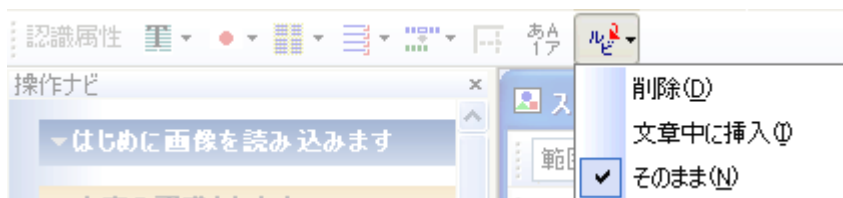
⇒文字種の登録については、112 ページの「個別字種の設定」をお読みください。

- 3 設定が完了しましたら「終了」をクリックします。

⑧ ルビ認識指定

認識枠の文章にルビ（フリガナ）がついている場合、ルビを認識の対象とするかどうかを設定します。

認識属性ツールバーの「ルビ認識指定」をクリックしてポップアップリストから選択します。設定されたルビ認識の設定条件によって属性のデザインが切り替わりますので、現在の設定が確認できます。



<ルビ認識指定とアイコンのデザイン>



「削除」

ルビを認識しません。（本文とルビが近接しているような画像ではルビが削除されないことがあります。）



「文章中に挿入」

ルビを認識して文章中に挿入します。
⇒ ルビの挿入方法については、124 ページの「日本語認識オプション」をお読みください。



「そのまま」

ルビを認識してそのまま出力します。

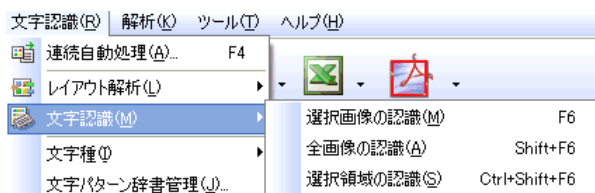
2-5 文字認識

認識枠の条件を設定したのち、文字認識を実行します。

- 1 操作ツールバーの「認識」をクリックしますと、文字認識がスタートします。



あるいは、「文字認識」メニューから「文字認識」にあるサブメニューを選択します。



「選択画像の認識」

画像リストで選択されている画像を認識します。

「全画像の認識」

画像リストに表示されているすべての画像を認識します。

「選択領域の認識」

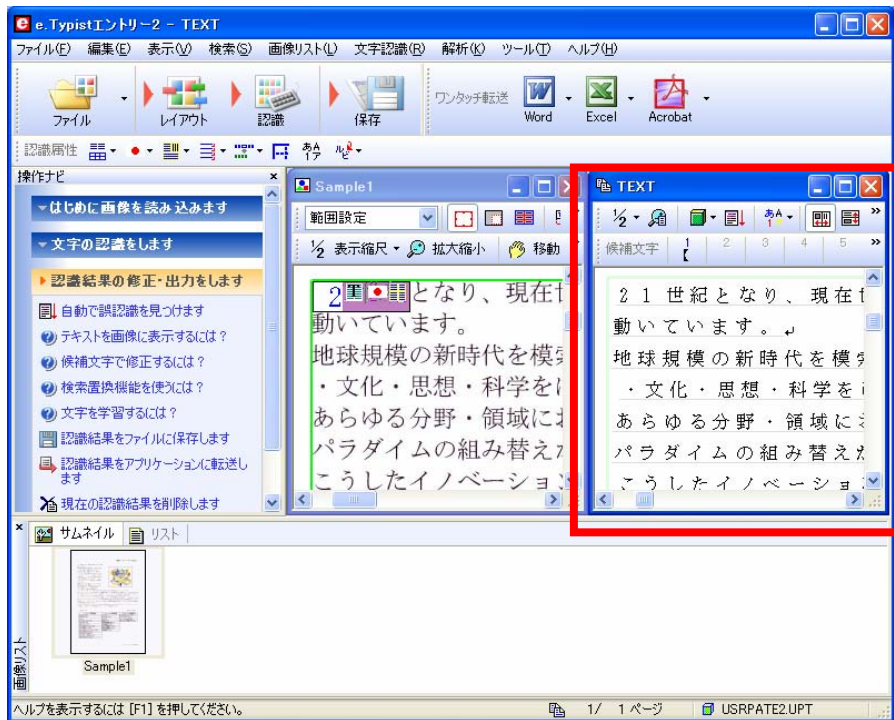
選択されている認識枠（アクティブな認識枠）だけを認識します。

※ [Shift] キーを押しながら認識枠をクリックしますと、複数の認識枠を選択することができます。

- 2 文字認識がスタートして次図のダイアログが表示されます。「中止」をクリックしますと、認識処理を中止することができます。



3 文字認識が終わりますと、テキストウィンドウに認識結果が表示されます。



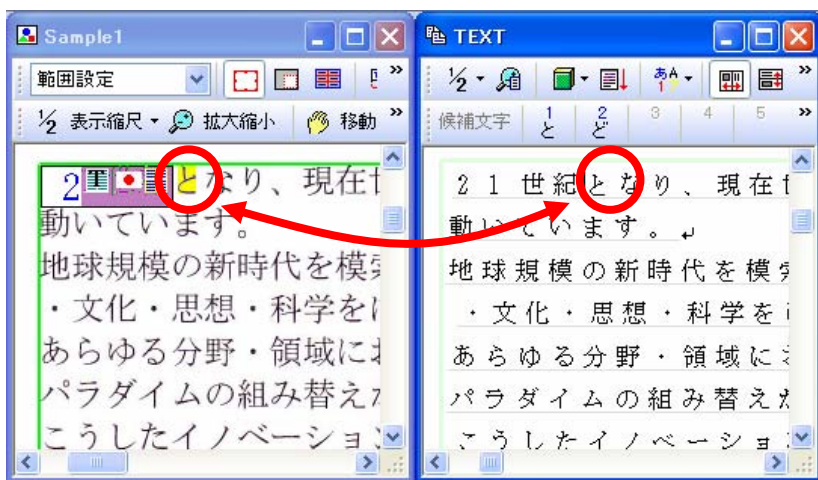
2-6 認識結果の修正

テキストウィンドウに表示された認識結果を修正します。

2-6-1 シンクロ表示

テキストウィンドウと画像ウィンドウで、文字データと画像データが相互にリンクして表示される機能です。テキストの文字に該当する画像を確認しながら修正することができます。

- 1 テキストウィンドウの認識結果をマウスでクリックしますと、その文字に該当する画像データに色が付いて表示されます。



- 2 テキストウィンドウのツールバーで「上下シンクロ」をクリックしますと、ウィンドウの並びを縦に変えることができます。「左右シンクロ」をクリックしますと横の並びに戻ります。



カラー画像などを認識した際に、認識結果の文字の背景に画像が表示されます。背景画像を表示させたくない場合は「表示」メニューの「テキストの背景に画像を表示」を選択してチェックを外してください。再度選択しますと背景画像が表示されます。

2-6-2 候補文字で修正

日本語の原稿を文字認識したのち、テキストとして表示された文字にはそれぞれ「候補文字」データが含まれています（英語のテキストには含まれません）。

「候補文字」を使用してテキストの修正が行えます。



候補文字のデータは、文字認識を行った直後の日本語テキストにだけに含まれています。キーボードから直接入力した文字や置換した文字には含まれません。

- 1 テキストウィンドウの文字にカーソルを移動しますと、候補文字表示ツールバーに「候補文字」が表示されます。あるいは、テキストウィンドウに表示されている文字を、マウスの右ボタンでクリックすると候補文字リストのウィンドウが表示されます。



- 2 表示された候補文字のリストに正しい文字があれば、その文字上でクリックしますと、テキストウィンドウの文字を置き換えることができます。



e. Typist では「候補文字」以外の修正方法や認識結果の解析機能も使用することができます。

⇒ 詳しくは 59 ページ以降の「テキストの解析—修正」をお読みください。

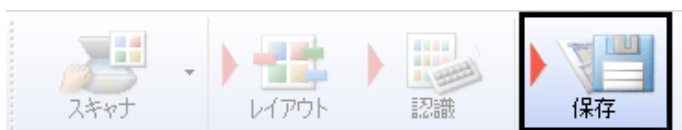
2-7 認識結果の保存・転送

認識結果をファイルに保存、または別のアプリケーションへ転送して利用します。

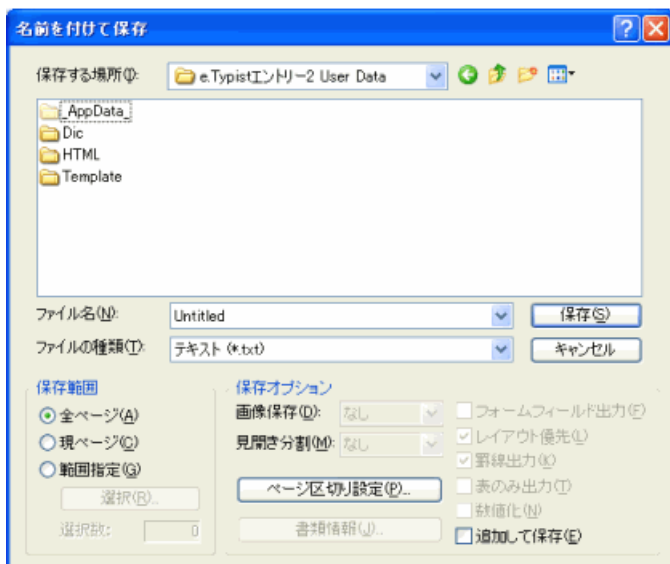
2-7-1 認識結果の保存

認識結果の修正が完了しましたら認識結果をファイルに保存します。

- 1 操作ツールバーの「保存」をクリックします。または、「ファイル」メニューの「テキスト名前を付けて保存」を選択します。



- 2 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます（下図はサンプルです）。



3 「ファイルの種類」をリストから選択します。

保存できるファイル形式は下記の通りです。

テキスト :	テキストファイル
Word :	Microsoft Word ファイル (※Word97以降が必要)
RTF :	リッチテキストフォーマットファイル
PDF :	標準 PDF ファイル
PDF 画像 (透明テキスト付き) :	画像+透明テキスト PDF ファイル
Excel :	Microsoft Excel ファイル
CSV (ブロック改行) :	カンマ区切りファイル
CSV (ページ改行) :	カンマ区切りファイル
任意区切り文字テキスト :	テキストファイル

4 テキストを保存するフォルダを選択してファイルの名称を入力し、「保存」をクリックします。指定のフォルダにファイルが保存されます。

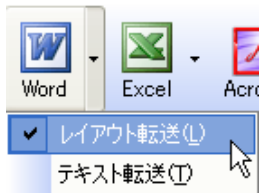
⇒ テキスト形式以外の保存および「保存オプション」については、105 ページの「テキストを別形式で保存」をお読みください。

2-7-2 認識結果の転送

認識結果をファイルに保存する以外に、e.Typist から他のアプリケーションに直接転送することができます。

ここでは Word への転送を例に説明します。

- 1 ワンタッチ転送ツールバーの「Word」の右にある「▼」をクリックし、転送するデータのフォーマット形式を選択します。
(ここでは「レイアウト転送」を選択しています。)



「レイアウト転送」

認識結果の文字と元原稿のレイアウト情報を再現して転送します。

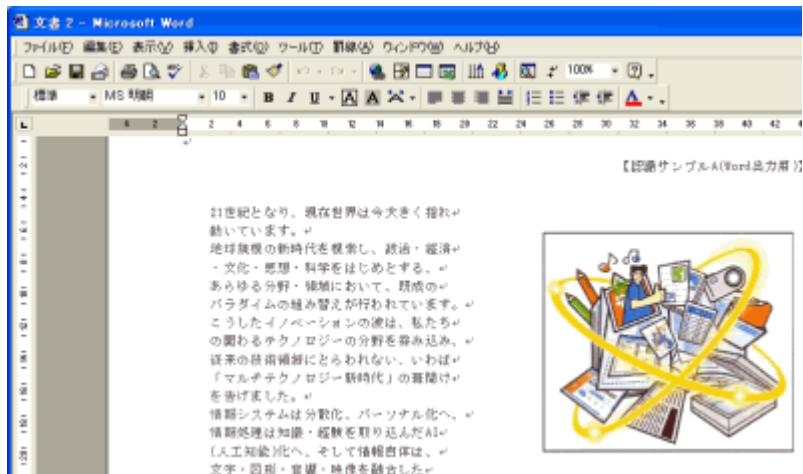
「テキスト転送」

認識結果の文字のみを転送します。

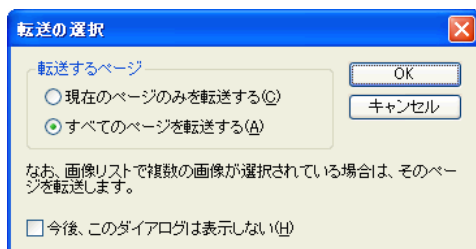
- 2 「Word」アイコンをクリックします。



- 3 Word が起動し、認識結果が転送されます。
(下図はサンプルです。)



複数ページの認識結果がある場合は次のダイアログが表示されます。現在表示されているページのみか、全てのページを転送するか選択して「OK」をクリックしてください。なお、「今後、このダイアログは表示しない」を選択した場合は次回からダイアログが表示されません。再度表示する方法については、142 ページの「ワンタッチ転送のページ選択」をお読みください。



ワンタッチ転送でサポートされるアプリケーション（日本語版）は次の通りです。

コマンド	対応アプリケーション
Word	Microsoft Word 97/98/2000/2002/2003/2007
Excel	Microsoft Excel 97/2000/2002/2003/2007
Adobe Acrobat	Adobe Acrobat 5.0/6.0/7.0 Adobe Acrobat Reader 5.0 Adobe Reader 6.0/7.0/8.0



注意

ご使用のパソコンにあらかじめ転送先アプリケーションが正しくインストールされている必要があります。インストール方法や転送後の操作方法については、各アプリケーションに付属のマニュアルをご覧になるか、または各メーカーへ直接お問い合わせください。

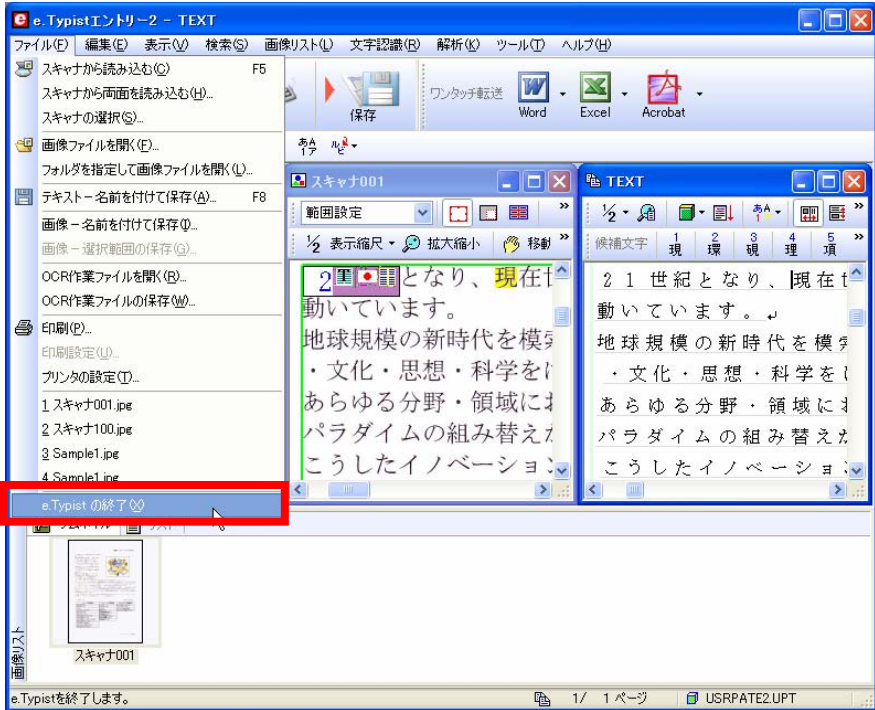


ヒント

e.Typist は、OLE 2.0 に対応したワープロソフトに、ドラッグ&ドロップ操作で認識結果を転送することができます。画像ウィンドウに作成された認識枠にカーソルを置いて、「Ctrl」キーを押したままワープロソフト上にドラッグ&ドロップしてください。ただし、ここで出力したテキストには「候補文字」の情報はありません。

2-8 e.Typist の終了

e.Typist を終了するには、「ファイル」メニューから「e.Typist の終了」を選択してください。



Windows XPの「ユーザーの簡易切り替え(Fast User Switching)」機能には対応しておりません。ユーザーの切り替えを行う場合には、あらかじめe.Typistを終了しておいてください。

2-9 その他の画像入力

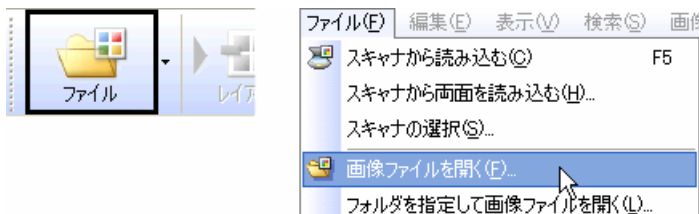
スキャナ以外の画像の入力方法について説明します。

2-9-1 画像ファイルを読み込む

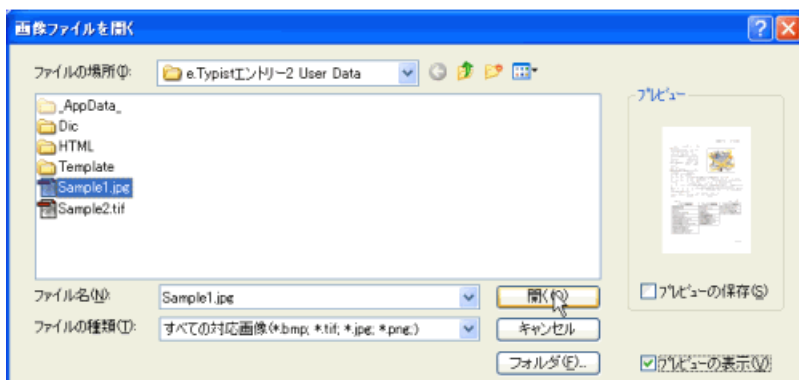
あらかじめ保存されている原稿の画像ファイルを指定して読み込みます。

e.Typist で読み込める画像ファイルの形式は、「BMP」、「TIFF/マルチページ TIFF（非圧縮、G3/G4 圧縮、FX、LZW 圧縮）」、「JPEG」、「PNG」です。読み込み可能なファイル数は最大 500 枚（ページ）です。

- 1 操作ツールバーの「スキャナ」の右にある「▼」をクリックし「ファイル読込」を選択します。アイコンが切り替わりますので「ファイル」をクリックします。あるいは、「ファイル」メニューから「画像ファイルを開く」を選択します。



- 2 「画像ファイルを開く」ダイアログが表示されます。（下図はサンプルです。）





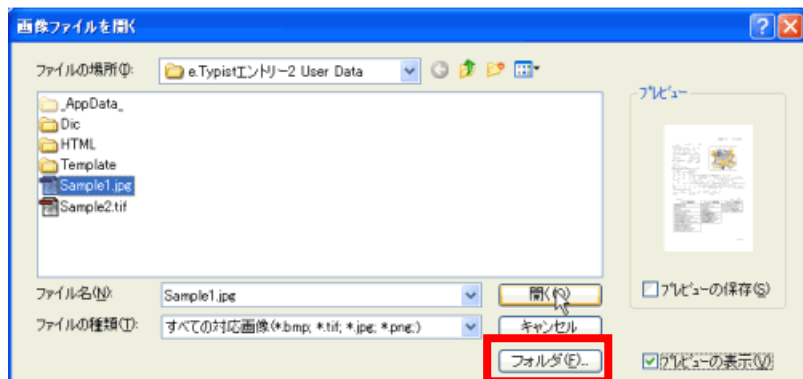
「プレビューの表示」にチェックを付けますと、選択した画像のプレビュー表示が確認できます。また、「プレビューの保存」にチェックを付けますと、次にこの画像ファイルを選んだ際、プレビューの表示速度が速くなります。

- 3 画像を選択して「開く」をクリックします。
複数のデータを選択する場合は、「Shift」キー、あるいは、「Ctrl」キーを押しながら選択してください。
- 4 画像ファイルが読み込まれ、画像ウィンドウに表示されます。

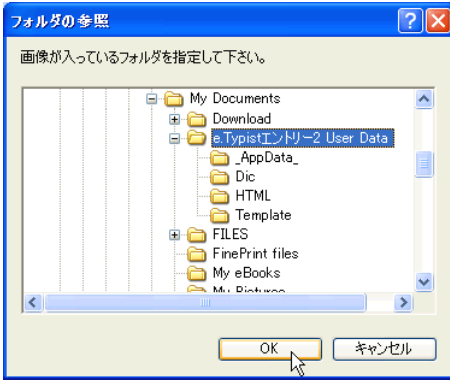
● 画像ファイルを一括で読み込む

フォルダに保存された画像ファイルを一括で読み込むことができます。

- 1 「画像ファイルを開く」ダイアログで「フォルダ」をクリックします。



- 2** 「フォルダの参照」ダイアログが表示されます。
(下図はサンプルです。)



- 3** 画像が保存されているフォルダを選択して「OK」をクリックしますと、そのフォルダ内の画像がすべて読み込まれます。

第3章 「スキャナ取り込み」と 画像ウィンドウ

e. Typist の「スキャナ取り込み」と画像ウィンドウのツールバーについて説明しています。

3-1 「スキャナ取り込み」

スキャナメーカーの TWAIN が出力する画面の指示に従ってスキャンして下さい。

「スキャナ取り込み」画面とその操作手順は各スキャナメーカー様により相違があります。
各スキャナメーカーの TWAIN パネルの指定に従って操作して下さい。

(詳細はスキャナ付属の説明書をご覧ください)



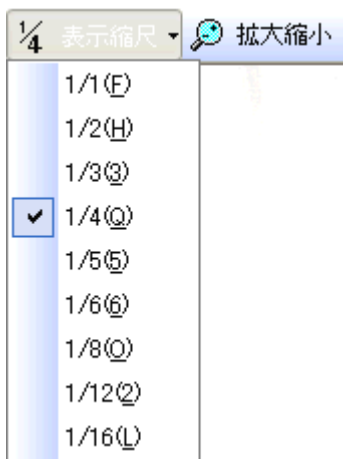
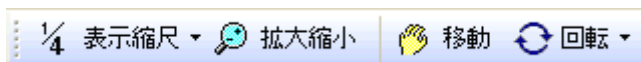
スキャナの解像度は 300～600dpi でスキャンすると、文字認識に適した画像となります。

3-2 画像ウィンドウ

画像ウィンドウは、スキャナやファイルから読み込んだ画像データを表示します。画像ウィンドウには、認識範囲を設定する「範囲設定」モードと、画像を修正する「画像修正」モードがあり、目的の作業に合わせてモードを切り替えて使用します。



3-2-1 画像ウィンドウの共通ツール



「表示縮尺」

画像ウィンドウに表示される画像データの縮尺を指定します。クリックしますとポップアップリストが表示されます。縮尺は「1/16」から「1/1」まで選択できます。

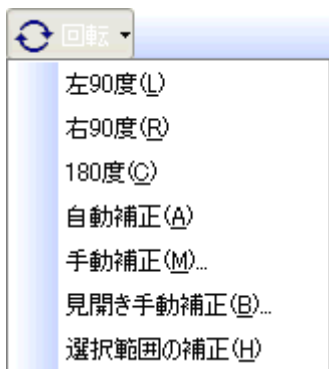
「拡大縮小」

同様に画像ウィンドウ内の表示縮尺を変更します。選択しますとカーソルが「虫めがね」に変わります。画像データ上でマウスの左ボタンをクリックしますと画像が拡大、右ボタンをクリックしますと画像が縮小されます。



「移動」

画像ウィンドウに表示しきれない画像データをドラッグして表示できるように移動させます。画像データ全体が表示されている状態では移動できません。ツールを選択しますとカーソルの形状が「握りこぶし」に変わります。そのまま画像ウィンドウ内でドラッグしてください。



「回転」

画像ウィンドウ内で、画像データを回転させて向きを補正します。
また、画像データの傾きの補正もできます。

「回転」をクリックしますとポップアップメニューが表示されます。

<左 90 度>

画像データを左へ 90° 回転します。

<右 90 度>

画像データを右へ 90° 回転します。

<180 度>

画像データを 180° 回転します。

<自動補正>

画像の傾きを検出して、水平に自動補正します。補正できる角度は最大 ±20° です。

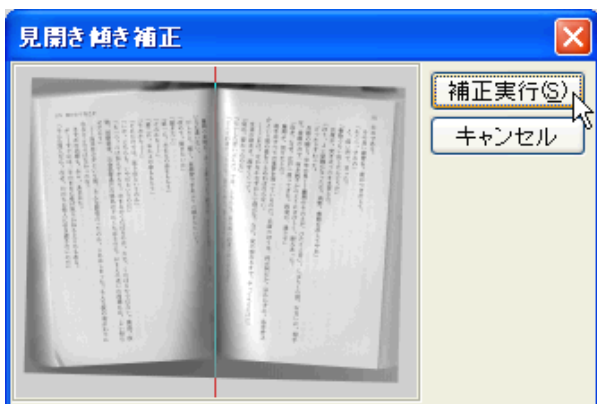
<手動補正>

画像の傾きを手動で補正します。

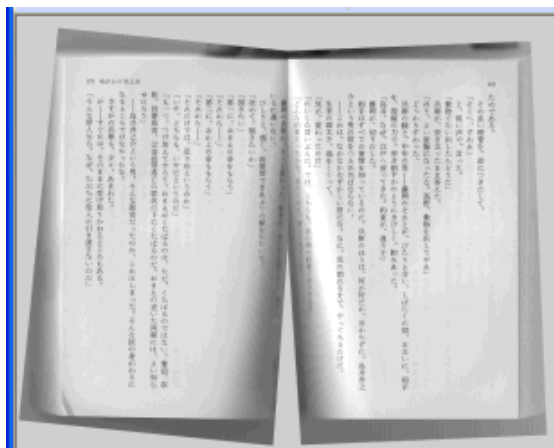
<見開き手動補正>

書籍などを見開きでスキャンする場合、綴りの厚みなどが原因で左右のページが傾いていることがあります。そのようなときに見開きの中心線を基準にして傾きを補正するツールです。

- 1 「見開き手動補正」を選択しますと、「見開き傾き補正」ダイアログが表示されます。



- 2 ダイアログ内に赤色の見開き中心線が表示されます。
中心線と画像がずれているときは、カーソルで中心線を見開きページの中心にあわせませす。
- 3 「補正実行」をクリックしますと、左右の見開きページがそれぞれ水平に補正されます。



<選択範囲の補正>

画像の選択領域だけを水平に補正します。実行する前に「範囲設定」モードを「画像修正」モードに切り替えて、「範囲選択」をクリックした状態で補正する領域を選択してください。

3-2-2 「範囲設定」モードのツール



「範囲設定」

範囲を設定して、認識枠を作成します。

画像データ上でカーソルをドラッグして囲むと認識枠が作成されます。



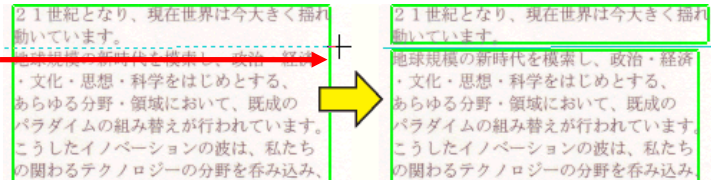
「削除範囲設定」

(1) 「削除範囲設定」については、次項の「セパレータ挿入」をお読みください。

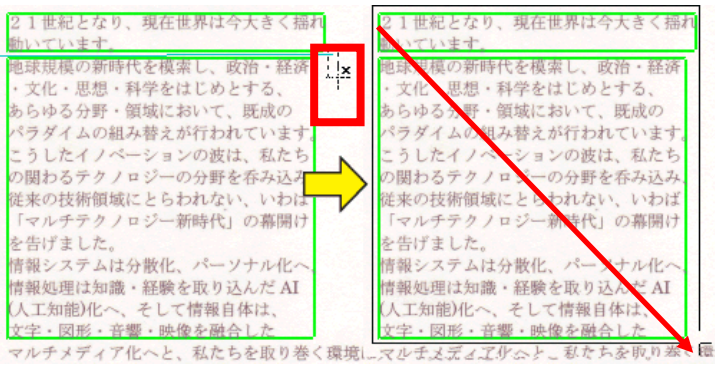


「セパレータ挿入 (補助線設定)」

認識枠を作成したのち、「セパレータ挿入」を選択して、認識枠を分割する位置でカーソルをドラッグして線 (セパレータ) を引きますと認識枠が分割されます。

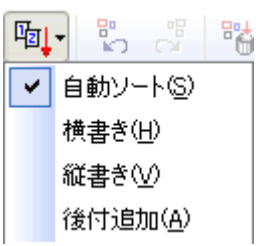


分割した認識枠を一つに戻すには、まずセパレータの線を削除します。「削除範囲設定」を選択し、カーソルで線 (セパレータ) の一部を囲みます。次に「範囲設定」を選択し、全体を囲むようにドラッグしますと認識枠が一つに戻ります。



「認識順序変更」

認識処理の順番を変更します。
 アイコンをクリックしますと、認識枠の左上コーナーに認識順序を示す番号が表示されますので、認識させたい順番に認識枠をクリックします。変更した状態でもう一度アイコンをクリックしますと変更が確定します。



「レイアウト枠のソート」

レイアウト枠（認識枠）の順番をソート（並び替え）します。ポップアップから処理を選択します。

<自動ソート>

通常は「自動ソート」に設定してください（初期設定）。
 e.Typist が認識枠を解析して自動的に番号がふられます。

<横書き>

横書き原稿の場合に選択します。
 横書きで多段組の文章などの場合、原稿の左上から始まって右下の方向に認識順序がソートされます。

<縦書き>

縦書き原稿の場合に選択します。
 縦書きで多段組の文章などの場合、原稿の右上から始まって左下の方向に認識順序がソートされます。

<後付追加>

認識枠を追加作成した順に後付けで番号が付きま。



「レイアウトを元に戻す」

認識枠を追加、削除した場合などで1つ前の状態に戻します。



「レイアウトのやり直し」

前項の「レイアウトを元に戻す」ツールを使って変更や修正を元に戻した場合、このアイコンをクリックしますと、再度、処理をやり直すことができます。



「レイアウト取消」

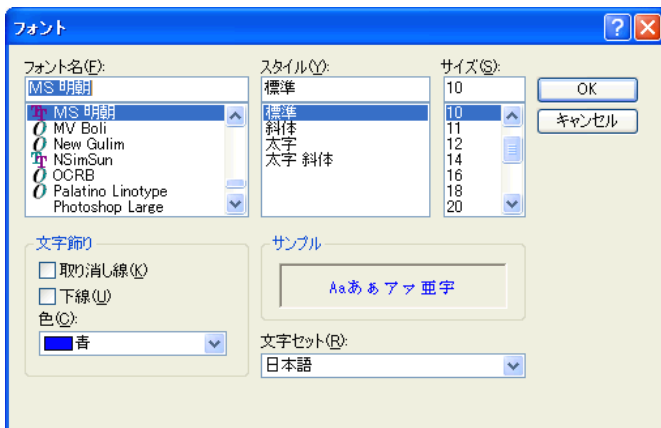
現在設定されている認識枠をすべて削除します。



「重ね合わせフォントの設定」

認識結果を画像ウィンドウに表示する場合のフォントを指定します(画像ウィンドウに表示する方法については、65 ページの「テキストを画像ウィンドウに表示」をお読みください)。

アイコンをクリックしますと「フォント」ダイアログが表示されます。「フォント名」、「スタイル」、「サイズ」等が設定できます。



「セル番号表示」

レイアウト解析で表領域として判定された認識枠で、表組のセルに番号を表示します。

レイアウト解析後にアイコンをクリックしますと、セルの番号(行と列の番号)が表示されます。

もう一度アイコンをクリックしますとセル番号が消えます。

1:1	パッケージ関連商品	1:2	レビュー
2:1	WinReader PRO	2:2	Form OCF
3:1	MacReader PRO	3:2	WinReader
4:1	e Typist	4:2	FAX OCR



「認識領域番号表示」

認識枠上に認識枠番号、領域種別、認識言語、段組の設定を表示します。もう一度アイコンをクリックしますと認識枠上の表示が消えます。



「取消」

直前の処理内容を取り消して、元の状態に戻します。取り消しできない処理の場合はグレーの表示になり、選択することができません。

3-2-3 「画像修正」モードのツール

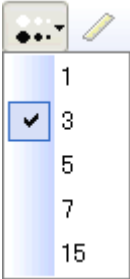


3



「範囲選択」

画像データ上でカーソルをドラッグして範囲を選択します。
選択した範囲は青色で表示されます。
選択した範囲は移動したり、キーボードの [Delete] キーで削除できます。



「線の太さ」

次項の「直線描画」と「消しゴム」で、それぞれのツールのサイズ（太さ）を指定します。
ポップアップリストからポイント数を選択します。



「直線描画」

画像データ上に直線データを描き加えます。



「消しゴム」

消しゴムのように画像データを消すことができます。



「トリミング」

「範囲選択」ツールで範囲を選択してから「トリミング」をクリックしますと、選択した範囲の画像データだけを切り取って抜き出します。



「白黒に減色」

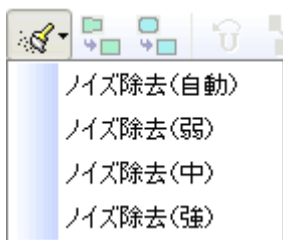
カラーの画像データを白黒に減色します。



「反転表示」

「範囲選択」ツールで選択した範囲の画像データを白黒反転表示させます。
白抜き文字などで表示を反転させて文字認識することができます。

「スキヤナ取り込み」パネルと画像ウィンドウ



「ノイズ除去」

画像データ全体についてのインクの汚れなど、ノイズ部分を除去します。

ポップアップリストに「ノイズ除去 (自動)」、「ノイズ除去 (弱)」、「ノイズ除去 (中)」、「ノイズ除去 (強)」が表示されますので、処理のレベル (強さ) を選択します。



「範囲選択」ツールで画像の範囲が指定されている場合は、その範囲だけノイズを除去します。



「取消」

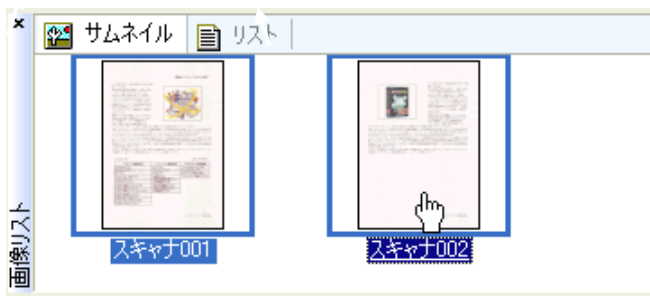
直前の修正を取り消して、前の状態に戻します。取り消しできない処理の場合はグレーの表示になり、選択することができません。



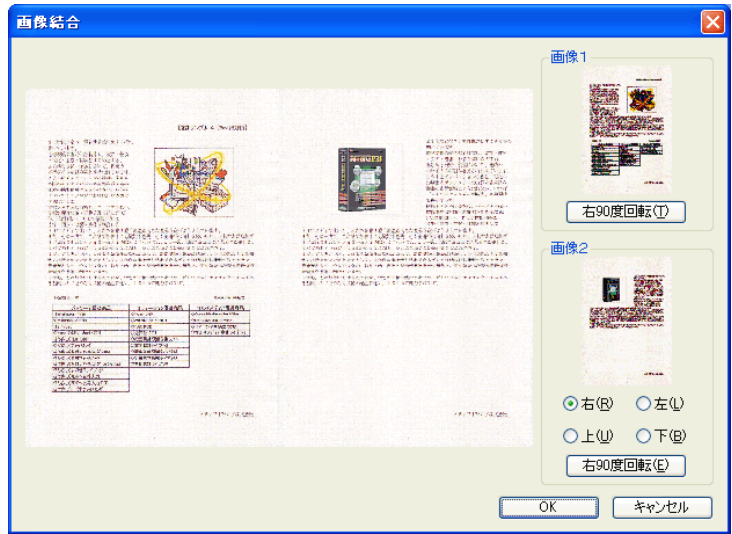
「画像結合」

画像リストに表示された2つの画像を結合させ、1つの画像として認識・保存する機能です。(本機能はWindows 2000/XP/Vista/7のみ有効)

- 1 画像リストで結合させたい画像を選択します。
キーボードの [Ctrl] キーを押しながら画像データをクリックしますと、2つの画像が選択された表示になります。

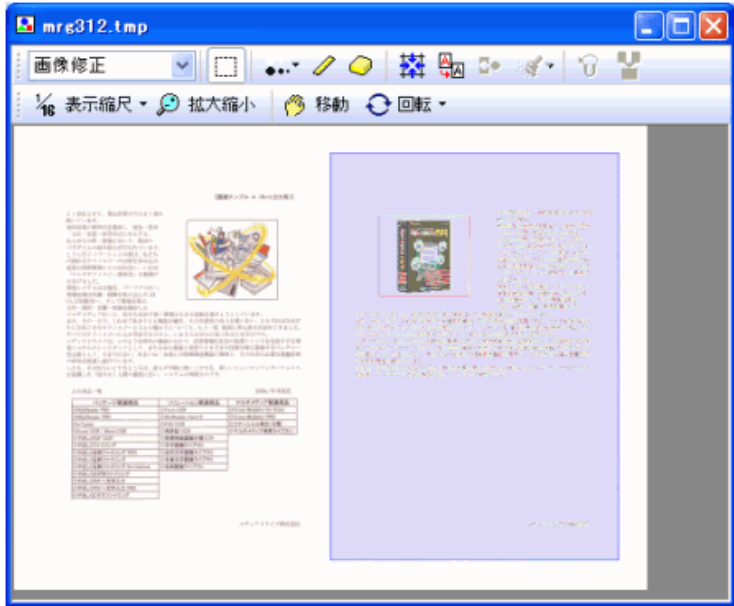


- 2** その状態で「画像結合」をクリックしますと、「画像結合」ダイアログが表示されます。



2つの画像はそれぞれに回転させることができます。
また、「画像2」の「右/左/上/下」を選択しますと、「画像1」を基準にして結合位置を変更できます。

- 3 ダイアログで結合の位置や方向を確認し、「OK」をクリックします。画像ウィンドウに結合の結果が表示されます。また、このとき「画像2」の領域が選択された状態になっていますので、マウスをドラッグするか、キーボードの矢印キーで結合位置の微調整が行えます。



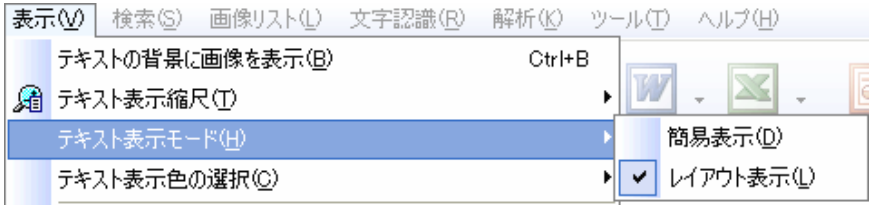
注意 同じ解像度 (dpi) の画像が結合対象になり、結合後の最大画像は A3 サイズまでとなります。

第4章 テキストの解析—修正

認識結果を解析する機能と修正方法について説明しています。

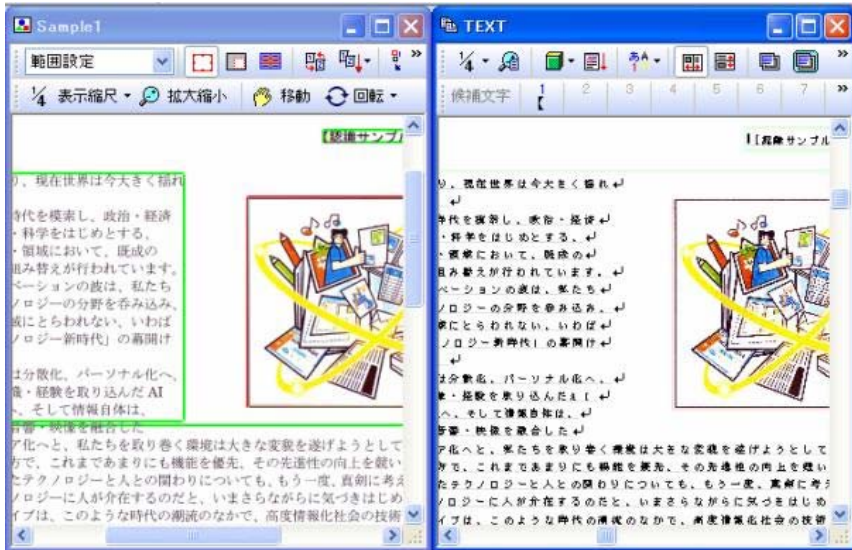
4-1 テキスト表示モードの選択

テキストウィンドウに認識結果を表示する際、「レイアウト表示」モード（初期設定）と「簡易表示」モードに切り替えて表示することができます。「表示」メニューの「テキスト表示モード」から選択してください。

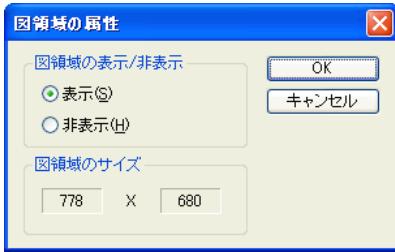


● レイアウト表示モード

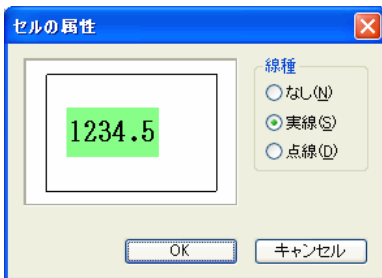
画像データのレイアウトと同じスタイルで、テキストウィンドウに表示されます。



レイアウト表示モードで、テキストウィンドウに表示された図（図領域として認識された部分）をマウスでダブルクリックしますと、図の表示／非表示が設定できます。



また、表領域の認識結果をダブルクリックしますと、現在表示されているセルの線種を変更することができます。



レイアウト表示モードでは次の制限があります。

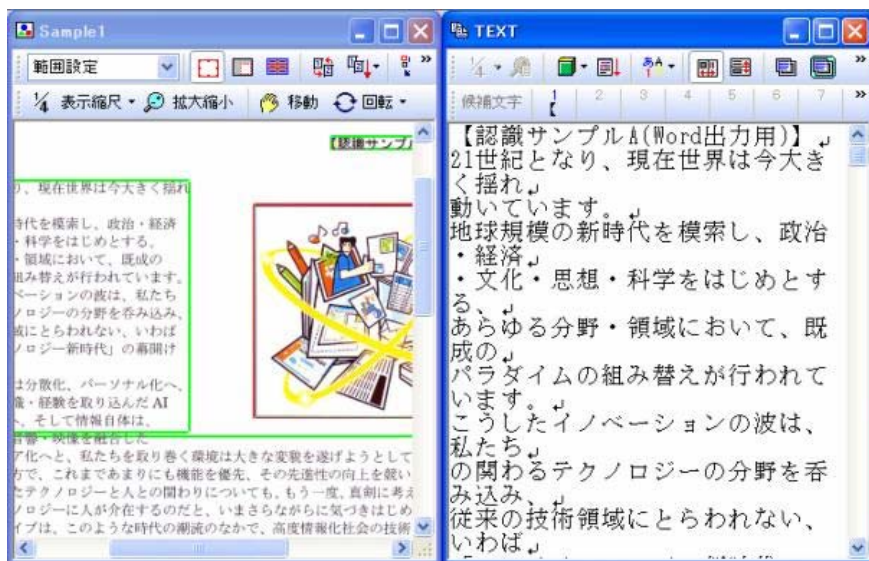
- ① フォントサイズの変更ができません
- ② 文字を追加・削除した場合は均等配置で表示されます。
- ③ ルビ文字を文章中に挿入する設定で認識した場合は、レイアウトを正しく再現できません。



日本語文書の認識結果で、空白スペースは□マークで表示されます。
また、英文の認識結果を表示する場合は、可変ピッチの欧文フォント (Arial や Times New Roman など) を設定してください。

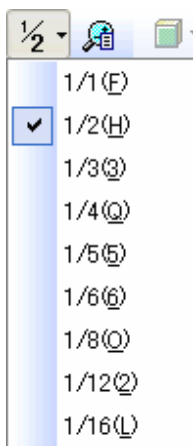
● 簡易表示モード

画像データのレイアウトは反映されず、認識結果のみがテキストウィンドウに表示されます。



4-2 テキストウィンドウのツールバー

テキストウィンドウのツールバーに表示された編集用ツールを使って、テキストの修正や編集の操作ができます。

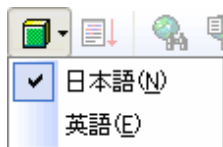


「縮尺設定」

テキストウィンドウで認識結果を表示する縮尺を設定します。
ポップアップで「1/1」から「1/16」まで変更できます。
（「表示」メニューの「テキスト表示モード」が「レイアウト表示」を選択している場合のみ有効）

「縮小拡大」

同様にテキストウィンドウ内の表示縮尺を変更します。
このツールを選択するとカーソルがルーペ状に変わります。テキストウィンドウにカーソルを置いてマウスの左ボタンをクリックすると拡大表示され、右ボタンをクリックすると縮小表示されます。
（「表示」メニューの「テキスト表示モード」が「レイアウト表示」を選択している場合のみ有効）



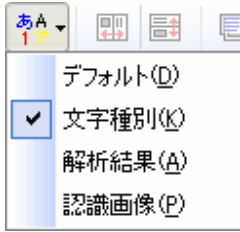
「解析辞書設定」

認識結果を解析する際に使用する解析辞書を設定します。
ポップアップで「日本語」または「英語」を選択します。



「全文解析」

このアイコンをクリックしますと、認識結果の全文を対象として解析処理がスタートします。



「テキスト表示色の選択」

認識結果の表示色を選択して設定することができます。

<デフォルト>

初期設定の文字色で表示されます。

⇒設定方法については、131ページの「フォント」をお読みください。

<文字種別>

文字種ごとに色付け表示します。

⇒設定方法については、132ページの「文字種別表示色」をお読みください。

<解析結果>

解析結果で色分けして表示されます。

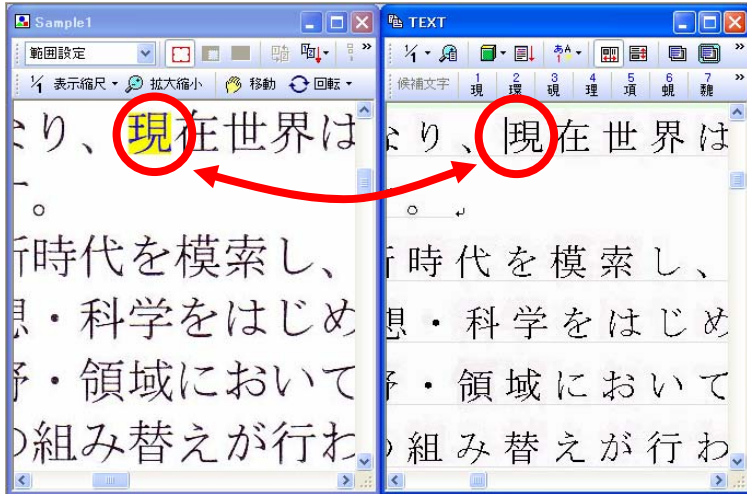
<認識画像>

カラーの画像から文字認識した場合に、元の画像と同じ色で文字が表示されます。



「左右シンクロ」

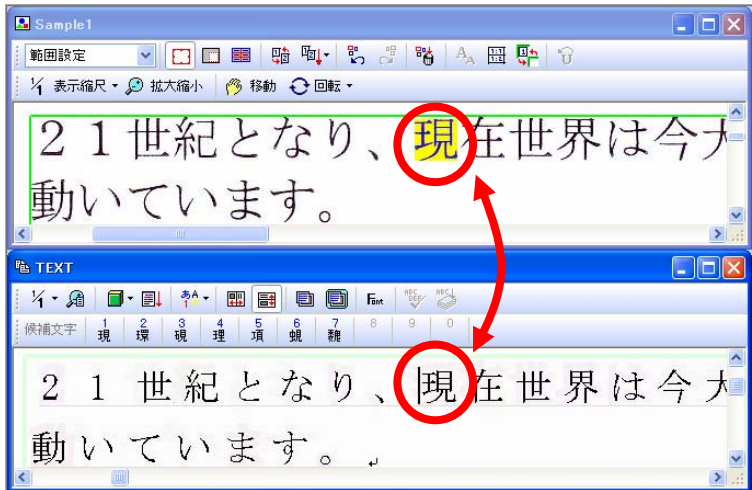
テキストウィンドウと画像ウィンドウが左右に並んで表示されます。同時に、認識結果の文字と画像ウィンドウのデータがシンクロ表示されます。





「上下シンクロ」

テキストウィンドウと画像ウィンドウが上下に並んで表示されます。同時に、認識結果の文字と画像ウィンドウのデータがシンクロ表示されます。

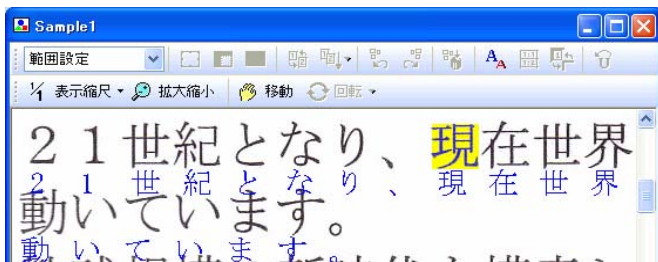


「テキストを画像ウィンドウに表示」

画像データ上に認識結果を表示します。再度クリックしますとテキストウィンドウでの表示に戻ります。

画像ウィンドウに表示されたテキストは、テキストウィンドウのテキストと同様に編集・修正することができます。

画像ウィンドウのツールバーから「重ね合わせフォントの設定」を選択しますと、画像データに表示されたテキストのフォントを変えることができます。

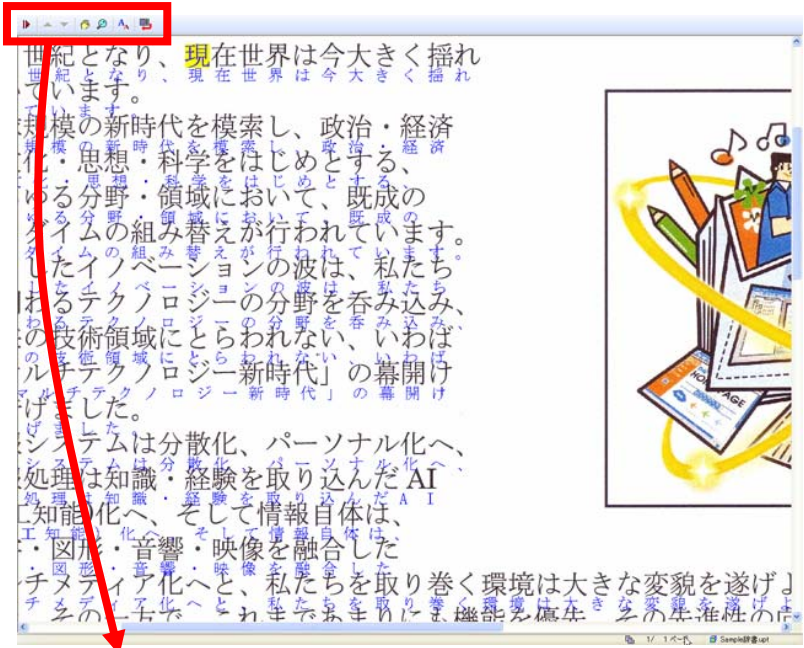


原稿内で行間が狭いところは、テキストが画像に重なって表示される場合があります。










「全画面表示でテキストを画像ウィンドウに表示」

画像データ上に認識結果を表示した状態でモニターの全画面に表示されます。



<「全画面表示」のツールバー>

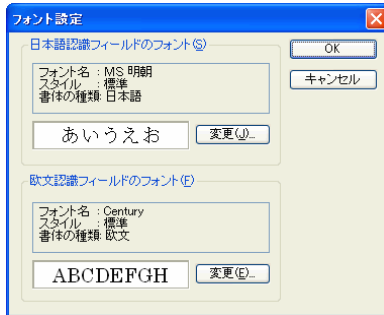
-  画像リストの表示
-  前画像へ
-  次画像へ
-  移動
-  縮小拡大
-  重ね合わせフォントの設定
-  通常画面表示に戻る

「表示フォント設定」

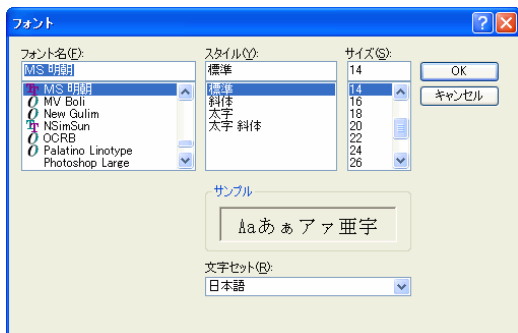
テキストウィンドウで表示する認識結果のフォントを設定します。

レイアウト表示モードの場合

日本語とそれ以外の辞書で認識されたフィールド毎にフォントを設定することができます。



簡易表示モードの場合



「置換リストで一括置換」

置換リストを使って認識結果を一括で置換します。

(置換リストにデータが登録されている場合のみ有効)

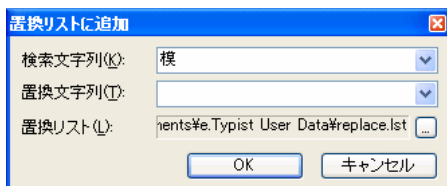
⇒詳細については、75ページの「置換リストで複数の語を置換」をお読みください。



「置換リストに追加」

認識結果の文字を置換リストに追加します。

- (1) カーソルで文字を選択し、「置換リストに追加」をクリックします。
- (2) 「置換リストに追加」ダイアログが表示され、「検索文字列」にカーソルで選択した文字が入力されています。



- (3) 置換する文字を「置換文字列」に入力して「OK」をクリックしますと、検索文字と置換文字が置換リストへ追加されます。



「候補文字表示」

カーソル位置の認識文字の候補文字が表示されます。

認識結果が誤っている場合は、マウスで文字をクリックするか、表示されている数字を「Ctrl」+「テンキー」で押しますと該当する文字が修正されます。

4-3 認識結果の解析

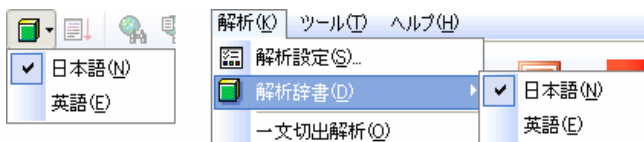
認識結果を解析して、誤認識と思われる文字を自動で見つけます。

4-3-1 解析の設定

1

初めに解析辞書を選択します。

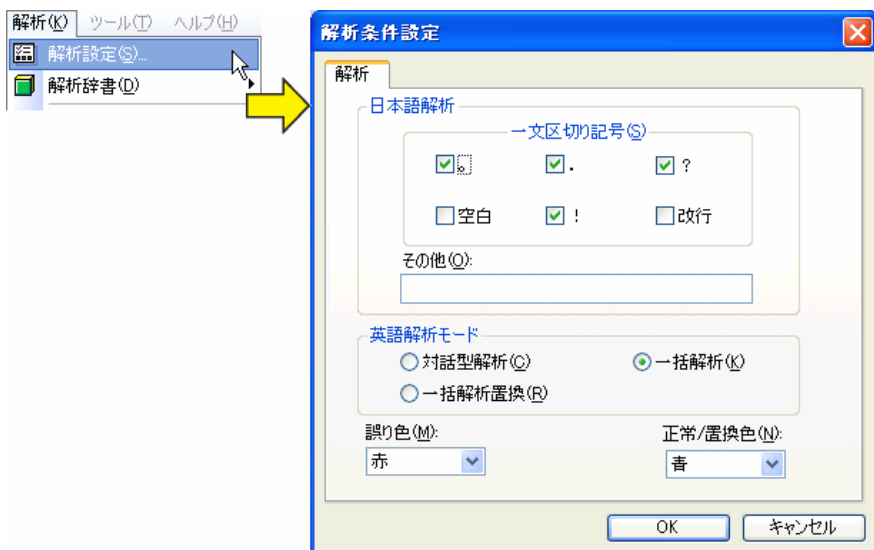
テキストウィンドウのツールバーで「解析辞書設定」をクリックして選択するか、または「解析」メニューの「解析辞書」から選択します。



2

認識結果を解析するための条件を設定します。

「解析」メニューの「解析設定」を選択しますと、「解析条件設定」ダイアログが表示されます。



●「日本語解析」の設定

認識結果を解析する際の「一文区切り記号」の文字を指定します。解析時は一文区切り記号の位置を文末と判断して解析します。一文が約200文字を越えてしまうと正しく解析できませんので「一文区切り記号」を設定しておく必要があります。

<一文区切り記号>

「一文区切り記号」に使用する記号にチェックを付けて選択します。

「。(読点)」、「. (ピリオド)」、「? (疑問符)」、「空白(スペース)」、「!(感嘆符)」、「改行 (リターンコード)」から複数選択できます。

「その他」には、上記以外の任意の全角記号をキーボードから入力して設定することができます。

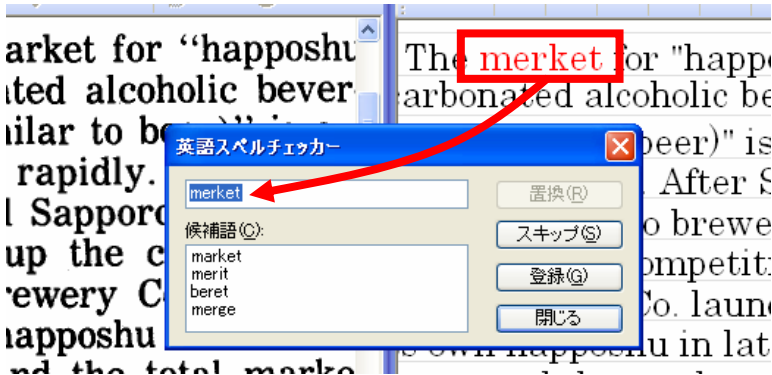
●「英語解析モード」の設定

英語の認識結果を解析する方法を設定します。

<対話型解析>

「対話型解析」を選択しますと、単語のスペルミスが検出されるたびに「英語スペルチェッカー」ダイアログが表示されます。

「候補語」のリストから正しい単語を選択するか、正しい文字をテキストボックスに入力して「置換」をクリックします。「スキップ」をクリックしますと修正せずに次の誤り単語に進みます。正しい文字を入力して「登録」をクリックしますと、その単語を英語解析辞書に登録します。



<一括解析>

「一括解析」を選択しますと、解析処理が一括で実行されます。

「英語スペルチェッカー」ダイアログは表示されません。

<一括解析置換>

「一括解析置換」を選択しますと、解析処理が一括して実行され、検出された誤り単語はプログラムが自動で判定した単語に置換されます。

● 誤り色、正常／置換色

解析の結果、誤って認識された文字と、正常に認識された文字／置換された文字（英語解析の場合）の表示色を設定します。
それぞれのプルダウンリストから色を選択します。

4-3-2 解析の実行

解析条件を設定した後、解析処理を実行します。

解析が終了すると誤認識と判定された文字が赤色で表示（初期設定の場合）されます。

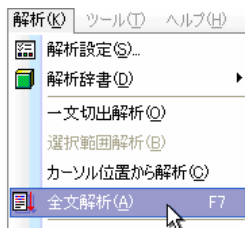


注意 解析機能は日本語、および英語の認識結果のみを対象としています。それ以外の言語については正しくチェックすることができません。

● 全文解析

テキストウィンドウのツールバーで「全文解析」をクリックします。あるいは「解析」メニューから「全文解析」を選択しクリックします。

テキストウィンドウに表示されている全文に対して解析処理が実行されます。



全文解析以外の解析方法については、「解析」メニューから選択して実行します。

● 一文切出解析

「解析」メニューから「一文切出解析」を選択します。

カーソルが置かれた位置の文章（「一文区切り記号」で区切られた文章）だけを切り出して解析します。

● 選択範囲解析

「解析」メニューから「選択範囲解析」を選択します。

カーソルで選択して反転表示させた範囲の文章だけを解析します。

● カーソル位置から解析

「解析」メニューから「カーソル位置から解析」を選択します。
カーソルが置かれた位置から文末までを解析します。



ヒント

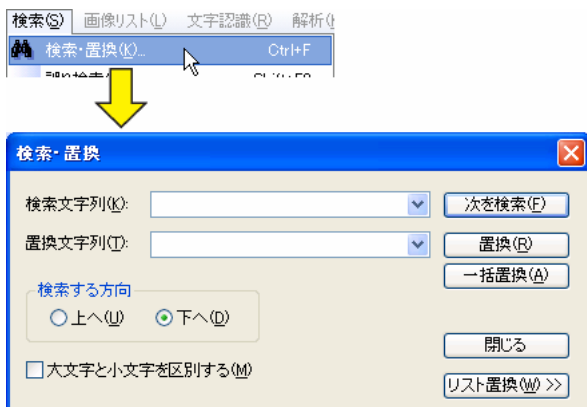
認識結果を解析すると、誤認識文字として検出された場合でも、実際には文字の前後に誤りのある場合があります。

また、日本語、英語解析辞書を参照して文脈を解析するため、正しく文字認識された文字（英単語）も、解析辞書に登録されていない場合は「誤り」として検出されます。このような場合は、解析辞書に文字を登録することで、次回から誤り文字として検出されなくなります（登録方法については、e.Typist のヘルプをお読みください）。


4-4 「検索・置換」でテキストを修正

同じ誤り文字（単語）が認識結果に繰り返し出現する場合に、検索と置換機能を使用して一括修正することができます。

- 1 テキストウィンドウをクリックしてアクティブにします。
- 2 「検索」メニューから「検索・置換」を選択しますと、「検索・置換」ダイアログが表示されます。



- 3 検索を行う場合、「検索文字列」へ文字を入力し、「次を検索」をクリックします。検索文字が検出されると、その文字が反転して表示されます。
- 4 さらに「次を検索」をクリックしますと続けて検索することができます。

注意  検索対象となるのは、テキストウィンドウに表示されているページの認識結果になります。また、2行にわたる文字の検索・置換はできません。

4-4-1 「検索・置換」ダイアログの設定

<検索文字列>

検索する文字を入力します。



カーソルでテキストウィンドウ内の文字を選択した状態で「検索・置換」ダイアログを表示させますと、選択した文字が自動的に「検索文字列」欄に入力されます。

<置換文字列>

置換する文字を入力します。

<検索する方向>

テキストを検索する方向を設定します。

「上へ」

カーソルを置いた位置からテキストの上（文頭）に向けて検索します。

「下へ」

カーソルを置いた位置からテキストの下（文末）に向けて検索します。

<大文字と小文字を区別する>

英語のテキストを検索する際のオプションです。

チェックを付けると大文字／小文字が区別されます。

<次を検索>

カーソル位置から検索処理を行います。

<置換>

検出された検索文字を置換文字列に置き換えます。

「置換文字列」に何も入力されていない場合は検索された文字が削除されます。

<一括置換>

検出された検索文字を置換文字に一括で置き換えます。

<リスト置換>

置換リストが表示されます。

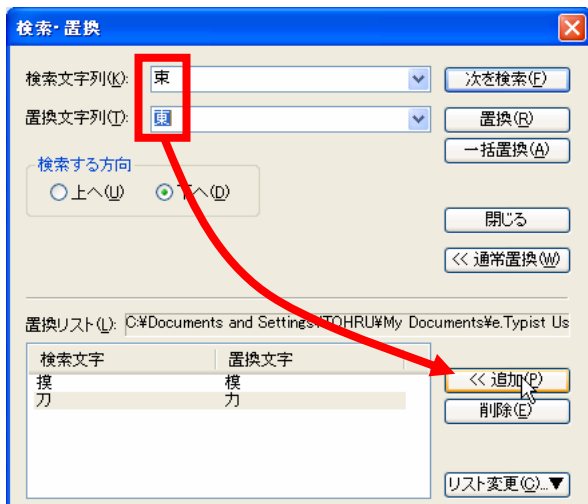
「通常置換」をクリックしますと「置換リスト」が閉じます。

⇒置換リストの詳細については、次ページをお読みください。

4-4-2 置換リストで複数の語を置換

前項で説明した「検索・置換」ダイアログの「置換リスト」に検索文字と置換文字を登録しますと、複数の文字を一括して置換することができます。

- 1 「検索・置換」ダイアログで「リスト置換」をクリックして「置換リスト」を表示します。
- 2 「検索文字列」と「置換文字列」に文字を入力して「追加」をクリックしますと、置換リストに「検索文字」と「置換文字」が追加されます（最大100組）。



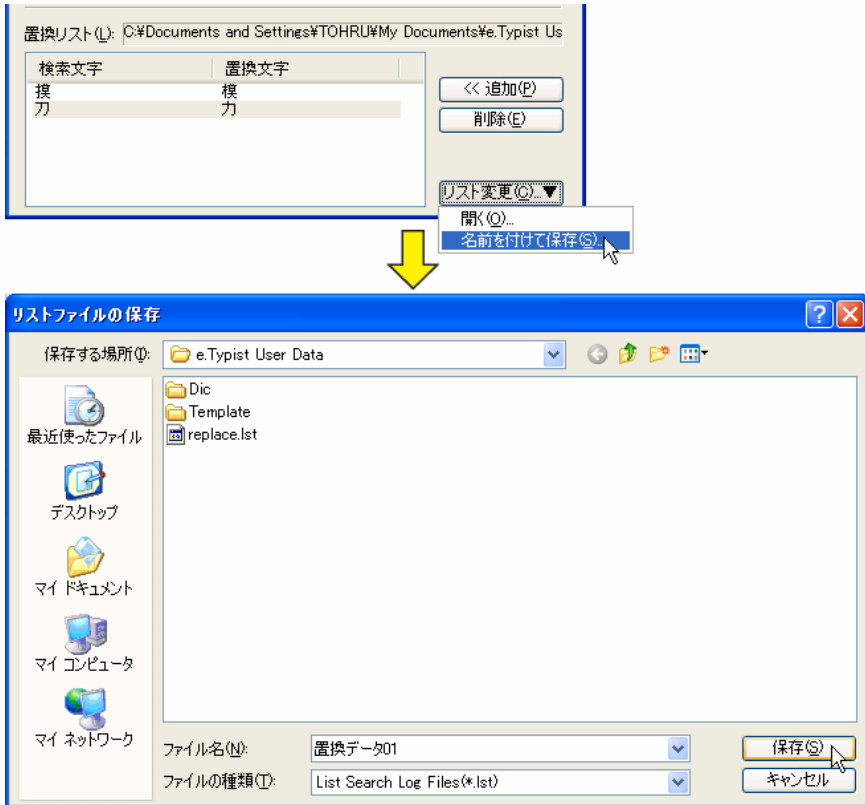
- 3 置換リストに登録したデータをマウスでドラッグすると、指定先の項目の下に移動することができます。また、登録したデータを削除する場合は、削除したいリストをカーソルで選んで反転表示させ、「削除」をクリックします。
- 4 置換リストを表示した状態で、「次を検索」、「置換」、「一括置換」を実行しますと、置換リストに登録された検索文字と置換文字が適用されます。

4-4-3 置換リストの保存と読み込み

置換リストはファイルに保存して、後から読み込んで使用することができます。

<置換リストの保存>

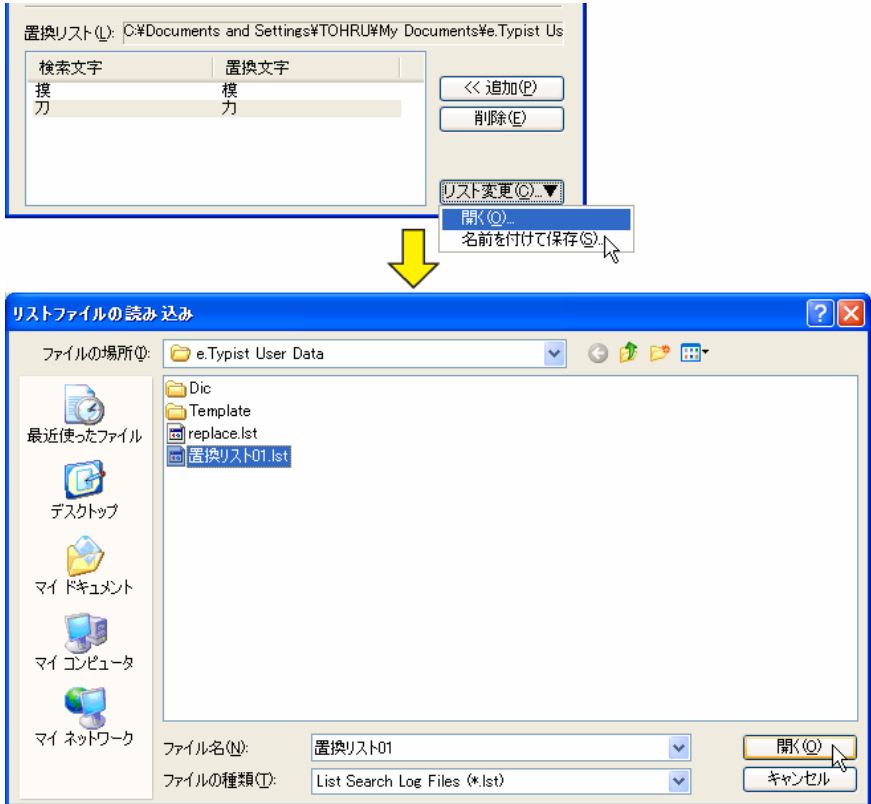
置換リストの「リスト変更」をクリックして「名前を付けて保存」を選択します。表示された「リストファイルの保存」ダイアログで、フォルダを指定し、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。



<置換リストの読み込み>

置換リストの「リスト変更」をクリックして「開く」を選択します。

表示された「リストファイルの読み込み」ダイアログで、置換リストファイル (*.lst) を選択して「開く」をクリックします。



4-5 「候補文字」でテキストを修正

「候補文字」を使って認識結果を修正することができます。



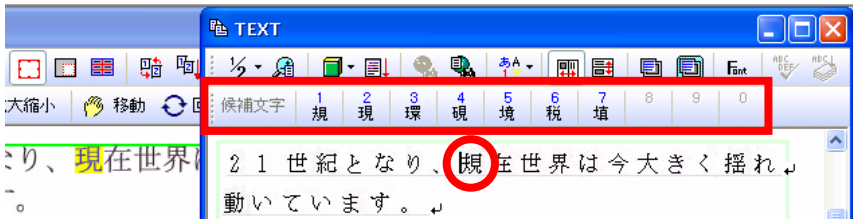
e. Typistは画像イメージに基づいて文字コードを決定する仕組みを採用しています。文字認識の結果、候補となる文字コードの中から画像イメージに最も近似した文字コードをテキストウィンドウに表示します。テキストとして決定された文字コード以外が「候補文字」となります。



候補文字のデータは、文字認識または解析した直後の日本語テキストだけに含まれます。キーボードから直接入力した文字や置換した文字には含まれません。

4-5-1 候補文字で修正

- 1 文字認識または解析をしたのち、テキストウィンドウで文字にカーソルを置きますと、ツールバーに候補文字が表示されます。あるいは、テキストウィンドウに表示されている文字を、マウスの右ボタンでクリックすると候補文字リストが表示されます。

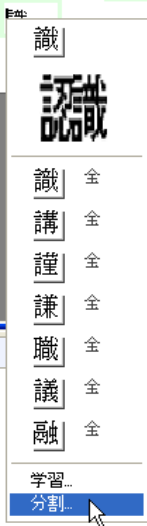


- 2 ツールバー上の候補文字をマウスでクリックするか、あるいは、候補文字リストから正しい文字を選択します。
テキストウィンドウの文字が選択された文字に置き換わります。

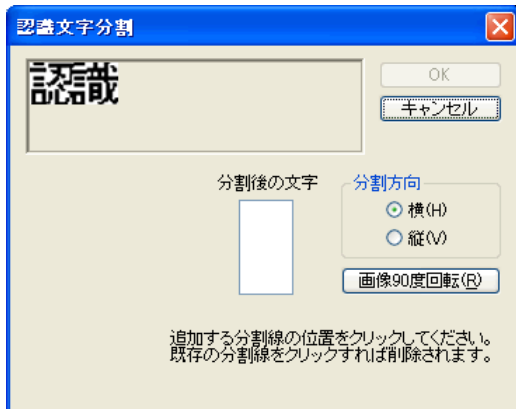
4-5-2 候補文字を分割して修正

複数の文字として認識されるべき文字画像が1文字として認識された場合に、それを手動で分割して再認識することができます。

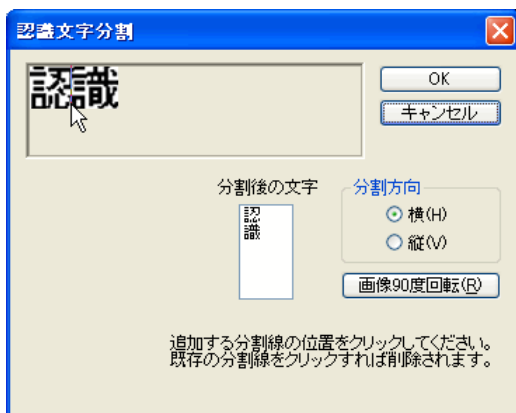
- 1 テキストウィンドウで、認識結果として出力された文字にカーソルを置いて（あるいは、選択して）、マウスの右ボタンをクリックします。
- 2 候補文字リストの下にある「分割」を選択します。



3 「認識文字分割」ダイアログが表示されます。



4 「分割方向」にチェックを付けて、文字画像上の分割する位置でマウスをクリックします。文字画像の向きが正しくない場合は「画像90度回転」ボタンをクリックして正しい方向にしてから分割してください。また、分割線を削除する場合は同じ位置を再度クリックしてください。



5 分割位置で再認識が実行され、「分割後の文字」欄に結果が表示されます。「OK」をクリックするとテキストウィンドウ上の文字が変更されます。

第5章 文字パターン学習辞書

「文字パターン学習辞書」の活用方法について説明しています。

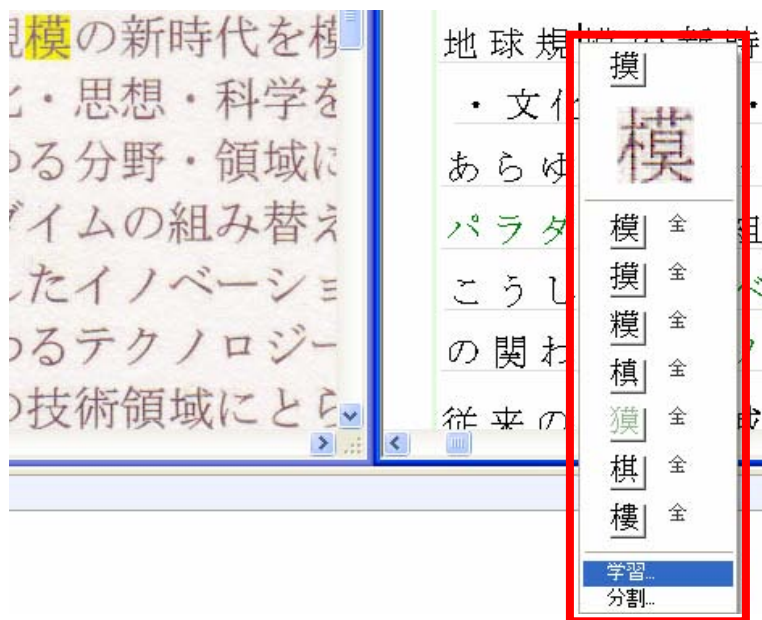
5-1 「文字パターン学習辞書」への登録

文字画像と正しい文字の組み合わせを「文字パターン学習辞書」に登録します。辞書に登録しますと、学習機能により同じ文字画像を認識する際に登録した文字が適用されます。（※なお、画像データの状態によっては登録した文字が優先されないことがあります。）



文字パターン学習辞書は日本語認識時のみ有効です。1つの文字パターン学習辞書に登録できる文字の数は約1000個です。

- 1 テキストウィンドウの認識結果として出力された文字にカーソルを置いて、マウスの右ボタンをクリックします。



- 2 候補文字リストの下にある「学習」を選択しますと、「文字パターン辞書登録」ダイアログが表示されます。



「学習辞書」

使用する学習辞書の保存先フォルダとファイル名が表示されます。「辞書変更」をクリックしますと、別に登録されている辞書に変更することができます。

「登録数」

登録されている文字の数が表示されます。

「登録文字」

登録する文字の画像イメージが表示されます。

「文字」

文字認識で採用される正しい文字を入力します。

- 3 「文字」欄にキーボードから正しい文字（全角1文字）を入力して「登録」をクリックします。
学習辞書への登録が完了し、テキストウィンドウの結果が正しい文字に置き換えられます。

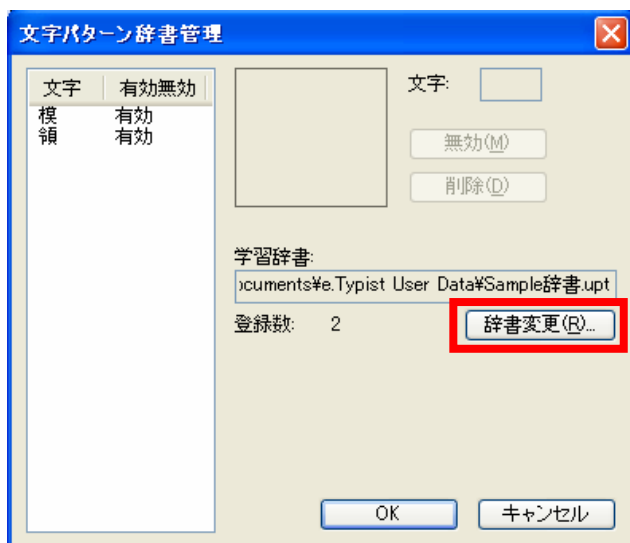
5-2 「文字パターン学習辞書」の新規作成

e.Typist に組み込まれたデフォルトの「文字パターン学習辞書」は「USRDATE2.UPT」という名称ですが、ユーザーが新規に辞書を作成して登録することができます。

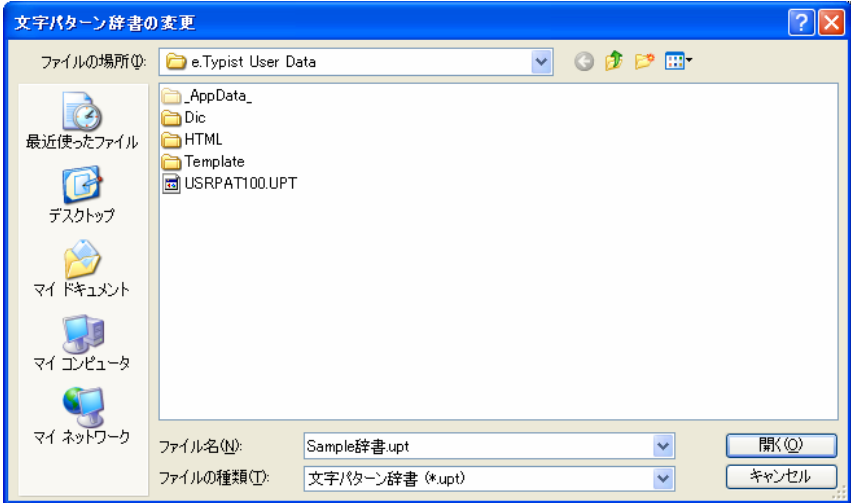


複数の「文字パターン学習辞書」を作成できますが、一度の認識処理に使用できる辞書は1つだけです。

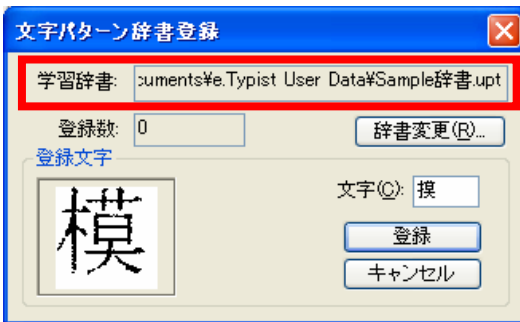
- 1 「文字認識」メニューにある「文字パターン辞書管理」を選択します。
- 2 「文字パターン辞書管理」ダイアログで「辞書変更」をクリックします。



- 3 「文字パターン辞書の変更」ダイアログで「ファイル名」に、新しく作成する「文字パターン学習辞書」の名称をキーボードから入力し、「開く」をクリックします。



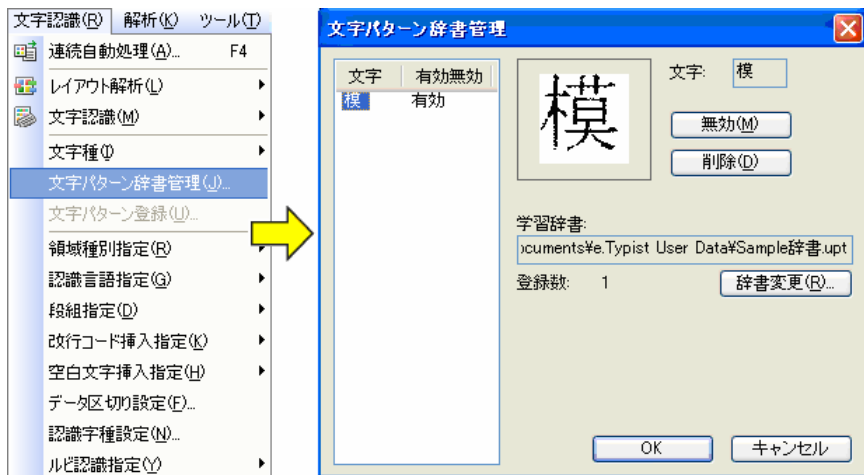
- 4 以上の操作で「文字パターン学習辞書」が作成され、ダイアログの「学習辞書」に新しい辞書が表示されます。



5-3 「文字パターン学習辞書」の登録内容

「文字パターン学習辞書」の登録内容を確認します。

- 1 「文字認識」メニューの「文字パターン辞書管理」を選択しますと、「文字パターン辞書管理」ダイアログが表示されます。



- 2 学習辞書に登録されている内容が表示されます。
「文字」リストの文字をクリックして反転表示させますと、登録した文字画像データが表示されます。上図は「Sample 辞書.upt」に「模」という文字コードが登録されている例です。

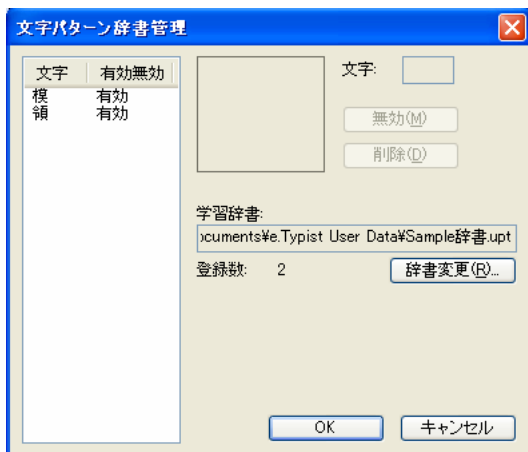


他の辞書の登録内容を確認する場合は、「辞書変更」をクリックして辞書ファイルを変更してください。

5-4 文字認識に適用する文字

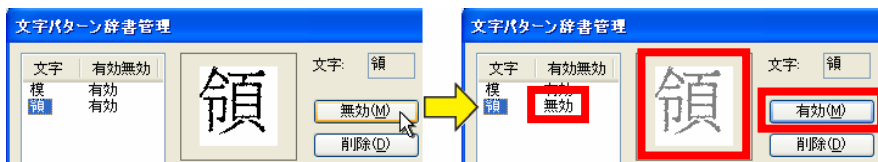
「文字パターン学習辞書」に登録した文字のうち、認識処理に適用させる文字（＝有効）と適用させない文字（＝無効）を切り替えて設定することができます。

- 1 「文字認識」メニューから「文字パターン辞書管理」を選択して、「文字パターン辞書管理」ダイアログを表示します。登録された文字パターンの一覧が表示されます。



上図の例では、「Sample 辞書.upt」に2つの文字が登録されており、「有効無効」の欄はすべて「有効」となっています。「有効」と表示された文字は認識処理に適用されます。

- 2 文字を認識処理に使用しない場合には「有効」を「無効」に切り替えます。「文字」のリストから無効にする文字を選択して反転表示させ、「無効」をクリックします。



- 3 文字イメージの表示がグレー色になり、「有効無効」欄の表示が「有効」から「無効」に変わります。また、ボタンに表記された「無効」が「有効」に変わります。

4 「無効」に設定した文字を「有効」に戻すには、文字を再度選択して反転表示し、「有効」をクリックします。

5 設定が完了しましたら、「OK」をクリックしてダイアログを閉じます。



注意 登録した文字を辞書から削除する場合は、文字を選択して「削除」をクリックしてください。

第6章 活用のヒント

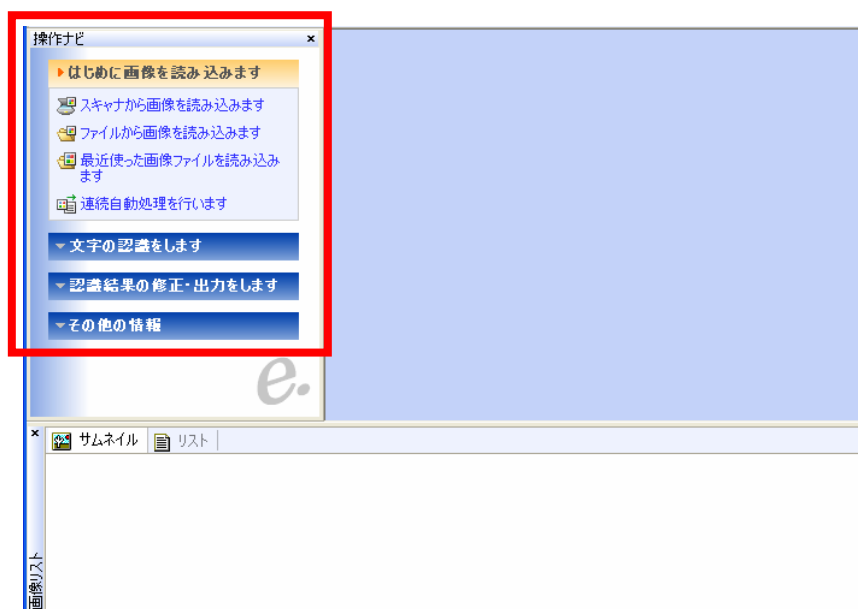
e. TypistのOCR機能を活用するためのヒントを説明しています。

6-1 操作ナビ

e.Typist を起動しますと「操作ナビ」が表示されます。

「操作ナビ」は e.Typist の操作の進捗に応じて表示を切り替え、目的のデータ作成までをナビゲートする機能です。e.Typist の操作に慣れていない方は、この機能を活用されることをお勧めします。

- 1 e.Typist に画像が読み込まれていない状態では「はじめに画像を読み込みます」というパネルが表示されます。画像を読み取る方法を選択してクリックします。



「スキャナから画像を読み込みます」

「スキャナ取り込み」パネルが表示されますのでスキャンを実行します。スキャナの選択が完了していない場合は「スキャナドライバの選択」ダイアログが表示されますので、スキャナドライバを選択して「OK」をクリックしてください。

「ファイルから画像を読み込みます」

「画像ファイルを開く」ダイアログが表示されますので、読み込む画像ファイルを選択します。

「最近使った画像ファイルを読み込みます」

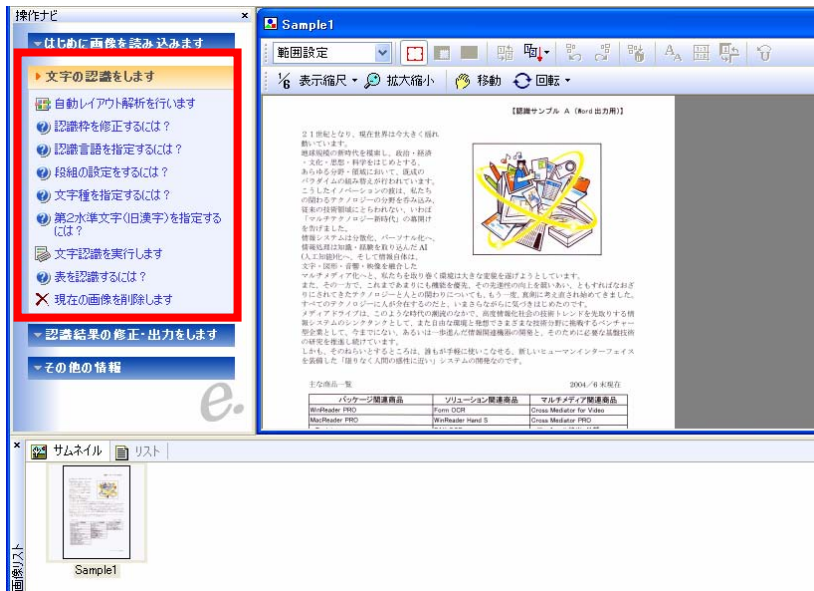
最近読み込んだ画像のファイル名が表示されます（最大5個）。表示されたファイル名を選択してください。

「連続自動処理を行います」

画像の読み込みから、認識・保存までの操作を連続して実行します。
⇒94 ページの「連続自動処理」をお読みください。

2

画像ファイルが読み込まれますと自動でパネルが切り替わり、「文字の認識をします」が自動で開きます。



6 活用のヒント

「自動レイアウト解析を行います」

画像ファイルを解析し、認識枠を自動で作成します。

「文字認識を実行します」

文字認識を実行します。認識された結果はテキストウィンドウに表示されます。

「現在の画像を削除します」

現在画像ウィンドウに表示されている画像を閉じ、画像リストから削除しま

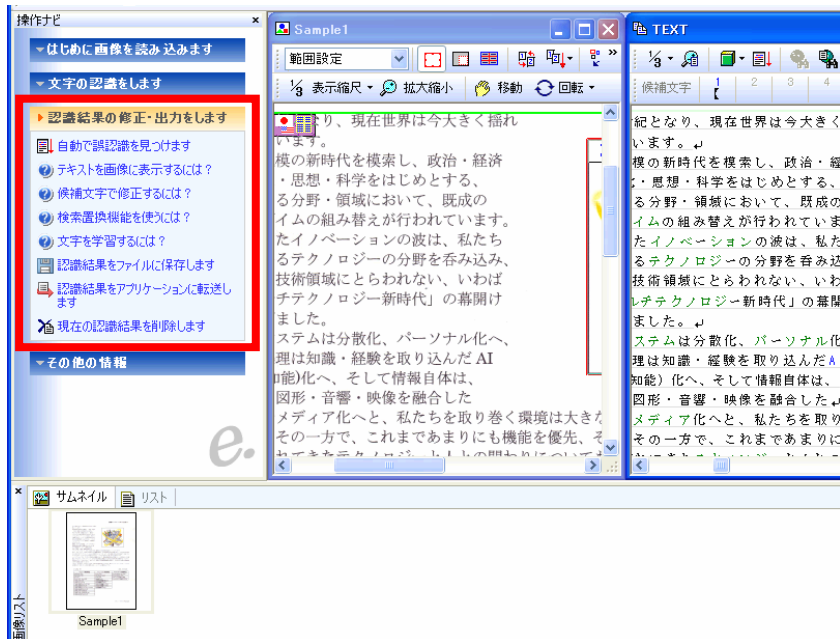
す。



マークのついた項目をクリックしますと、e.Typist のヘルプが開いて機能の説明を表示します。

3

文字認識が実行されますと自動でパネルが切り替わり、「認識結果の修正・出力をします」が自動で開きます。



「自動で誤認識を見つけます」

e.Typist の解析辞書を使って全文を解析します。

「認識結果をファイルに保存します」

認識結果に名前を付けてファイルに保存します。

「認識結果をアプリケーションに転送します」

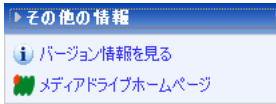
認識結果を選択したアプリケーションに転送します。表示されたサブメニューから転送先アプリケーションを選択してください。

「現在の認識結果を削除します」

現在表示されているテキストウィンドウを閉じ、認識結果を削除します。

4

「その他の情報」からは、お使いの e.Typist に関連する情報が表示できます。マウスでクリックしてパネルを開いてください。



「バージョン情報を見る」

お使いの e.Typist のバージョンを表示します。

「メディアドライブホームページ」

インターネットのブラウザを起動して、メディアドライブのホームページを表示します。(お使いのパソコンがインターネットに接続できる環境が必要)

6-2 自動処理

6-2-1 連続自動処理

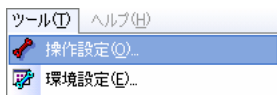
連続自動処理とは、画像の読み込みから、文字認識、認識結果の保存までを自動的に処理する機能です。一度連続自動処理の設定をしますと、次回からは設定をやり直す必要がないので、作業の効率を上げることができます。



連続自動処理で一括して処理できる原稿は最大 500 枚です。

1 最初に連続自動処理の設定をします。

「ツール」メニューから「操作設定」を選択して「操作設定」パネルを開きます。



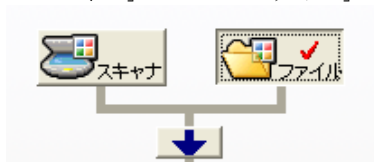
2 「連続自動処理」タブで、画像の取り込み方法と、オート処理をどの操作で停止するかを設定します。



⇒ 画像読み込み時の設定は、「操作設定」パネルの「スキャナ」タブ、「ファイル読込」タブで設定します。レイアウト解析、文字認識時の設定は「レイアウト」

タブ、「認識」タブで設定します。認識結果の保存時の設定は「ファイル保存」タブで設定します。設定については、117 ページの『「操作設定」パネル』をお読みください。

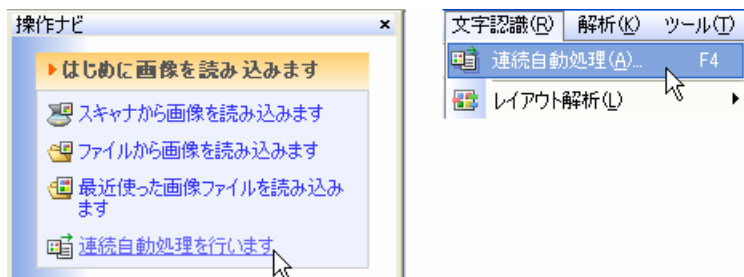
- 3** 画像の読み込み方法を選択します。
「スキャナ」または「ファイル」のボタンを押してください。



- 4** オート処理を停止させる位置にある「矢印」ボタンを押します。
矢印のボタンが「停止」になります。



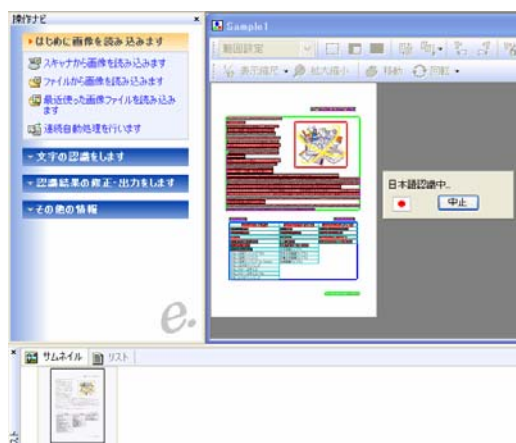
- 5** 「OK」ボタンを押して、「操作設定」パネルを閉じましたら連続自動処理を実行します。操作ナビの「連続自動処理を行います」をクリックするか、または「文字認識」メニューから「連続自動処理」を選択します。



6

連続自動処理がスタートします。

スキャナから画像を読み込む、または、画像ファイルを読み込むと続けて認識処理が行われます



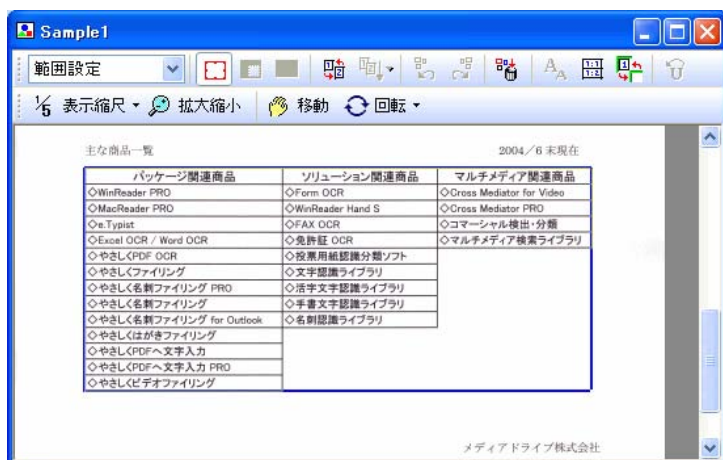
6-3 表組の文字認識

ここでは、表組を認識する方法について説明します。

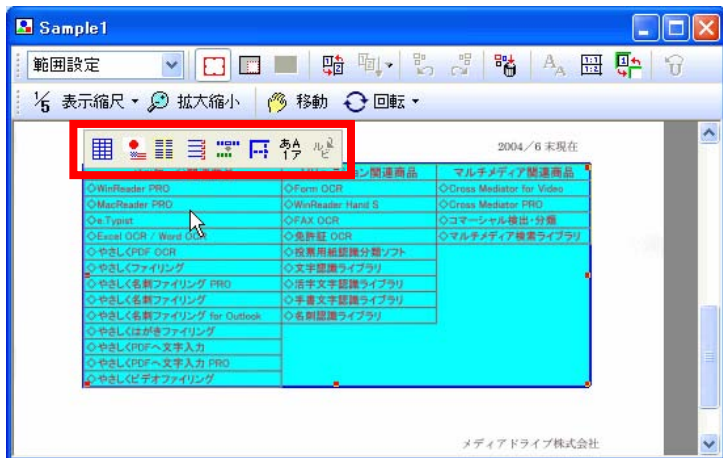
6-3-1 通常の罫線で囲まれた表組の文字認識

罫線が含まれた表組を画像として読み込み、レイアウト解析を行うと「表領域」として自動判定されます。

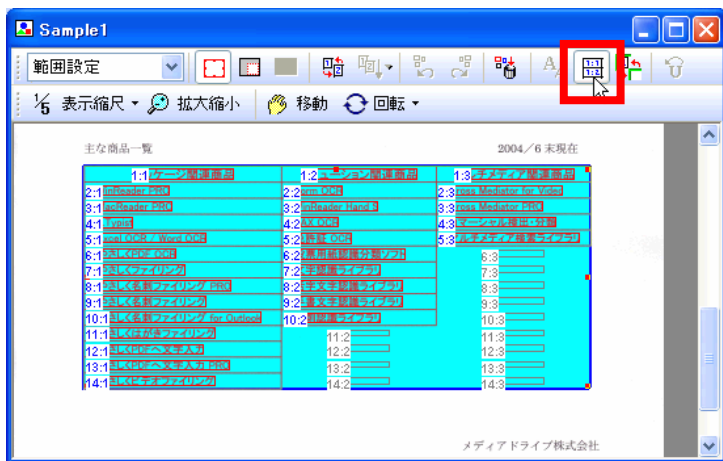
- 1 画像ウィンドウの「範囲設定」ツールを選択し、表組を囲むようにマウスをドラッグして認識枠を作成します。
- 2 マウスボタンを離しますと、すぐにレイアウト解析が実行されます。



- 3 認識枠内にカーソルを移動しますと、認識属性ツールバーがポップアップで表示されます。「領域種別」が「表領域」に判定されていることが確認できます。



- 4 「セル番号表示」をクリックしますと、表組のすべてのセルに番号（行、列）が表示されます。

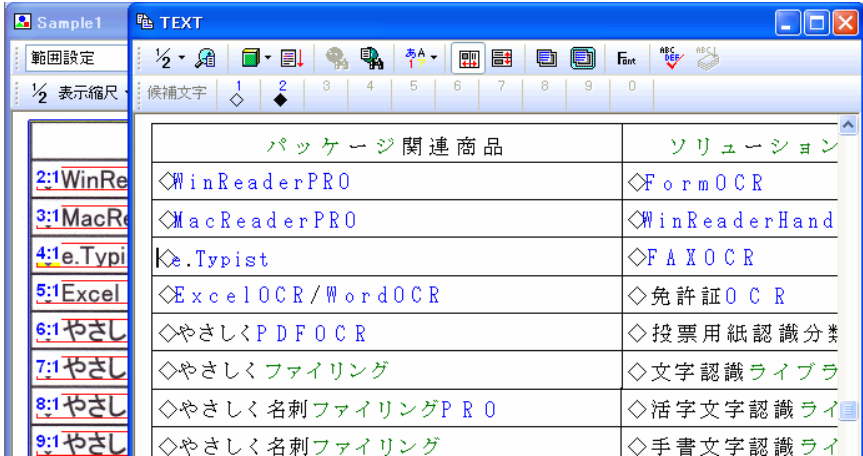


5

操作ツールバーの「認識」をクリックします。

認識が終了すると、テキストウィンドウに認識結果が表示されます。

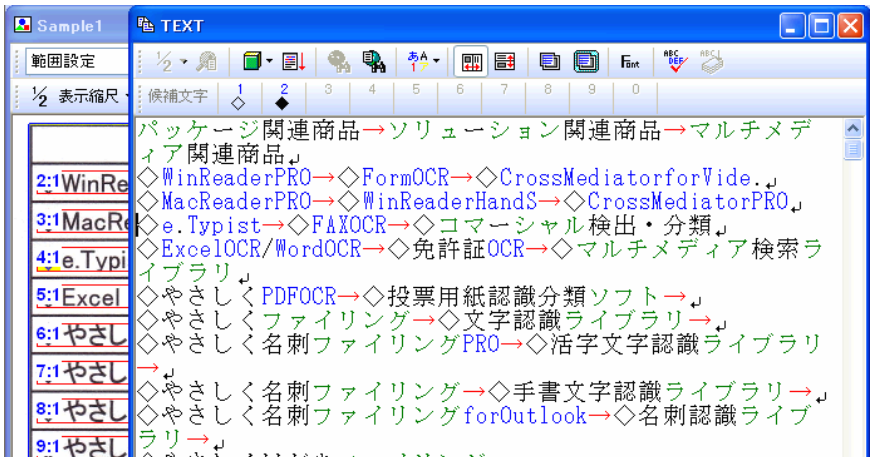
テキスト表示モードが「レイアウト表示」の場合：



	パッケージ関連商品	ソリューション
2:1 WinRe	◇WinReaderPRO	◇FormOCR
3:1 MacRe	◇MacReaderPRO	◇WinReaderHand
4:1 e.Typ	◇e.Typist	◇FAXOCR
5:1 Excel	◇ExcelOCR/WordOCR	◇免許証OCR
6:1 やさし	◇やさしくPDFOCR	◇投票用紙認識分類
7:1 やさし	◇やさしくファイリング	◇文字認識ライブラ
8:1 やさし	◇やさしく名刺ファイリングPRO	◇活字文字認識ライ
9:1 やさし	◇やさしく名刺ファイリング	◇手書文字認識ライ

テキスト表示モードが「簡易表示」の場合：

セルの区切り位置には「タブ」が出力されます。



パッケージ関連商品→ソリューション関連商品→マルチメディア関連商品↓

2:1 WinRe ◇WinReaderPRO→◇FormOCR→◇CrossMediatorforWide.↓

3:1 MacRe ◇MacReaderPRO→◇WinReaderHandS→◇CrossMediatorPRO.↓

4:1 e.Typ ◇e.Typist→◇FAXOCR→◇コマーシャル検出・分類↓

5:1 Excel ◇ExcelOCR/WordOCR→◇免許証OCR→◇マルチメディア検索ライブラリ↓

6:1 やさし ◇やさしくPDFOCR→◇投票用紙認識分類ソフト→↓

7:1 やさし ◇やさしくファイリング→◇文字認識ライブラリ→↓

8:1 やさし ◇やさしく名刺ファイリングPRO→◇活字文字認識ライブラリ→↓

9:1 やさし ◇やさしく名刺ファイリング→◇手書文字認識ライブラリ→↓

◇やさしく名刺ファイリングforOutlook→◇名刺認識ライブラリ→↓

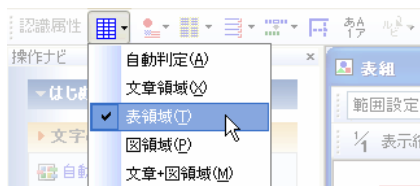


画像データの状態によっては、画像ウィンドウで正しく表組と判別できない場合があります。そのようなときは、手動で認識枠をクリックしてアクティブにし、認識属性ツールバーの「領域種別指定」を「表領域」に設定してから認識を実行してください。

6-3-2 罫線が欠けた表組（補助線設定）

罫線が欠けている表組や、罫線のない表組を認識することができます。

- 1 メインウィンドウの認識属性ツールバーの「領域種別」で「表領域」を選択します。



- 2 画像ウィンドウの「範囲設定」ツールを選択し、罫線のない表組を囲むように認識枠を作成します。



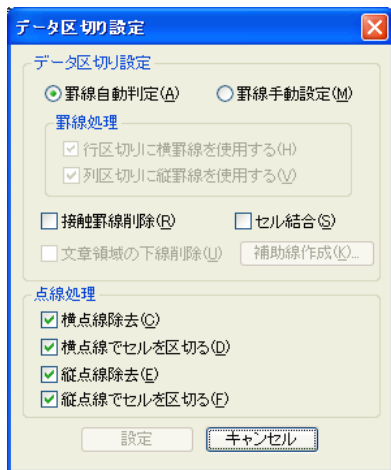
- 3 「セル番号表示」をクリックしますと、セル毎に番号が表示されます。表領域としてレイアウト解析されたことが確認できます。



6-3-3 データ区切り設定

表組をレイアウト解析する際の罫線の処理方法を、「データ区切り設定」ダイアログで設定します。

「データ区切り設定」ダイアログは、認識属性ツールバーの「データ区切り設定」をクリックしますと表示されます。



<罫線自動判定>

レイアウト解析の際に表組の罫線を自動判定します。

<罫線手動設定>

罫線の判定を手動で設定します。

ここにチェックを入れますと、「罫線処理」の選択が可能になります。

<罫線処理>

「行区切りに横罫線を使用する」

チェックを付けると、原稿の横罫線を行区切りとします。

1:1前	1:2所
2:1田太郎	2:2京都 中央区中央町 99-88

チェックを付けない場合は、e.Typist が自動で行区切りを設定します。

1:1前	1:2所
2:1田太郎	2:2京都
3:1	3:2中央区中央町 99-88

「列区切りに縦罫線を使用する」

チェックを付けると、原稿の縦罫線を列区切りとします。チェックを付けない場合は、e.Typist が自動で列区切りを設定します。

＜接触罫線削除＞

罫線に接触している文字を正しく認識できるようにします。

＜セル結合＞

複数のセルに項目がまたがっている表組の場合、「セル結合」にチェックを付けて認識しますと、元の表組と同じセルの形式で出力することができます（Excel 形式に出力した場合のみ有効）。

＜文章の下線削除＞

アンダーラインなどに接触した文章領域の文字を正しく認識できるようにします（文章領域が選択されている場合のみ有効）。

＜補助線作成＞

手動又は自動で補助線を追加します。「補助線設定」ダイアログが表示されますので、ダイアログ内の画像上に罫線を追加することができます。

＜点線処理＞

表組に含まれる点線の処理を設定します。

「横点線除去」

横点線を無視して認識します。

「横点線でセルを区切る」

横点線を認識してセルの区切りにします。

「縦点線除去」

縦点線を無視して認識します。

「縦点線でセルを区切る」

縦点線を認識してセルの区切りにします。

6-3-4 行単位、列単位で認識字種を設定

表組を認識する際に、行・列・セル単位で認識字種を個別に設定しますと、認識の精度が向上することがあります。

- 1 表組の認識枠をアクティブにして、「認識字種設定」をクリックします。認識枠の中のセルがそれぞれ枠で囲まれ、同時に「認識字種設定」ダイアログが表示されます。

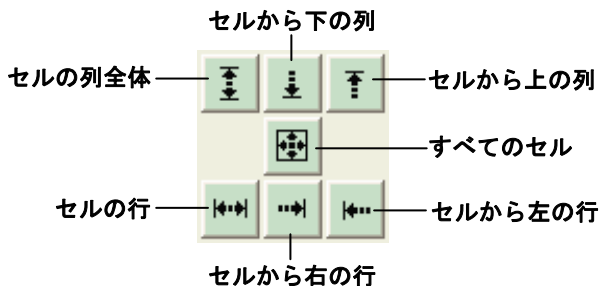


- 2 表組の画像データで、セルを1つ選んでクリックします。選択したセルは白く表示されます。

名前	住所	市外局番	電話番号
山田太郎	東京都 中央区中央町 99-88	03	9294-71
佐藤 翔	埼玉県 北埼玉郡沼和町 256-4	048	623-08
谷村 健夫	東京都 日暮区清水町 85-65	03	0084-93

- 3 「設定範囲」の矢印をクリックして、セルの範囲を選択します。ここでは下方方向のボタンをクリックして下側のセルを選択しています。

名前	住所	市外局番	電話番号
山田太郎	東京都 中央区 中央町 99-88	03	8234-71
佐藤 豊	埼玉県 北埼玉郡 昭和町 2564	048	623-08
谷村 敏夫	東京都 目黒区 清水町 85-68	03	0033-99



- 4** 選択した列で使われている字種（「認識字種」）を指定します。
ここでは、「漢字」と「数字」のみにチェックを入れています。

認識字種

- ひらがな (H)
- カタカナ (K)
- 漢字 (J)
- 記号 (M)
- 数字 (N)
- 英字 (E)

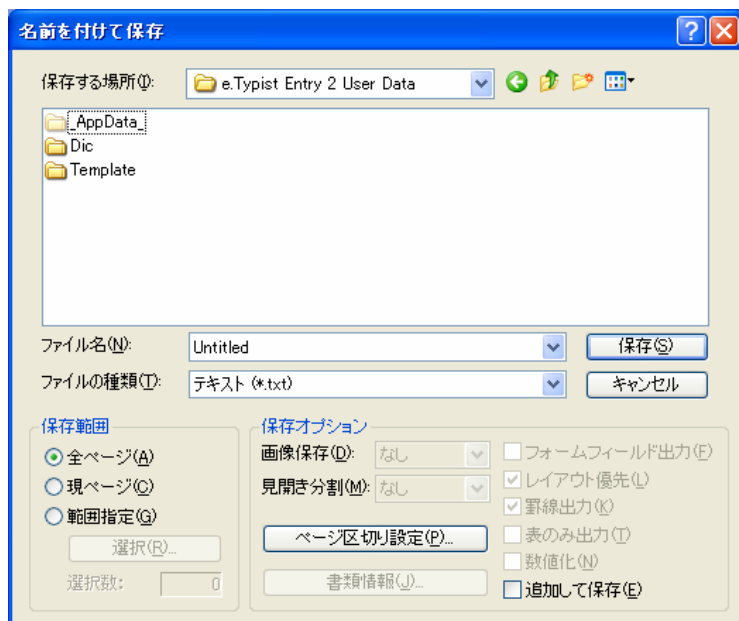
- 5** 認識字種の設定は続けて操作ができます。必要な列・行に対して認識字種を設定したら、「終了」をクリックしてダイアログを閉じます。

6-4 テキストを別形式で保存

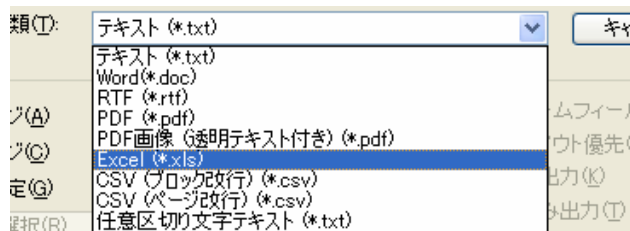
認識結果をファイルに保存する際の設定について説明します。

文字認識まで進んだのち、操作ツールバーの「保存」をクリックするか、あるいは、「ファイル」メニューの「テキスト→名前を付けて保存」を選択します。

「名前を付けて保存」ダイアログが開きます（このダイアログはサンプルです）。



<ファイルの種類>



「テキスト (*.txt)」

通常のテキスト形式。「保存オプション」の「ページ区切り設定」をクリックして、各ページ間の区切り記号を設定します。

「Word (*.doc)」

Microsoft Word のファイル形式 (Word97 以降がインストールされている場合に表示)。

「RTF (*.rtf)」

段組や図などのレイアウト情報を保存したファイル形式。

「PDF (*.pdf)」

認識結果のみを出力した通常の PDF 形式。

「PDF 画像 (透明テキスト付き) (*.pdf)」

画像と透明な認識結果を出力した透明テキスト付き PDF 形式。

「Excel (*.xls)」

Microsoft Excel 形式 (複数ページを保存した場合は、各ページが Excel 上でワークシートに保存されます)。

「CSV (ブロック改行) (*.csv)」

カンマ区切りのテキスト形式 (認識枠毎に改行コードを挿入)。

「CSV (ページ改行) (*.csv)」

カンマ区切りのテキスト形式 (ページ毎に改行コードを挿入)。

「任意区切り文字テキスト (*.txt)」

表組のセル・ブロック・ページ間の区切り記号を指定したテキスト形式。「保存オプション」の「区切り文字設定」をクリックして、出力する記号を設定します。

<保存範囲>

「保存範囲」のオプションを選択して、保存するページを設定します。

「全ページ」

すべてのページを1つのファイルに保存します。

「現ページ」

テキストウィンドウに現在表示されているページだけをファイルに保存します。

「範囲指定」

ページ範囲を指定してテキストファイルに保存します。

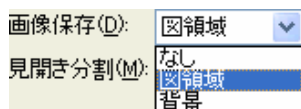
「選択」ボタンをクリックすると、「保存の選択」ダイアログが表示されますので、Ctrl キーを押しながら、または Shift キーを押しながら画像名をクリックして選択し、「OK」をクリックしてください。(Shift キーを押しながら選択すると画像名を連続で選択できます。)

<保存オプション>

保存するファイル形式によって、選択できるオプションが異なります。

「画像保存」

元の原稿に含まれていた図領域(図やイラスト)、背景画像が保存されます。



「図領域」

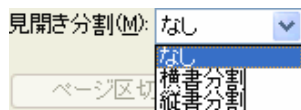
図領域の画像が保存されます。

「背景」

RTF ファイルに出力した時、元原稿の背景に使用されている画像が保存されます。

「見開き分割」

RTF に出力した時、書籍等の見開き原稿が左右のページに分割して保存されます。



「横書分割」

見開き部分を境にして左側の認識結果を先に出力します。

「縦書分割」

見開き部分を境にして右側の認識結果を先に出力します。

「フォームフィールド出力」

RTF ファイルに出力したとき、表組が表形式のフォームフィールドとして出力されます。

「レイアウト優先」

RTF ファイルに出力した際にテキストボックスとしてレイアウトを再現し
ます。チェックを外しますと、段組みのレイアウトで再現されます（複雑な段
組の場合には一段組で出力されます）。

「罫線出力」

表組の罫線（Excel ファイルの場合）や、文中の下線などの罫線情報を文字と
一緒に保存します。

「表のみ出力」

Excel ファイル形式で保存する際、表のみが出力されます。

「数値化」

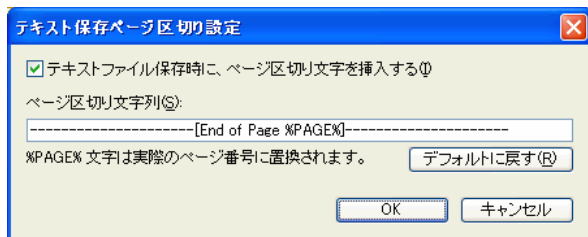
Excel ファイル形式で保存する際、セルの表示形式が数値として出力されます。

「追加して保存」

「テキスト (*.txt)」で保存する際、認識結果を既存ファイルの末尾へ追加し
て保存します。保存時は追加するファイルを指定してから「保存」をクリッ
クしてください。

「ページ区切り設定」

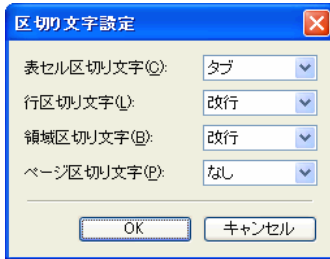
「テキスト (*.txt)」で複数ページを保存した場合、ページの区切り位置に文
字を挿入することができます。



「ページ区切り文字列」に、キーボードから文字列を直接入力してください。
「デフォルトに戻す」をクリックしますと、変更した文字列が初期設定に戻
ります。

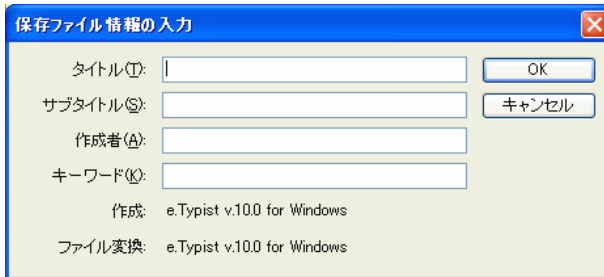
「区切り文字設定」

「任意区切り文字テキスト (*.txt)」で保存する際の区切り文字を設定します。
次図の「区切り文字設定」ダイアログで設定します。



「書類情報」

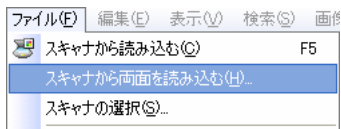
PDF ファイルで保存する際の書類情報を設定します。



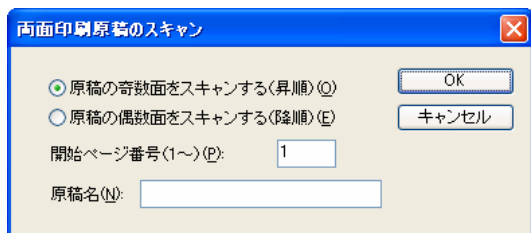
6-5 両面印刷原稿を読み込む

ページの両面に印字された原稿をスキャンして取り込むことができます。

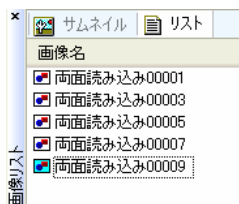
- 1 原稿の奇数ページをスキャンします。
- 2 「ファイル」メニューの「スキャナから両面を読み込む」を選択します。



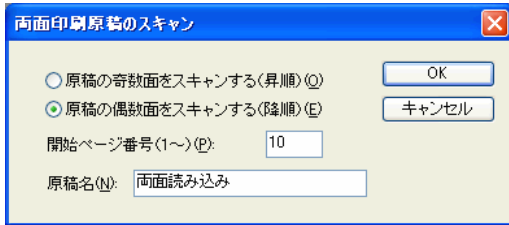
- 3 「両面印刷原稿のスキャン」ダイアログが表示されます。「原稿の奇数面をスキャンする (昇順)」にチェックを付け、「開始ページ番号」をキーボードから入力します (デフォルトではページ番号「1」となっています)。



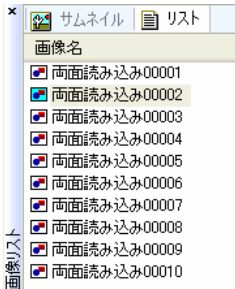
- 4 「原稿名」を入力し、「OK」をクリックしてスキャンを開始します。原稿の奇数ページ (表面) のみが昇順でスキャンされ、スキャンが完了しますと画像リストに表示されます (リスト表示)。



- 5 次に原稿の偶数ページ（裏面）をスキャンします。
排出された原稿をそのまま裏返しにして（ページを並べ替えないで）、偶数ページをセットします。
- 6 「ファイル」メニューの「スキャナから両面を読み込む」を再度選択します。
「両面印刷原稿のスキャン」ダイアログが表示されます。



- 7 「原稿の偶数面をスキャンする（降順）」にチェックが付いています。
「開始ページ番号」には、最終ページ番号の「10」が設定されています。原稿の最終ページ番号が違っている場合は、キーボードで入力して修正してください。
「原稿名」には、前に入力した名称がそのまま設定されています。
- 8 ダイアログの「OK」をクリックして、スキャンを開始します。
原稿の偶数ページ（裏面）が最終ページから降順にスキャンされます。
スキャンがすべて終了しますと自動的にソート（並び替え）されて、画像リストに表示されます。



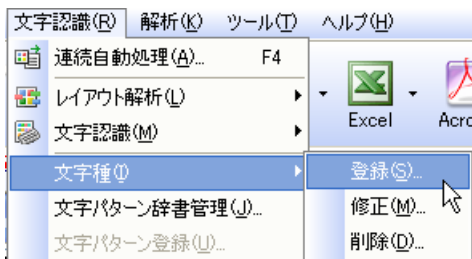
6-6 個別字種の設定

第2水準文字を含む原稿を認識するなど、個別に登録した文字種だけを認識に使用することができます。

① 文字種の登録と活用

認識対象の文字種をカスタマイズして登録し、文字認識に使用します。

1 「文字認識」メニューの「文字種」から「登録」を選択します。



2 「文字種テーブルの登録」ダイアログが表示されます。





ダイアログの右側のスクロールバーを使って、画面の下部に隠れている第2水準文字を表示することができます。

3

「すべて対象外」をクリックしますと、すべての記号・文字が認識の対象外となり、背景がグレーで表示されます。

「すべて対象」をクリックしますと、すべての記号・文字が認識の対象文字となり、背景が白く表示されます。

また、「既定値に戻す」をクリックしますと、認識の対象文字種が初期設定に戻ります。

4

個別に認識対象とする文字をクリックして白く表示し、「名称」に名前を入力して「登録」をクリックします。



5

登録した文字種を利用する場合は、認識属性ツールバーの「認識字種設定」をクリックします。(特定の認識枠に使用する場合は、マウスで認識枠を選択してから実行してください。)



- 6 「認識字種設定」ダイアログで「個別字種」にチェックを付け、リストから登録した文字種データを選択します。

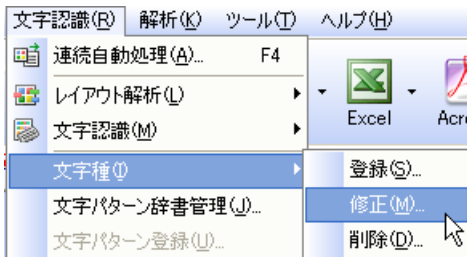


- 7 「終了」をクリックしてダイアログを閉じます。文字認識を実行してください。

② 文字種の修正

カスタマイズして登録した文字種を修正します。

- 1 「文字認識」メニューの「文字種」で「修正」を選択します。



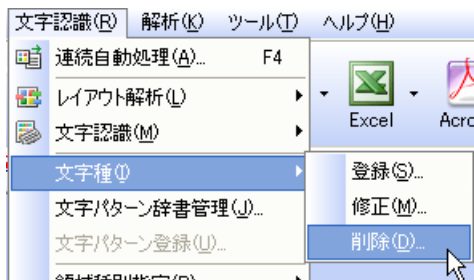
- 2 「文字種テーブルの修正」ダイアログで、「名称」のプルダウンから修正する文字種を選択します。

- 3 対象文字種を選択し直して「修正」をクリックしますと修正が完了します。

③ 文字種の削除

カスタマイズして登録した文字種を削除します。

- 1 「文字認識」メニューの「文字種」で「削除」を選択します。



- 2 「文字種テーブルの削除」ダイアログで、「名称」のプルダウンから削除する文字種を選択して、「削除」をクリックします。
- 3 確認メッセージで「OK」をクリックすると削除が完了します。

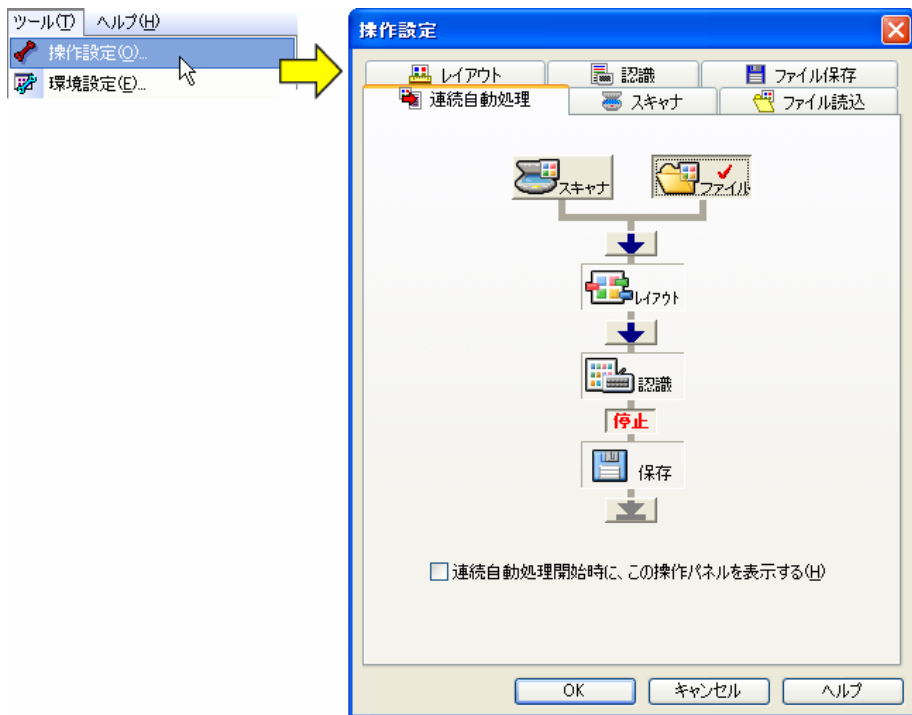
第7章 操作設定・環境設定

「操作設定」パネル、「環境設定」パネルについて説明しています。

7-1 「操作設定」パネル

e. TypistのOCR処理の基本動作は、「操作設定」パネルで設定します。

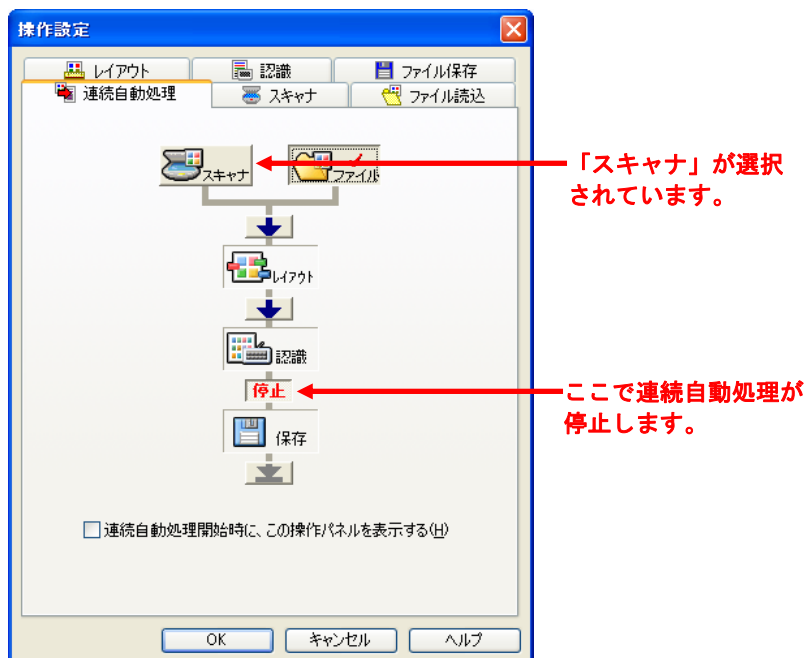
「ツール」メニューから「操作設定」を選択しますと「操作設定」パネルが表示されま
す。タブを表示してそれぞれ操作の基本動作を設定します。



7-1-1 「連続自動処理」タブ

連続自動処理機能の原稿を読み込む方式と停止位置を設定します。

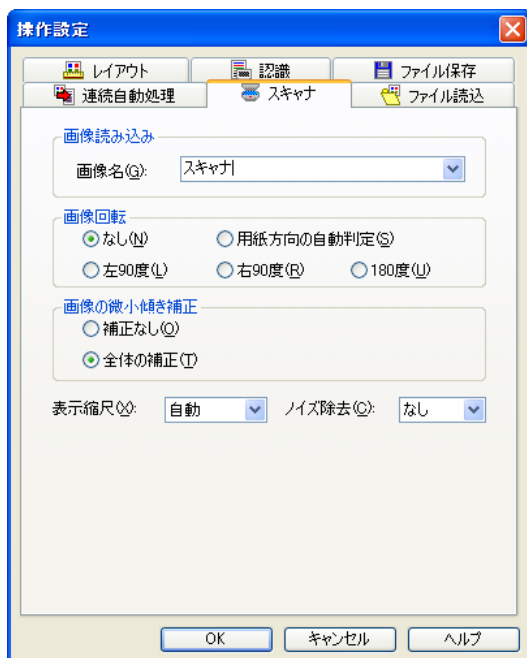
⇒連続自動処理については、94 ページの「連続自動処理」をお読みください。



「連続自動処理開始時に、この操作パネルを表示する」にチェックを付けますと、連続自動処理を行うたびに上記の操作パネルが表示されます。

7-1-2 「スキャナ」タブ

スキャナを操作するにあたっての条件を設定します。



<画像読み込み>

スキャナ動作の条件を設定します。

<画像名>

スキャナで読み込んだ画像に付けられる名前を入力します。
スキャナで読み込まれた順に3桁の通し番号が付けられます。

<画像回転>

スキャナで画像を読み込んだ際、画像を自動的に回転して画像の方向を補正します。

「用紙方向の自動判定」

用紙の向きが自動的に判定されて正しい方向に画像が回転されます。

「左90度」

画像を左に90°回転します。

「右90度」

画像を右に90°回転します。

「180度」

画像を180°回転します。

<画像の微小傾き補正>

スキャナで画像を読み込んだ際、微小な傾きを自動的に検出して補正します。

「補正なし」

補正しないで、そのまま読み込みます。

「全体の補正」

画像全体を自動補正します。自動補正できる傾きは最大±20°です。

<表示縮尺>

スキャナで原稿を読み込んだのち、画像ウィンドウに表示される画像データの表示縮尺を選択します。

プルダウンで「1/16」から「1/1」まで選択できます。

「自動」を選択しますと、e.Typist がメインウィンドウのサイズを判定して自動的に縮尺を決定します。

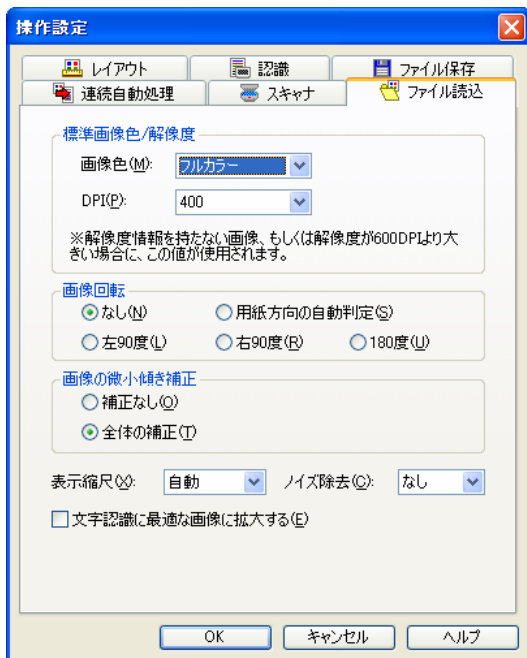
<ノイズ除去>

画像を読み込むときに「ノイズ除去」処理を行うかどうかを設定します。

プルダウンで「なし」、「自動」、「弱」、「中」、「強」から選択します。

7-1-3 「ファイル読込」タブ

画像ファイルを開いて画像を読み込む際の処理方法を設定します。



<標準画像色/解像度>

「画像色」

画像ファイルを読み込む際に色数を減色します。
プルダウンで「白黒」、「256色」、「フルカラー」から選択します。

「DPI」

解像度情報のない画像ファイル、600dpi以上の画像ファイルを開く場合、ここで設定した解像度が適用されます。
プルダウンで「200」、「300」、「400」、「600」から選択します。

<画像回転>

画像ファイルを読み込む際に、画像データを回転します。
⇒前項の「スキャナ」タブをお読みください。

<画像の微小傾き補正>

画像ファイルを読み込む際に、傾きを自動的に検出して補正します。
自動補正できる傾きは最大±20°です。

⇒前項の「スキャナ」タブをお読みください。

<表示縮尺>

画像ファイルを読み込む際に、画像ウィンドウに表示される画像の表示縮尺を選択します。

プルダウンで「1/16」から「1/1」まで選択できます。

「自動」を選択しますと、e.Typist がメインウィンドウのサイズを判定して自動的に縮尺を決定します。

<ノイズ除去>

画像を読み込むときに「ノイズ除去」処理を行うかどうかを設定します。

プルダウンで「なし」、「自動」、「弱」、「中」、「強」から選択します。

<文字認識に最適な画像に拡大する>

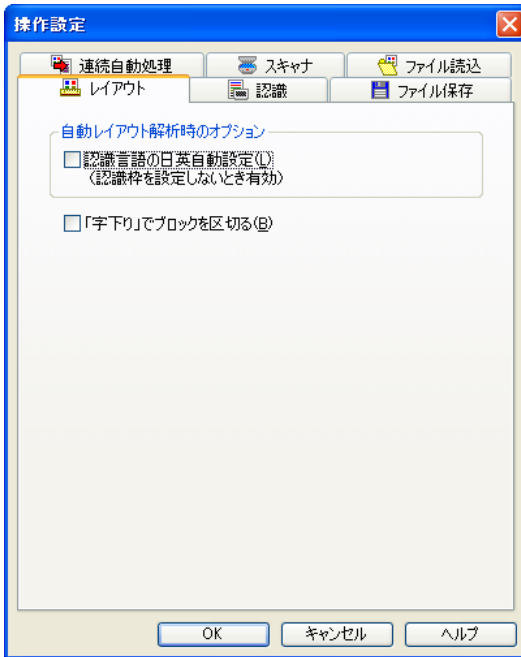
チェックを付けますと、画面のスクリーンショット等、画像の文字サイズが小さい場合に、その画像を文字認識に最適なサイズへ拡大します。



注意 チェックを付けて読み込みますと、解像度が自動調整されますので600dpi以上の表示になる場合があります。

7-1-4 「レイアウト」タブ

レイアウト解析の際の条件を設定します。



<自動レイアウト解析時のオプション>

このオプションにチェックを付けますと、自動レイアウト解析をする際に、認識言語を自動で設定（日本語または英語のみ）します。日本語と判定された場合は認識言語が「日本語（英語混在）」で認識されます。



この機能はページ単位で認識言語を判定するため、日本語と英語が混在している原稿は正しく判定することができません。

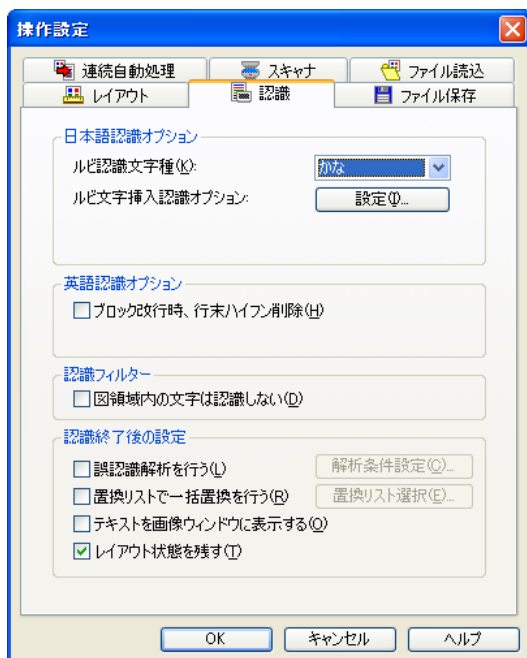
<「字下り」でブロックを区切る>

このオプションにチェックを付けますと、文章中の字下げりの箇所（段落）を自動的に区切ります。

字下げした部分で認識枠を分割する機能です。

7-1-5 「認識」 タブ

認識処理の際の条件を設定します。



<日本語認識オプション>

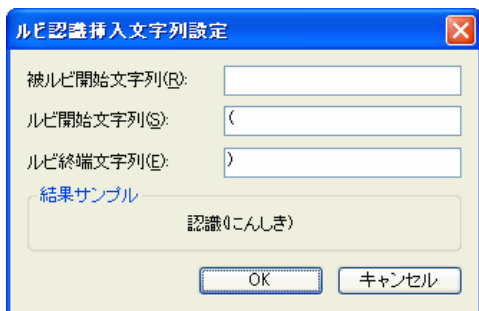
日本語の文章を認識する際のオプションを選択します。

<ルビ認識文字種>

ルビを認識する際の文字種（「ひらがな」または「カタカナ」）をプルダウンメニューから選択します。「かな」を選択しますと、自動的に文字種が判定されます。

<ルビ文字挿入認識オプション>

「ルビ認識指定」で「文章中に挿入」を選択した場合の出力形式を設定することができます。「設定」をクリックしますと、「ルビ認識挿入文字列設定」ダイアログが表示されます。



「被ルビ開始文字列」

ルビがふられている文字の前に挿入する文字列をキーボードで入力します。空白の場合には何も挿入されません。

「ルビ開始文字列」

ルビ文字の開始位置に挿入する文字列を設定します。初期設定値は「(」です。

「ルビ終端文字列」

ルビ文字の終端位置に挿入する文字列を設定します。初期設定値は「)」です。

「結果サンプル」

設定されたルビの挿入方法のサンプルが表示されます。

<英語認識オプション>

英語の文章を認識する際のオプションを選択します。

「ブロック改行時、行末ハイフン削除」

ハイフネーション処理された英文の行末についたハイフンが、テキスト出力の際に削除されます。

<認識フィルター>

図領域内にある文字に対するオプションを選択します。

「図領域内の文字は認識しない」

チェックを付けると、図領域と判定された中に含まれる文章領域を認識から除外します。

＜認識終了後の設定＞

認識が終了した後の処理について設定します。

「誤認識解析を行う」

認識処理が終わった後、自動的に誤認識の解析を実行します。

「解析条件設定」をクリックしますと「解析条件設定」ダイアログが表示されます。

「置換リストで一括置換を行う」

認識処理が終わった後、置換リストに登録された検索文字と置換文字で、自動的に一括置換されます。

「置換リスト選択」をクリックしますと、「置換リストファイルの選択」ダイアログが表示されます。「選択」をクリックして置換リストを選択してください。

「テキストを画像ウィンドウに表示する」

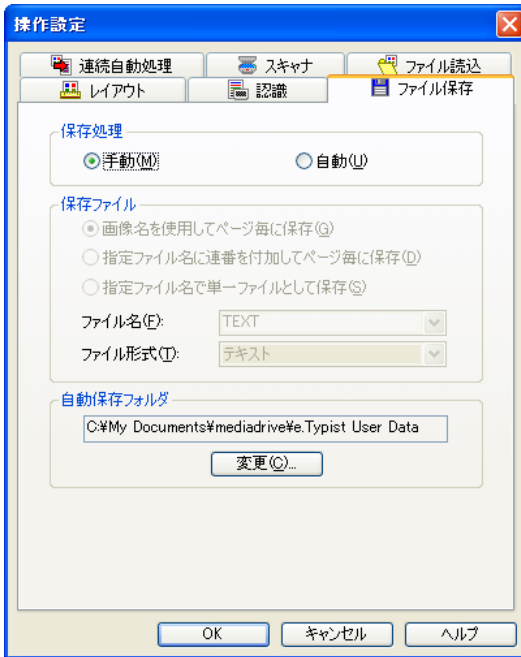
認識処理が終わった後、画像ウィンドウの画像データに認識結果が表示されます。

「レイアウト状態を残す」

認識処理が完了した後も画像の認識枠が表示されます。

7-1-6 「ファイル保存」タブ

認識結果を保存する条件を設定します。



<保存処理>

連続自動処理を実行した場合の保存方法を選択します。

「手動」

認識結果を手動でファイルに保存します。「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。

「自動」

「保存ファイル」・「自動保存フォルダ」の設定に従って認識結果を自動でファイルに保存します。

<保存ファイル>

「保存処理」-「自動」の条件を設定します。

「画像名を使用してページ毎に保存」

ページ毎に「画像名」のファイル名で自動保存されます。

「指定ファイル名に連番を付加してページ毎に保存」

「ファイル名」で設定したファイル名に連番が付いて、ページ毎に自動保存されます。

「指定ファイル名で単一ファイルとして保存」

「ファイル名」で設定したファイル名で、すべてのページを単一のファイルに自動保存されます。

「ファイル名」

上記の「指定ファイル名に連番を付加してページ毎に保存」または「指定ファイル名で単一ファイルとして保存」を選択した場合、ここで設定したファイル名が適用されます。

「ファイル形式」

自動保存するファイル形式をプルダウンから選択します。

<自動保存フォルダ>

「保存処理」オプションで「自動」を選択した場合に、ファイルが保存されるフォルダを設定します。

「変更」をクリックしますと、「フォルダの参照」ダイアログが表示されますので、自動保存するフォルダを選択してください。

7-2 「環境設定」パネル

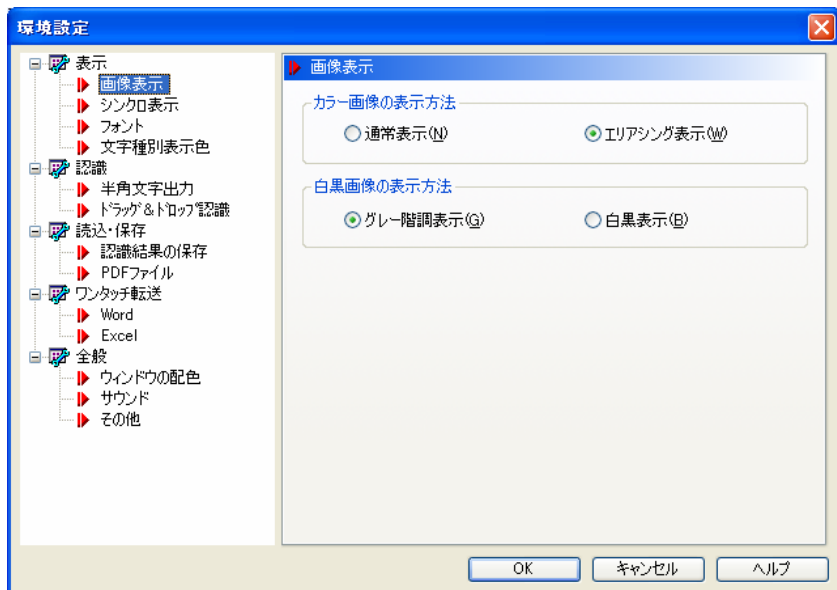
e. Typistの操作環境は、「環境設定」パネルで設定します。

「ツール」メニューから「環境設定」を選択しますと、「環境設定」パネルが表示されます。

7-2-1 表示

■ 画像表示

読み込んだ画像の表示方法を設定します。



<カラー画像の表示方法>

カラー画像の表示方法を選択します。

「エリアシング表示」を選択しますと、画像縮小時に表示を見やすく調整します。

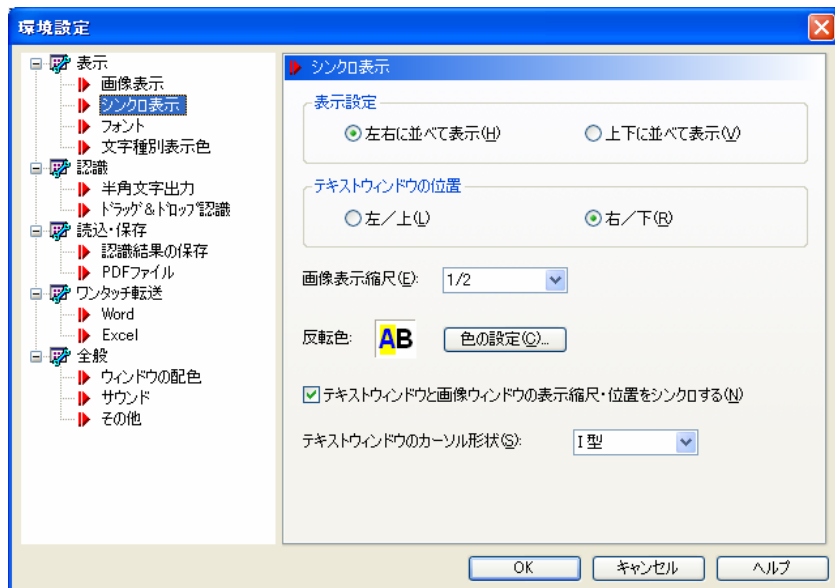
<白黒画像の表示方法>

白黒画像の表示方法を選択します。

「グレー階調表示」を選択しますと、グレースケールで表示されます。

■ シンクロ表示

テキストウィンドウと画像ウィンドウをシンクロ表示する際の設定をします。



<表示設定>

テキストウィンドウと画像ウィンドウの並べ方を選択します。

<テキストウィンドウの位置>

シンクロ表示した際のテキストウィンドウの位置を選択します。

<画像表示縮尺>

認識を終わった直後の画像データの表示縮尺を設定します。

「1/1」、「1/2」、「1/4」、「1/8」、「自動」から選択します。

<反転色>

シンクロ表示される画像データの「色」を設定します。

色を変更する場合は「色の設定」をクリックして、カラーパレットなどを使って反転色を設定してください。

<テキストウィンドウと画像ウィンドウの表示縮尺・位置をシンクロする>

ここにチェックを付けますと認識結果と画像の表示縮尺、位置を同期します。

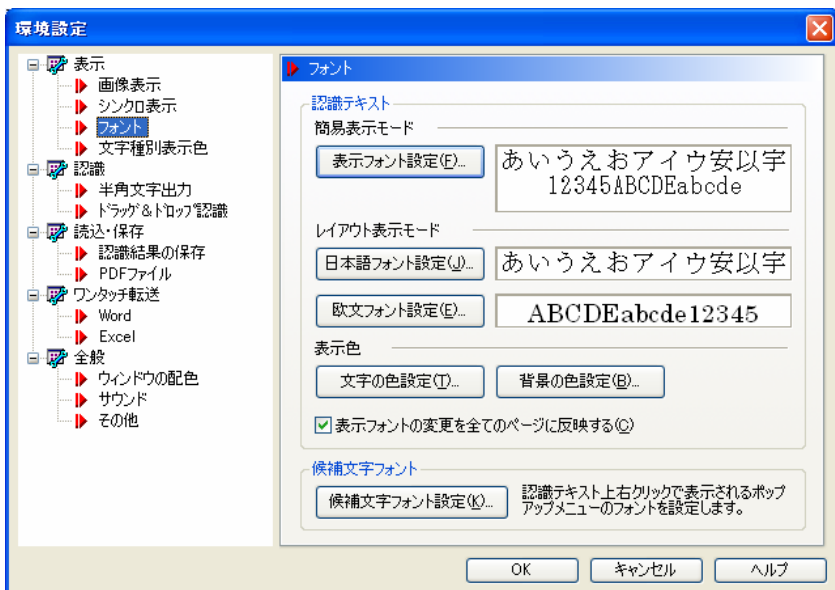
「表示」メニューの「テキスト表示モード」が「レイアウト表示」の場合に有効です。

<テキストウィンドウのカーソル形状>

認識結果のテキストを選択する時のカーソルの形状を設定します。
プルダウンで「I 型」または「半角型」から選びます。

■ フォント

認識結果をテキストウィンドウに表示する際のフォントや候補文字メニューのフォントを設定します。



<認識テキスト>

「簡易表示モード」および「レイアウト表示モード」で使用する表示フォントと文字色、背景色を設定します。

「表示フォントの変更を全てのページに反映する」

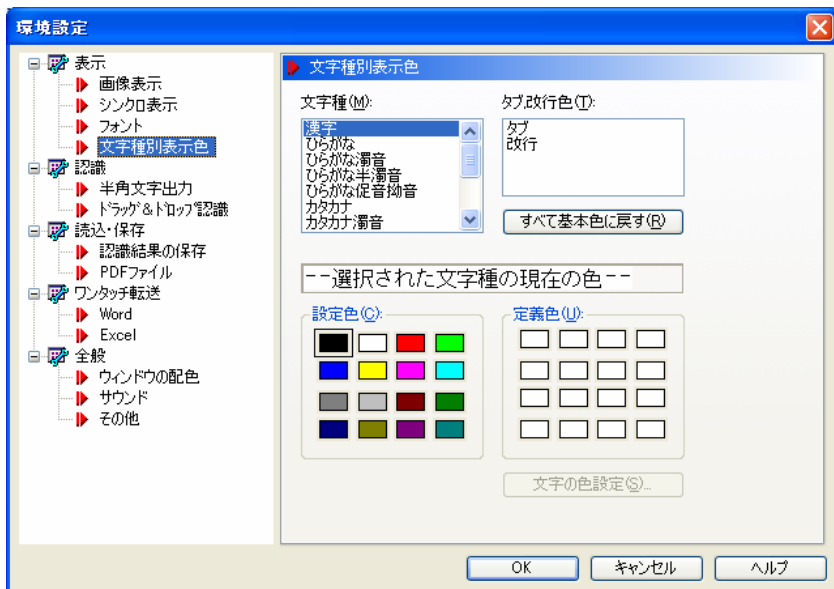
ここにチェックを付けますと、すべてのページに変更が有効となります。

<候補文字フォント>

認識結果を右クリックして表示される候補文字リストのフォントを設定します。

■ 文字種別表示色

テキストウィンドウや候補文字メニューに表示される文字の色を、文字種ごとに設定します。



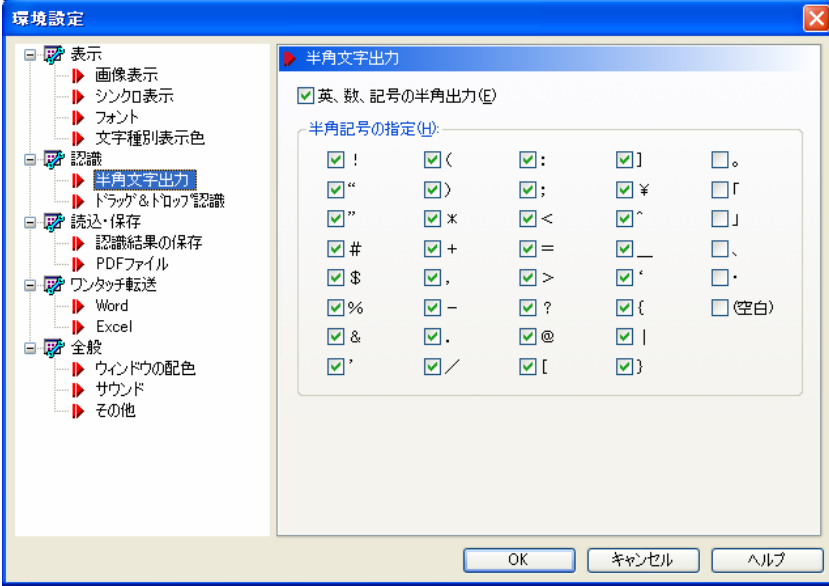
「文字種」、「タブ改行色」のリストから種別を選んで反転表示し、「設定色」で色を選択して設定します。

「すべて基本色に戻す」をクリックしますと、デフォルトで設定された表示色に戻ります。また、「定義色」で「文字の色設定」をクリックし、「色の設定」パネルで色を作成して設定することができます。

7-2-2 認識

■ 半角文字出力

認識結果をテキストとして出力する際、半角で出力する字種と記号を選択します。

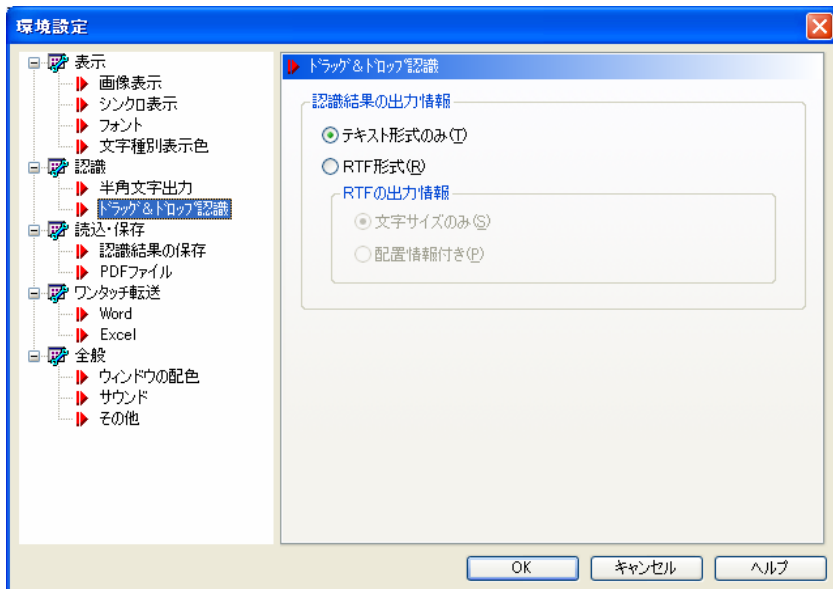


チェックが付いていない記号類はすべて全角で出力されます。

■ ドラッグ&ドロップ認識

ドラッグアンドドロップで認識した結果を出力する際の条件を設定します。

e. Typist上の認識枠を選択して、[Ctrl] キーを押しながらWordやExcel上へドラッグアンドドロップすると認識結果を転送することができます。



<認識結果の出力情報>

「テキスト形式のみ」

認識結果をテキスト形式で出力します。

「RTF形式」

認識結果をRTF形式で出力します。

このオプションを選択しますと、「RTFの出力情報」が選択可能になります。

<RTFの出力情報>

「文字サイズのみ」

文字サイズのみを再現します。

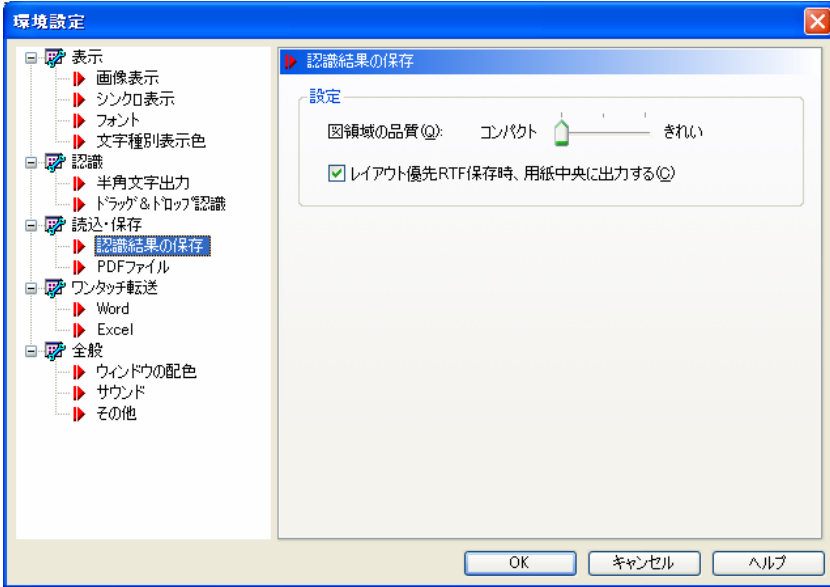
「配置情報付き」

レイアウトの配置を再現します。

7-2-3 読込・保存

■ 認識結果の保存

認識結果を保存する際の設定をします。



<設定>

「図領域の品質」

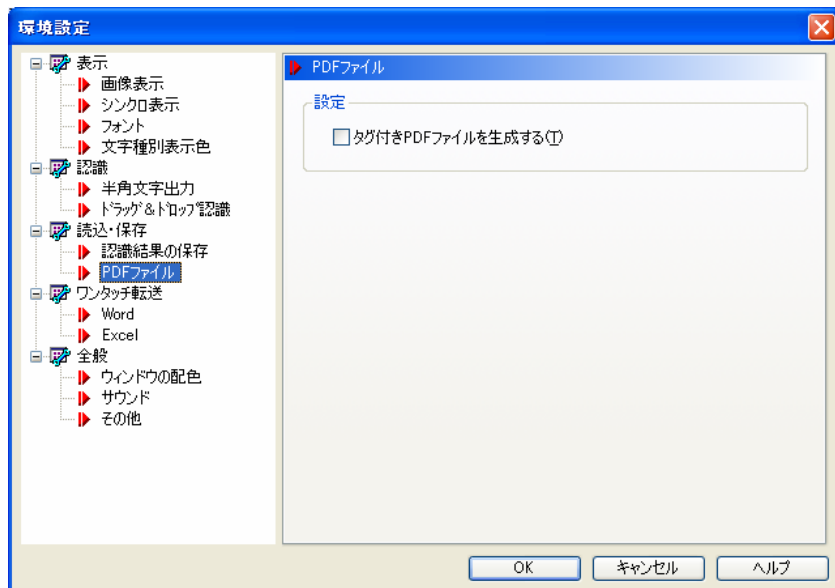
「図領域」部分または背景画像を出力・転送する際の圧縮率を設定します。「コンパクト」を選択すると保存時のファイルサイズが小さくなりますが、画質が粗くなります。「きれい」を選択すると保存時のファイルサイズが大きくなりますが、画質が粗くなりません。

「レイアウト優先RTF保存時、用紙中央に出力する」

RTF形式の保存オプションで「レイアウト優先」にチェックを付けた状態で出力した場合、用紙中央にテキストが出力されます。

■ PDFファイル

PDFファイルの読み込み、出力時の設定をします。



<設定>

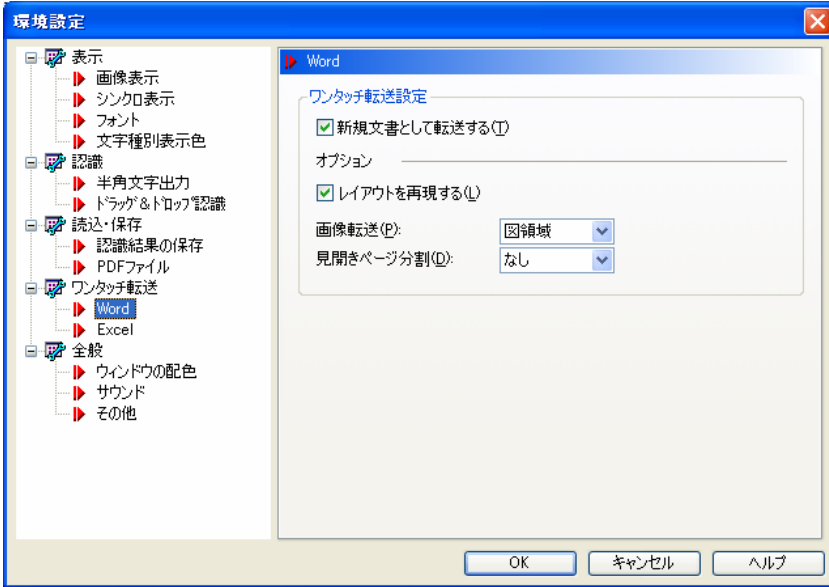
「タグ付きPDFファイルを生成する」

チェックを付けた場合、Acrobat 5.0にて機能追加されたアクセシビリティ機能に対応したタグ付きPDFを出力します。

7-2-4 ワンタッチ転送

■ Word

Microsoft Wordへ認識結果を転送する際の設定をします。



<ワンタッチ転送設定>

「新規文書として転送する」

チェックを付けた場合、Wordの新規ページにデータ転送されます。チェックを付けない場合には、Wordの現在のページにデータ転送されます。

「レイアウトを再現する」

原稿のレイアウト情報がデータ転送されてWordのページで再現されます。Wordのバージョンによっては文字色の再現に制約があります。

「画像転送」

図領域または背景の画像を転送します。

「見開きページ分割」

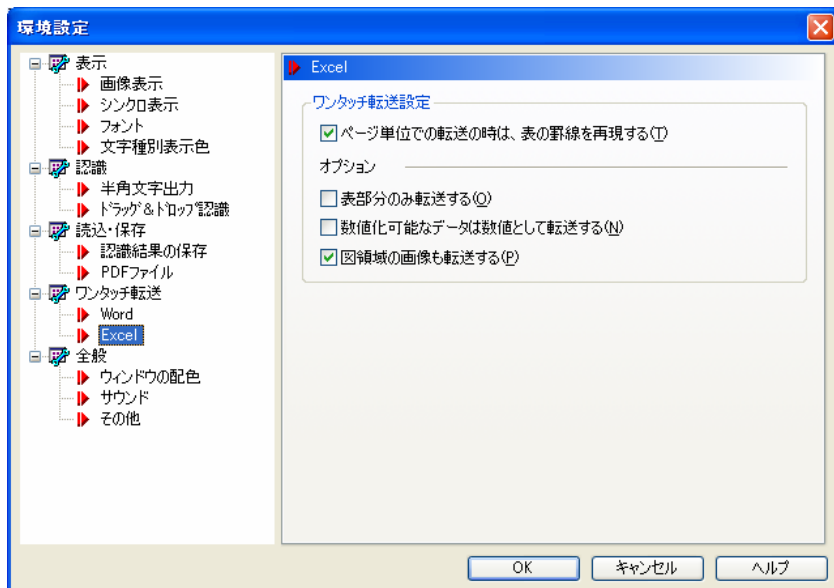
見開きページのデータを分割して出力します。



データ転送の際にテキストの文字列が選択されていた場合、選択された文字だけが転送されます。その場合、レイアウトや文字色は再現されません。

■ Excel

Microsoft Excelへ認識結果を転送する際の設定をします。



<ワンタッチ転送設定>

「ページ単位での転送の時は、表の罫線を再現する」

データ転送した場合に、原稿の罫線や文字の配置がExcelで再現されます。

「表部分のみ転送する」

「表領域」として認識したテキストだけを転送します。

「数値化可能なデータは数値として転送する」

数値化が可能なデータを「数値」として転送します。

チェックを外しますと文字列のまま転送されます

(例:「数値」で転送されますと、電話番号などの「03」が「3」と出力されます。チェックを外した場合は「03」は「03」として出力されます)。

「図領域の画像も転送する」

「図領域」の画像をテキストと同時にデータ転送します。

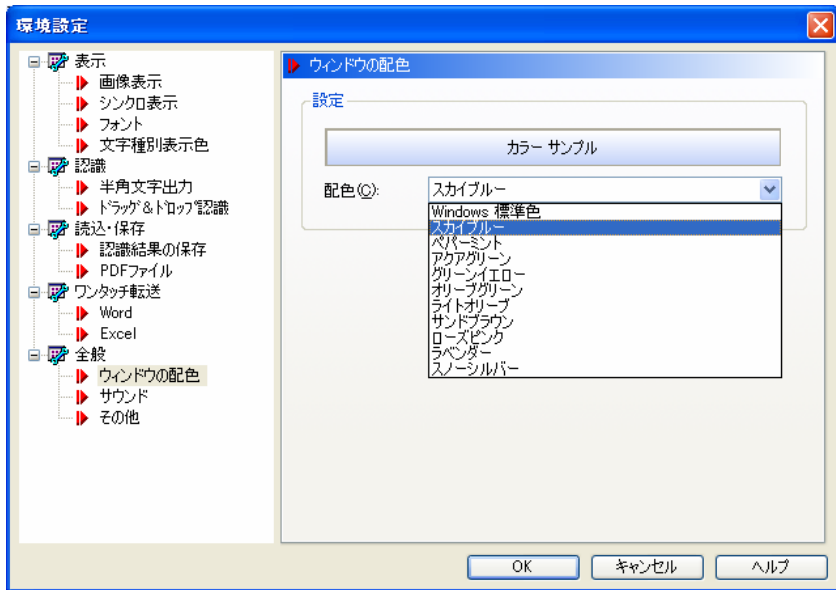


データ転送の際にテキストの文字列が選択されていた場合には、選択された文字だけが転送されます。その場合、罫線は出力されません。

7-2-5 全般

■ ウィンドウの配色

ツールバーやウィンドウの配色について設定します。



<設定>

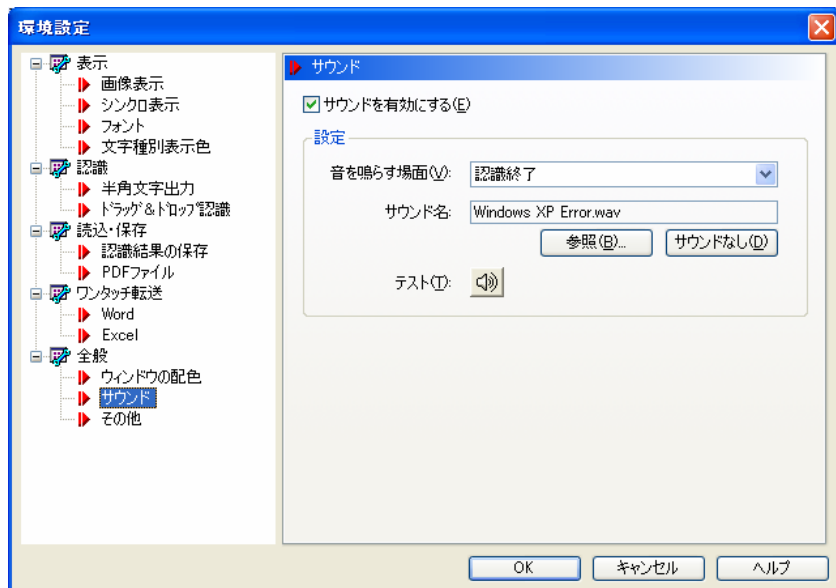
現在設定されている配色のサンプルが表示されます。

「配色」

プルダウンメニューから配色を選択します。(初期設定はスカイブルー)

■ サウンド

e. Typistの各操作ごとにサウンドの設定をします。



<サウンドを有効にする>

チェックを付けますと、サウンドの設定が有効になります。

<設定>

「音を鳴らす場面」

サウンド機能を有効にする操作を選択します。

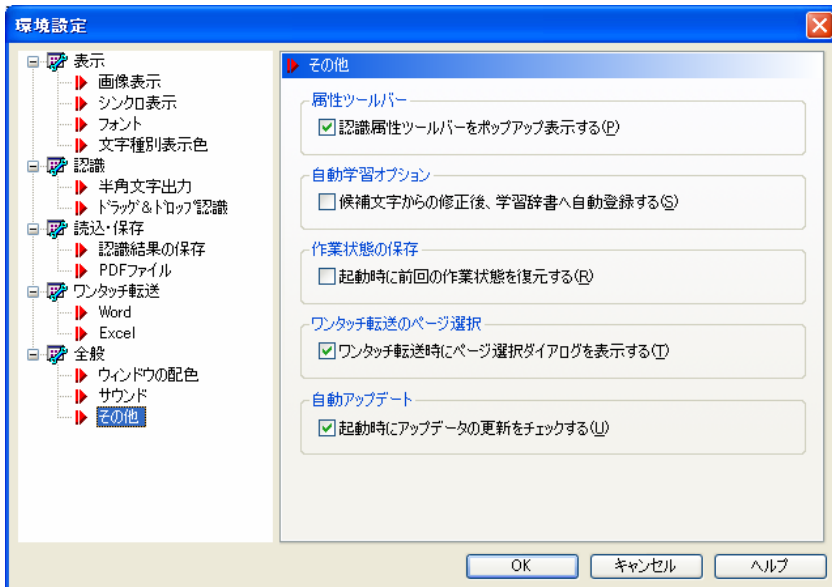
「サウンド名」

使用するサウンドファイル名が表示されます。「参照」をクリックしてサウンドファイルを指定します。「サウンドなし」をクリックしますとサウンドの設定をすべて解除します。

「テスト」

クリックしますとサウンドの確認ができます。

■ その他



<属性ツールバー>

「認識属性ツールバーをポップアップ表示する」

認識枠にマウスカーソルを置いたとき、認識属性ツールバーのアイコンをポップアップで表示します。

<自動学習オプション>

「候補文字からの修正後、学習辞書へ自動登録する」

候補文字を使ってテキストを修正しますと、学習辞書に自動で登録されます。
⇒ 候補文字については、78ページの「候補文字で修正」をお読みください。

<作業状態の保存>

「起動時に前回の作業状態を復元する」

このオプションにチェックを付けますと、e.Typistを起動した時に、前回終了した際の作業状態が復元され、その状態から作業を継続することができます。



このオプションにチェックが付いていない場合でも、アプリケーションが強制終了した際は、前回の作業状態を復元する機能が備わっています。

＜ワンタッチ転送のページ選択＞

「ワンタッチ転送時にページ選択ダイアログを表示する」

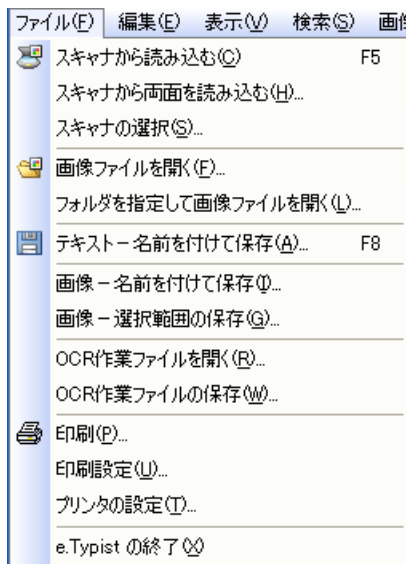
ワンタッチ転送ツールバーで複数ページの認識結果を転送する際にページ選択ダイアログを表示します。

第8章 メインウィンドウ

e. Typist のメニューバー、ツールバー、画像リストについて説明しています。

8-1 メニューバー

8-1-1 「ファイル」メニュー



<スキャナから読み込む>

スキャナを起動して画像を読み込みます。
⇒18ページの「スキャナから画像を読み込む」をお読みください。

<スキャナから両面を読み込む>

ページの両面に印刷された原稿をスキャンします。
⇒110ページの「両面印刷原稿を読み込む」をお読みください。

<スキャナの選択>

使用するスキャナドライバを選択します。

<画像ファイルを開く>

画像ファイルを開いて画像を読み込みます。
⇒43ページの「画像ファイルを読み込む」をお読みください。

<フォルダを指定して画像ファイルを開く>

フォルダを指定し、そこに含まれる画像ファイルをすべて読み込みます。

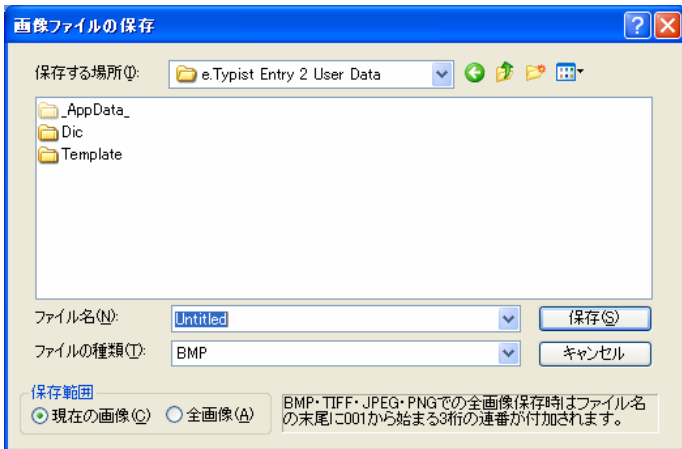
<テキスト名前を付けて保存>

文字認識したテキストデータにファイル名を付けて保存します。
⇒37ページの「認識結果の保存」をお読みください。

<画像 - 名前をつけて保存>

画像データにファイル名を付けて保存します。

「画像ファイルの保存」ダイアログが表示されますので、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。



「保存範囲」

「現在の画像」

画像ウィンドウに現在表示されている画像だけを保存します。

「全画像」

現在読み込まれている画像（画像リストに表示されている画像）をすべて保存します。その際、「ファイル名」に入力された名称に3桁の通し番号が付けられます。



複数の画像を1つのファイルにまとめて保存することもできます。「保存範囲」を「全画像」に、「ファイルの種類」を次の形式から選択して「保存」をクリックしてください。

- ・ TIFF（マルチページ非圧縮）
- ・ TIFF（マルチページHuffman圧縮）
- ・ TIFF（マルチページCCITT G3FAX）
- ・ TIFF（マルチページCCITT G4FAX）
- ・ TIFF（マルチページLZW圧縮）
- ・ PDF

<画像－選択範囲の保存>


画像ウィンドウの「画像修正」モードで、「範囲選択」ツールを使って選択された領域の画像だけをファイルに保存します。

<OCR作業ファイルを開く>

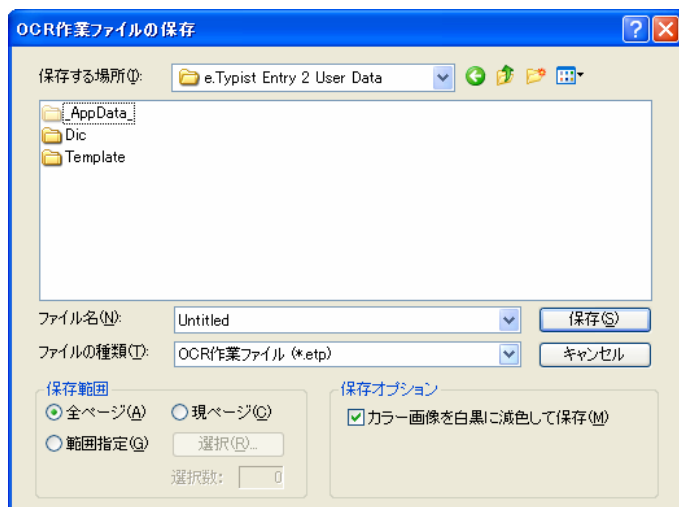
作業状態を保存したOCR作業ファイルを読み込みます。

<OCR作業ファイルの保存>

現在作業中の画像データと認識結果のテキストを、1つのOCR作業ファイルとして保存します。

 **注意** 旧バージョンで作成されたレイアウト情報がある場合は破棄されます。

「OCR 作業ファイルの保存」ダイアログが表示されますので、ファイル名を入力して「保存」をクリックします。



「保存範囲」

「全ページ」

画像リストに読み込まれている画像と認識結果をすべて保存します。

「現ページ」

現在表示されている画像と認識結果を保存します。

「範囲指定」

画像を個別に指定して保存します。「選択」をクリックして、「保存の選択」ダイアログで画像を指定します。

「保存オプション」

「カラー画像を白黒に減色して保存」にチェックを付けますとカラー画像を白黒に変換して保存します。

<印刷>

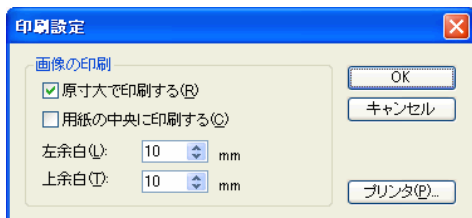
画像または認識結果のテキストを印刷します。
「印刷」ダイアログで印刷範囲を指定します。



画像、および、「表示」メニューの「テキスト表示モード」が「レイアウト表示」の場合の認識結果は、現在ページのみ印刷となります。

<印刷設定>

画像印刷時の設定をします。



「画像の印刷」

「原寸大で印刷する」

画像の印刷サイズを設定します。
チェックを外した場合はプリンタのマージン領域に合わせて縮小して印刷されます。

「用紙の中央に印刷する」

原寸大で印刷する場合に用紙サイズの中央に印刷します。

「左余白」・「上余白」

原寸大で印刷する際の左上のマージン（余白）領域を指定します。

<プリンタの設定>

プリンタの設定をします。

<e.Typistの終了>

e.Typist を終了します。

8-1-2 「編集」メニュー

編集(E)	表示(V)	検索(S)	画
	やり直し(U)	Ctrl+Z	
	切り取り(T)	Ctrl+X	
	コピー(C)	Ctrl+C	
	貼り付け(P)	Ctrl+V	
	削除(D)	Del	
	すべて選択(A)	Ctrl+A	

<やり直し>

直前に行ったテキストや画像の編集等の操作を取り消して、元に戻します。作業の内容によって、やり直しできないものがあります。

<切り取り>

選択した範囲のテキストを切り取って、クリップボードへ転送します。

<コピー>

選択した範囲のテキストを、クリップボードへコピーします。

<貼り付け>

クリップボードに転送・コピーされたデータを、カーソルが置かれた場所に貼り付けます。

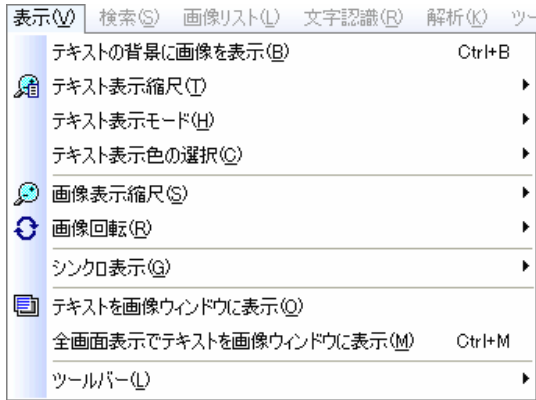
<削除>

選択した範囲のテキストや画像データを削除します。(クリップボードへは転送されません)

<すべて選択>

テキストウィンドウに表示された文字をすべて選択します。

8-1-3 「表示」メニュー



<テキストの背景に画像を表示>

テキストウィンドウ上に画像の背景を表示します。

<テキスト表示縮尺>

テキストウィンドウで、テキストデータの表示縮尺を設定します。プルダウンから「1/1」～「1/16」の範囲で選択できます。

<テキスト表示モード>

テキストウィンドウで認識結果を表示するモードを設定します。「レイアウト表示」と「簡易表示」からモードを選択します。
⇒60ページ「テキスト表示モードの選択」をお読みください。

<テキスト表示色の選択>

テキストウィンドウの文字色を選択します。
⇒64ページ「テキスト表示色の選択」をお読みください。

<画像表示縮尺>

画像ウィンドウで、画像データの表示縮尺を設定します。「1/1」～「1/16」の範囲で選択できます。

<画像回転>

画像データを回転または傾きの補正をします。
⇒49ページ「回転」をお読みください。

<シンクロ表示>

画像ウィンドウ（画像データ）とテキストウィンドウ（認識結果）とを並べて表示します。

<テキストを画像ウィンドウに表示>

認識結果を画像ウィンドウの画像データ上に表示します。

<全画面表示でテキストを画像ウィンドウに表示>

モニターのデスクトップ画面全体を使って、認識結果を画像ウィンドウの画像データ上に表示します。

<ツールバー>




e. Typistを構成する各ウィンドウのツールバーの表示／非表示を設定できます。



ヒント

ツールバーのアイコンの大きさを変更することができます。
それぞれのツールバー上にマウスを移動し、右ボタンをクリックして表示されるメニューから選択してください。

8-1-4 「検索」メニュー

検索(S)	画像リスト(L)	文字認識(R)	解析(Q)
	検索・置換(Q)...		Ctrl+F
	誤り検索(Y)		Shift+F3
	次を検索(N)		F3
	置換(T)		Shift+F4
	一括置換(A)		Shift+F5
	置換リストで次を検索(S)		F11
	置換リストで置換(O)		Alt+F11
	置換リストで一括置換(M)		Shift+F11
	置換リストで全ページ一括置換(Q)		
	選択文字を置換リストに追加(L)...		
	検索文字複写(H)		
	置換文字複写(O)		

<検索・置換>

「検索・置換」ダイアログボックスが表示されます。検索・置換の条件を設定します。
⇒73ページの『「検索・置換」でテキストを修正』をお読みください。

<誤り検索>

認識結果の解析で誤り文字として検出された文字を検索します。

<次を検索>

テキストウィンドウでカーソルが置かれた位置から検索を開始します。

<置換>

テキストウィンドウで検索された文字を、置換文字に置き換えます。

<一括置換>

テキストの冒頭から末尾まで、検索文字を一括して置換文字に置き換えます。

<置換リストで次を検索>

置換リストに登録した検索文字と置換文字で検索します。

<置換リストで置換>

置換リストに登録した検索文字と置換文字を使って置換します。

<置換リストで一括置換>

置換リストに登録した検索文字と置換文字で一括置換します。

<置換リストで全ページ一括置換>

置換リストに登録した検索文字と置換文字で、認識結果のすべてのページについて一括置換をします。

<選択文字を置換リストに追加>

テキストウィンドウで選択した文字を置換リストへ追加します。

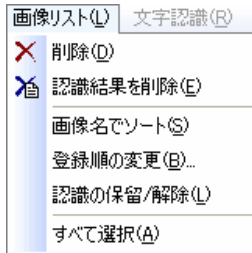
<検索文字複写>

「検索・置換」ダイアログを表示した状態でテキストウィンドウの文字をカーソルで選択した後、このメニューを選ぶと、その文字が「検索文字列」ボックスに複写されます。

<置換文字複写>

「検索・置換」ダイアログを表示した状態でテキストウィンドウの文字をカーソルで選択した後、このメニューを選ぶと、その文字が「置換文字列」ボックスに複写されます。

8-1-5 「画像リスト」メニュー



<削除>

画像リストで選択している画像を削除します。

<認識結果を削除>

選択している画像に認識結果のテキストデータがある場合、その認識結果を削除します。

<画像名でソート>

画像リストに表示された画像名がソートされます（ASCIIコード順）。

<登録順の変更>

認識処理する際の画像の順番を変更します。

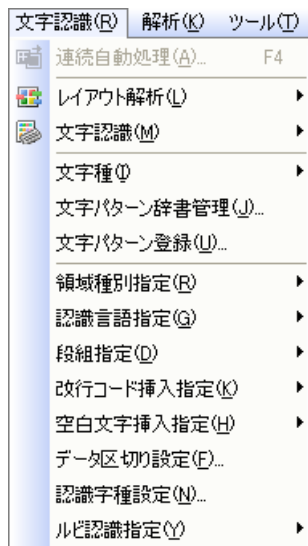
<認識の保留／解除>

画像リストに表示された未処理の画像を、「保留」にして認識の対象から除外します。再度選択しますと「保留」を解除します。

<すべて選択>

画像リストに表示された画像をすべて選択します。

8-1-6 「文字認識」メニュー



<連続自動処理>

画像の読み込みから認識・保存までを自動で処理します。

⇒94ページの「連続自動処理」をお読みください。

<レイアウト解析>

レイアウト解析を実行します。

「選択画像の解析」

画像リストで選択した画像のレイアウト解析を実行します。

「全画像の解析」

すべての画像のレイアウト解析を実行します。

「レイアウトを元に戻す」

レイアウト枠の追加・削除などを実行した後、元の状態に戻します。

「レイアウトをやり直す」

前項「レイアウトを元に戻す」で元に戻した操作をキャンセルして、もう一度実行します。

「レイアウト順」

認識順序をソートします。

<文字認識>

読み込まれた画像の文字認識を実行します。

「選択画像の認識」

画像リストで選択した画像の文字認識を実行します。

「全画像の認識」

すべての画像の文字認識を実行します。

「選択領域の認識」

選択されている認識枠の文字認識を実行します。

<文字種>

認識に使用する文字種を登録、修正、削除します。

⇒112ページの「個別字種の設定」をお読みください。

＜文字パターン辞書管理＞

文字パターン辞書に登録されたデータを表示します。

⇒86ページの「文字パターン学習辞書の登録内容」をお読みください。

＜文字パターン登録＞

画像ウィンドウの「範囲選択」ツールで選択された文字の画像データを使って、文字パターン辞書に文字コードを登録します。

＜領域種別指定＞

認識枠の領域種別を設定します。

＜認識言語指定＞

認識枠の認識言語を設定します。

＜段組指定＞

認識枠の段組を設定します。

＜改行コード挿入指定＞

文字認識した結果をテキストに出力する際に、改行コードの挿入方法を設定します。

＜空白文字挿入指定＞

認識結果を出力する際、テキストに空白部分（スペース）を挿入するかどうかを選択します。

＜データ区切り設定＞

表を認識する際のパラメータを設定します。

⇒101ページの「データ区切り設定」をお読みください。

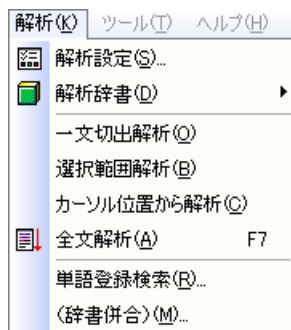
＜認識字種設定＞

文字認識する文字の種類（字種）を指定します（認識言語が日本語の場合のみ）。

＜ルビ認識指定＞

ルビを認識処理する際の出力方法を設定します（認識言語が日本語の場合のみ）。

8-1-7 「解析」メニュー



<解析設定>

認識結果を解析するための条件を設定します。

<解析辞書>

認識結果の解析に使用する辞書を選択します。

<一文切出解析>

認識結果のテキストで、カーソルが置かれた箇所の一
文を切り出して構文の解析をします。
日本語解析の場合のみ使用できます。

<選択範囲解析>

認識結果のテキストで、カーソルで選択した部分の構文を解析します。

<カーソル位置から解析>

認識結果のテキストで、カーソルが置かれた位置から文末までのテキストを構文解
析します。

<全文解析>

認識結果のテキスト全体について、構文を解析します。

<単語登録検索>

解析辞書に単語を登録または削除します。
⇒e. Typistのヘルプをお読みください。

<辞書併合>

e. Typistの解析辞書が壊れた場合、辞書併合して復帰します。
⇒e. Typistのヘルプをお読みください。

8-1-8 「ツール」メニュー



<操作設定>

- e. Typistの基本操作条件を設定します。
⇒117ページの「『操作設定』パネル」をお読みください。

<環境設定>

- e. Typist の操作環境を設定します。
⇒129ページの「『環境設定』パネル」をお読みください。

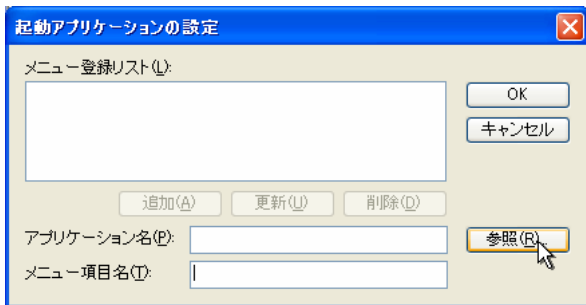
<ワンタッチ転送>

- 転送先のアプリケーションを選択して、認識結果を転送します。
⇒39ページの「認識結果の転送」をお読みください。

<起動アプリケーションの設定>

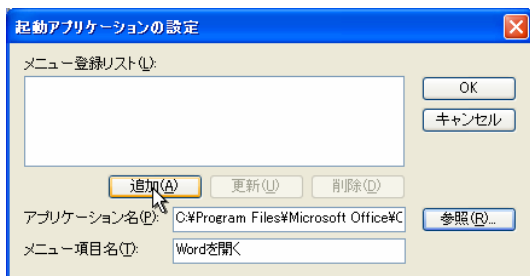
- e. Typistのメニューから起動できるアプリケーションの設定をします。
認識結果をクリップボード経由で転送することができます。

- 1** 「起動アプリケーションの設定」ダイアログが表示されます。



- 2** 「参照」をクリックしますと「起動アプリケーションの選択」ダイアログが表示されます。登録するアプリケーションの実行ファイル(*.exe)を選択し、「開く」をクリックします。

- 3 「メニュー項目名」に名称を入力して「追加」をクリックしますと「メニュー登録リスト」に登録されます（最大10個まで）。登録したアプリケーションを削除する場合は、リストから選択して「削除」をクリックしてください。



- 4 「OK」をクリックして「起動アプリケーションの設定」ダイアログを閉じます。「ツール」メニューを開きますと、一番下に登録したアプリケーション名が表示されています。
- 5 「ツール」メニューから転送先のアプリケーション名を選択してアプリケーションを起動します。
- 6 アプリケーション上の「編集」メニューから「貼り付け」を選択します。または、キーボードの [Ctrl]+[V] を押します。認識結果がアプリケーション上に転送されます。

8-1-9 「ヘルプ」メニュー



<e.Typistヘルプ>

e.Typistのヘルプを表示します。

<初めにお読みください>

「注意事項 (readme.txt)」を表示します。

<メディアドライブホームページ>

Webブラウザを起動してメディアドライブのホームページを表示します。インターネットに接続できる環境が必要です。

<オンラインサポート>

メディアドライブの製品サポート情報のホームページを表示します。インターネットに接続できる環境が必要です。

<自動アップデート>

メディアドライブのホームページからアップデートプログラムをダウンロードし、最新の環境に更新します。インターネットに接続できる環境が必要です。

<バージョン情報>

e.Typistのバージョン情報を表示します。

8-2 操作ツールバー



「操作ツールバー」はOCR操作を行う手順に沿って配列されています。

① スキャナ／ファイル

切り替えボタン「▼」をクリックして2種類のアイコンを切り替えて使用します。



「スキャナ読込」

スキャナから画像を読み込んで文字認識を行う操作を開始します。
⇒18ページの「スキャナから画像を読み込む」をお読みください。



「ファイル読込」

保存されている原稿の画像ファイルやPDFファイルを読み込んで文字認識を行う操作を開始します。
⇒43ページの「画像ファイルを読み込む」をお読みください。

② レイアウト



「レイアウト解析」

画像ウィンドウに表示されたデータのレイアウトを解析し、画像データ上に認識枠を表示します。
⇒22ページの「レイアウト解析（認識範囲の設定）」をお読みください。

③ 認識



「文字認識」

画像ウィンドウに作成された認識枠に対して文字認識を行います。認識結果はテキストウィンドウに表示されます。
⇒33ページの「文字認識」をお読みください。

④ 保存



「保存」

認識結果や画像をファイルに保存します。

テキストウィンドウがアクティブな状態でクリックした場合、認識結果をファイルに保存します。

画像ウィンドウがアクティブな状態でクリックした場合、画像をファイルに保存します。

⇒37ページの「認識結果の保存」をお読みください。

8-3 ワンタッチ転送ツールバー



「ワンタッチ転送ツールバー」に表示されているアイコンをクリックしますと、認識結果を自動でそれぞれのアプリケーションに転送することができます。

⇒39ページの「認識結果の転送」をお読みください。



ヒント

e. Typistを起動し、原稿を読み込んでいない状態からでも、ワンタッチ転送ツールバーを操作することができます。

操作ツールバーに「スキャナ」が選択（表示）されていればスキャナから読み込み、「ファイル」が選択（表示）されていれば画像ファイルを開くダイアログが表示されます。原稿を読み込んだあとの処理（レイアウト解析 → 文字認識 → アプリケーションへの転送）はフルオートで実行されません。

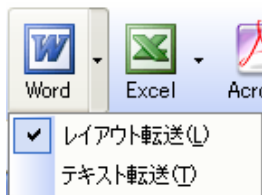


注意

e. Typistのインストール時に、ご使用のパソコンにインストールされているアプリケーションを認識して、ワンタッチ転送ツールバーにアイコンを表示します。アプリケーションがインストールされておりませんとアイコンは表示されません。

Word、Excel、Acrobatに転送する際は、データの形式を選択して転送してください。

●Wordに転送



「レイアウト転送」

認識結果の文字と元原稿のレイアウト情報を再現して転送します。

「テキスト転送」

認識結果の文字のみを転送します。

●Excelに転送



「レイアウト転送」

認識結果の文字と元原稿の罫線やレイアウト情報を再現して転送します。

「テキスト転送」

認識結果の文字のみを転送します。

●Acrobatに転送



「認識結果PDF」

認識結果のみを原稿のレイアウトに準じて転送します。

「透明テキスト付PDF」

画像と透明テキスト化された認識結果を合わせて転送します。

「画像PDF」

画像のみを転送します。

8-4 認識属性ツールバー



「認識属性ツールバー」は、画像ウィンドウに作成された認識枠を文字認識する際の条件を設定します。

⇒詳細については、26ページの「認識条件の設定」をお読みください。



「領域種別指定」

アクティブな認識枠の領域種別を設定します。



「認識言語指定」

アクティブな認識枠の認識言語を設定します。



「段組指定」

アクティブな認識枠の文章の段組を指定します。



「改行コードの挿入指定」

アクティブな認識枠で認識した結果をテキストに出力する際の改行コードの挿入方法を指定します。



「空白文字の挿入指定」

アクティブな認識枠で、日本語を認識する場合に文章中に含まれた空白部分（スペース）をテキストに出力するかどうかを指定します。
この機能は、「改行コードの挿入指定」で「毎行改行」、「自然改行」を選択した場合だけ有効です。



「データ区切り設定」

アクティブな認識枠で表組を認識する場合の認識条件を設定します。「データ区切り設定」ダイアログが表示されます。



「認識字種設定」

アクティブな認識枠で、認識の対象とする文字の種類を設定します。「認識字種設定」ダイアログが表示されます。
この機能は、認識言語が「日本語」の場合だけ有効です。



「ルビ認識指定」

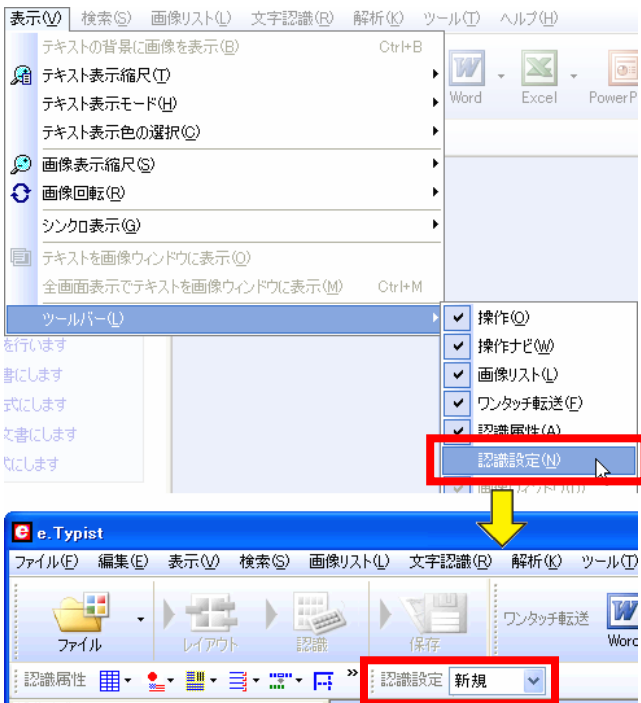
アクティブな認識枠で、ルビ（フリガナ）のついた文章を認識する際、ルビの処理方法をポップアップで選択して設定します。

この機能は、認識言語が「日本語」の場合だけ有効です。

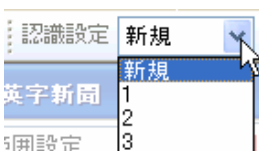
8-5 認識設定ツールバー

「認識設定ツールバー」は、「表示」メニューの「ツールバー」から「認識設定」を選択すると表示されます（初期設定では表示されません）。認識枠を選択する場合や認識属性の初期条件を変更する場合にご利用ください。

初期状態ではテキストボックスに「新規」が表示されます。この状態で「認識属性ツールバー」を変更しますと、レイアウト解析で認識枠を作成する際の初期状態が変更されます。



テキストボックスをクリックしてリストから認識枠の枠番号を選択してください。画像ウィンドウ上で選択された認識枠が青色で表示されます。



8-6 画像リスト

スキャンして読み込んだ画像、または画像ファイルから読み込んだ画像の名称が表示されます。

画像リスト上部にあるタブを選択して、「サムネイル」と「リスト」を切り替えて表示します。

画像のサムネイルまたは画像名を選択して反転表示させますと、その画像が画像ウィンドウに表示されます。

サムネイル表示



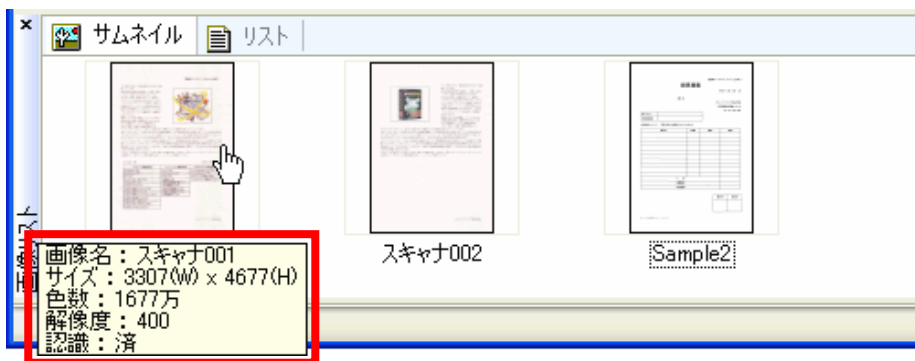
リスト表示

画像リスト




画像名	サイズ (pixel)	サイズ (mm)	色数	解像度 (dpi)	認識
スキャナ001	3307(W) x 4677(H)	210.0(W) x 297.0(H)	1677万	400	済
スキャナ002	3307(W) x 4677(H)	210.0(W) x 297.0(H)	1677万	400	未
Sample2	3307(W) x 4677(H)	210.0(W) x 297.0(H)	2	400	保留

<画像の詳細情報を確認する>

「サムネイル表示」の場合、サムネイル上にマウスのポインタを移動しますと、ポップアップで詳細情報を表示します。

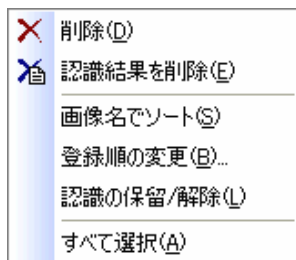


「リスト表示」の場合、画像名の右側に詳細情報が表示されています。また、画像名の左に表示されているアイコンは、OCR処理の状態によってデザインが変わります。

-  認識が済んだ画像
-  認識が未処理の画像
-  認識が保留の画像

<画像の管理>

画像にカーソルを置いてマウスの右ボタンをクリックしますとポップアップメニューが表示されます。



「削除」

カーソルで選択した画像を削除します。

「認識結果を削除」

認識結果を削除します。

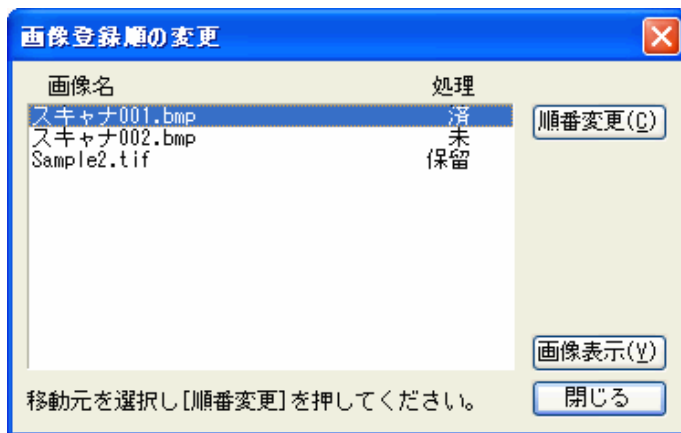
「画像名でソート」

画像名でソートします（ASCIIコード順）。

「登録順の変更」

認識処理する際の順番を変更します。

このコマンドを実行しますと「画像登録順の変更」ダイアログが表示されます。



移動する画像を選択して「順番変更」をクリックします。次に移動先の位置（画像）をクリックしますと画像の順番が変更されます。

「画像表示」をクリックしますと、画像ウィンドウに選択された画像が表示されます。

「認識の保留／解除」

OCRが未処理の画像を選択してこのコマンドを実行しますと、画像が保留状態になり、認識処理の対象から除外されます。

保留にした画像を選択して再度「認識の保留／解除」を実行しますと、保留が解除されます。

「すべて選択」

画像リストに表示されている画像をすべて選択します。

付 録

e. Typist エントリー2 のスペック

動作環境

カスタマサポート

ユーザー登録について

ユーザー登録変更届

e. Typist エントリー2 スペック

【認識方式】

新・拡張セル特徴方式

【原稿サイズ】

最大 A3 サイズ

【日本語認識部】

- <認識対象文字> 漢字（JIS 第1水準、第2水準文字）、ひらがな、カタカナ、アルファベット、数字、記号等約 6700 文字。
- <認識書体> 明朝体・ゴシック体・教科書体等マルチフォント対応
- <文字サイズ> 1.8mm～15mm 角程度
(5※～45 ポイント程度 ※600dpi スキャン時のみ)
- <文章形式> 縦書き・横書き自動判別。文字サイズ混在文書対応

【日本語解析部／日本語ワードチェッカー】

- <知識辞書> 約 63,000 語
- <その他> ユーザー登録辞書機能、ユーザー辞書自動バックアップ機能

【英語認識部】

- <認識対象文字> アルファベット、数字、記号
- <認識書体> マルチフォント対応
- <文字サイズ> 1.8mm～15mm 角程度
(5※～45 ポイント程度 ※600dpi スキャン時のみ)
- <文章形式> 文字サイズ混在文書対応

【英語解析部／英語スペルチェッカー】

- <知識辞書> 約 61,000 語
- <その他> ユーザー登録辞書機能、ユーザー辞書自動バックアップ機能

動作環境

【対応機種】

Intel 社製 Pentium II 以上の CPU を搭載した
IBM PC/AT 互換機及び NEC PC98-NX シリーズ
* Pentium III(SSE) / Pentium 4(SSE2) テクノロジ対応

【対応 OS】

日本語 Windows 98SE/Me
日本語 Windows 2000 Professional
日本語 Windows XP Professional/Home Edition
日本語 Windows Vista Ultimate/Enterprise/Business/Home Premium/Home Basic
日本語 Windows 7 Enterprise/Ultimate/Professional/Home Premium/Starter
* 本製品は Internet Explorer 5.0 以上が必要です。
* 64bit OS、Windows 7 の XP モード、Macintosh は動作保証外となります。

【動作メモリ】

128MB 以上 (512MB 以上推奨、Windows Vista/Windows 7 の場合は 1GB 以上)

【必要ハードディスク容量】

約 45MB

【認識対応字種 (記号)】

、 。 , . ・ : ; ? ! ^ 〃 々 ズ ー / \ ~ ... ' " " () [] { }
< > 《 》 「 」 『 』 【 】 + - ± × ÷ = < > ¥
\$ ¢ £ % # & * @ § 〒
† ‡
μ
ヘク リツ ワツ カロ ドル セン パー ミリ ベー mm cm km mg kg cc m² (上) (中) (下) (左) (右) (株) (有) (代)
ター トル ト カロ ドル セン パー ミリ ベー ミリ キロ セン メー グラ トン アー
ター トル ト カロ ドル セン パー ミリ ベー

【認識対象第2水準漢字*】

几 贈 將 拉 栞 樽 灌 浴 耽 穗 縣 腓 萬 螂 酪 餉
 凜 嚴 寶 扁 檜 櫃 滉 爲 盧 稻 絨 脾 葭 蜩 酈 虱
 冤 嚙 實 戍 柞 撞 渤 爬 皓 稟 絆 腋 莠 蜎 邨 顯
 胃 嘔 學 罹 枳 楛 涼 燧 癸 秣 紮 脩 范 蝸 邊 頰
 兀 嗜 孚 慎 枿 樂 淺 燧 癩 禹 紘 脛 莉 蜥 邊 頰
 儂 嗅 孕 悸 杣 榴 洩 熾 癩 禮 紉 肱 莛 蜻 辣 頸 遙
 僥 喘 媚 從 杣 樽 濤 爛 瘤 齋 糝 胚 莛 蝮 輻 輞 齟
 僥 喀 姪 彙 曳 槁 涕 熙 瘡 禧 籟 肚 茗 蜴 輻 輞 齟
 傳 哺 甥 彗 曰 橙 洵 熙 瘍 祓 篋 肛 茱 蜀 輕 勒 黎
 傲 咬 娑 彌 曄 榮 泪 焙 瘞 祠 藪 聰 茉 蜆 軋 陞 棼
 傳 咄 姜 弩 曉 榆 沮 焉 痒 祀 篤 聲 芒 蛭 躄 阼 棼
 會 咀 壽 廣 暉 椰 沽 烙 疽 疔 礫 築 聚 艸 蛛 躬 關 鶻
 假 呵 壺 幟 暎 梃 泓 炮 疽 疔 礫 築 聚 艸 蛛 躬 關 鶻
 俛 吝 壺 帷 晟 楛 泄 炸 疵 磧 寰 翅 舢 舩 舩 蹉 閭 鶻
 俛 曼 埤 已 皓 楮 沐 炬 茄 砒 砒 錐 錐 舩 舩 蹉 閭 鶻
 儘 卯 埤 巫 昂 枏 沁 渚 當 礪 箏 毘 鋪 號 跣 門 鴉
 來 巳 埤 巖 杳 柳 汕 瀘 甦 砒 箏 錐 舩 舩 蹉 閭 鶻
 侑 弁 坏 嶽 昊 控 氣 濱 瓠 臉 筓 籟 與 藥 齋 鐵 鯨
 佗 劍 圖 嶢 幡 某 毯 濟 璋 瞠 筓 籟 與 藥 齋 鐵 鯨
 佛 劍 團 嵌 旛 梵 毫 澤 瑋 暎 筓 籟 與 藥 齋 鐵 鯨
 亟 剋 圓 崔 敲 椰 毬 潭 珀 辜 笙 纈 腸 薇 褥 鎊 颯
 式 剋 國 寄 搯 條 殼 澁 瀨 睨 笏 辯 膾 藪 銜 鈇 魏
 豫 剋 困 屹 擗 桿 櫻 澆 澆 猴 眸 竈 絳 膠 蕃 蠕 鉤 鮑 駝
 乖 刮 囧 屏 挾 桀 櫟 漱 猜 眞 窩 纒 膀 膠 蕃 蠕 鉤 鮑 駝
 井 勿 囑 專 拮 栩 椽 漿 狡 眩 穰 滕 睫 蓼 蟄 鉗 鉤 鮑 駝

* 初期設定で認識可能な文字

索引

英数・記号

Acrobat に転送 163
e.Typist の起動 18
e.Typist の終了 42
e.Typist ヘルプ 159
Excel (環境設定) 138
Excel に転送 163
OCR 作業ファイル 146
OCR 操作の流れ 15
PDF ファイル (環境設定) 136
Word (環境設定) 137
Word に転送 162

ア

誤り色、正常／置換色 71
誤り検索 151
アンインストール 9

イ

一文切出解析 71
一文区切り記号 70
一括置換 74
移動 48
イメージジョイント機能 56
印刷/印刷設定 147
インストール 2

ウ

ウィンドウの構成 13
ウィンドウの配色 (環境設定) 139

エ

英語解析モード 70

オ

オンラインサポート 159

カ

カーソル位置から解析 72
改行コードの挿入指定 29
解析辞書設定 63
解析の設定 69
解析の実行 71
「解析」メニュー 156
回転 49
学習 82
拡大縮小 48
重ね合わせフォントの設定 53
画像ウィンドウ 48
画像結合 56
「画像修正」モード 55
画像の回転 19
画像の傾き補正 20
画像表示 (環境設定) 129
画像ファイルの保存 144
画像ファイルを読み込む 43
画像保存 (保存オプション) 107
画像名でソート 169
画像リスト 167
画像リストメニュー 153
簡易表示モード 62
「環境設定」パネル 129

キ

- 起動アプリケーションの設定 157
- 行単位、列単位で認識字種を設定 103

ク

- 空白文字挿入指定 29
- 区切り文字設定（保存オプション） 109

ケ

- 罫線が欠けた表組 100
- 罫線出力（保存オプション） 108
- 消しゴム 55
- 「検索・置換」ダイアログ 73
- 「検索」メニュー 151

コ

- 候補文字で修正 36・78
- 候補文字を分割して修正 79
- 個別字種の設定 112

サ

- サウンド（環境設定） 140
- 削除（画像を削除） 168
- 削除範囲設定（無効領域） 51
- サムネイル表示 167
- 左右シンクロ 64

シ

- 自動アップデート 17・159
- 自動学習オプション 141
- 自動補正 20

- 自動レイアウト解析 22
- 手動補正 20
- 縮尺設定 63
- 縮小拡大 63
- 書類情報（保存オプション） 110
- 上下シンクロ 65
- 白黒に減色 55
- シンクロ表示 35
- シンクロ表示（環境設定） 130

ス

- 数値化（保存オプション） 108
- スキャナ（操作設定） 119
- スキャナから画像を読み込む 18
- スキャナから両面を読み込む 110
- 「スキャナ取り込み」パネル 47
- スキャナの選択 7
- すべて選択 169

セ

- 接触罫線削除 102
- セパレータ挿入 41
- セル番号表示 53
- 全画像の認識 33
- 全画面表示でテキストを
画像ウィンドウに表示 66
- 選択画像の認識 33
- 選択範囲解析 71
- 選択範囲の補正 50
- 選択領域の認識 33
- 線の太さ 55
- 全文解析 71

ソ

- 「操作設定」パネル 117
- 操作ツールバー 160

操作ナビ 90
その他（環境設定） 141

タ

第2水準漢字 31・173
段組指定 27

チ

置換 74
置換リストで一括置換 68
置換リストで複数の語を置換 75
置換リストに追加 68
置換リストの保存 76
置換リストの読み込み 77
直線描画 55

ツ

「ツール」メニュー 157
追加して保存（保存オプション） 108
次を検索 73

テ

データ区切り設定 30・101
テキストウィンドウ 63
テキスト表示モード 60
テキスト表示色の選択 64
テキストを画像ウィンドウに表示 65
テキストを別形式で保存 105
点線処理 102

ト

登録順の変更 169
取消 54・56

ドラッグ&ドロップ認識（環境設定） 134
トリミング 55

ナ

「名前を付けて保存」ダイアログ 105

ニ

認識（操作設定） 124
認識結果の解析 69
認識結果の修正 35
認識結果の転送 39
認識結果の保存 37
認識結果の保存（環境設定） 135
認識結果の保存ファイル形式 106
認識結果を削除 169
認識言語指定 27
認識字種設定 31
認識順変更 25
認識条件の設定 26
認識設定ツールバー 166
認識属性ツールバー 164
認識の保留／解除 169
認識フィルター 125
認識領域番号表示 54
認識枠の作成 22
認識枠の削除 23

ノ

ノイズ除去 56

ハ

バージョン情報 93・159

初めにお読みください 6・159

範囲設定 51

範囲選択 55

半角文字出力（環境設定）133

反転表示 55

ヒ

表組の文字認識 97

表示縮尺 48

表示フォント設定 67

表のみ出力（保存オプション）108

フ

「ファイル」メニュー 144

ファイル保存（操作設定）127

ファイル読込（操作設定）121

フォームフィールド出力
（保存オプション）107

フォルダを指定して画像ファイルを開く
44

フォント（環境設定）131

分割 79

文章の下線削除 102

へ

ページ区切り設定（保存オプション）108

「ヘルプ」メニュー 159

「編集」メニュー 148

ホ

保存オプション 107

ニ

見開き手動補正 49

見開き分割（保存オプション）107

メ

メディアドライブホームページ 93・159

モ

文字種の削除 115

文字種の修正 114

文字種の登録と活用 112

文字種別表示色（環境設定）132

文字認識 33

「文字認識」メニュー 154

文字認識に適用する文字 87

「文字パターン学習辞書」の新規作成 84

「文字パターン学習辞書」の登録内容 86

「文字パターン学習辞書」への登録 82

ヨ

読み込み可能な画像ファイル形式 43

リ

リスト表示 167

領域種別指定 26

両面印刷原稿を読み込む 110

ル

ルビ認識指定 32

レ

- レイアウト（操作設定） 123
- レイアウト解析 22
- レイアウト取消 53
- レイアウトのやり直し 53
- レイアウト表示モード 60
- レイアウト優先（保存オプション） 108
- レイアウト枠のソート 52
- レイアウトを元に戻す 52
- 連続自動処理 94
- 連続自動処理（操作設定） 118

ワ

- ワンタッチ転送ツールバー 162

カスタマサポート

e.Typist エントリー2 を使用中に操作方法が分からなくなり、マニュアルを参照してもなかなか解決しない場合、以下のカスタマサポートをご利用いただけます。

Windows の基本操作説明、他社製品やスキャナのインストール方法につきましては、各メーカーのサービスセンターにお問い合わせください。

メール:

メールでのお問い合わせは、プログラム上の「ヘルプ」メニューにある「オンラインサポート」をご利用ください。

ユーザー登録について

オンラインユーザー登録をご利用ください。


なお、この機能を実行するためには、インターネットへの接続が正常に行える環境が必要です。インターネットの接続については、接続先のプロバイダーか、ネットワーク管理者にお尋ねください。


Windows の「スタート」メニューから「すべてのプログラム」 「e.Typist エントリー2」 「ユーザー登録」を選択するか、デスクトップ画面の「メディアドライブユーザー登録」アイコンをマウスでダブルクリックします。



ブラウザが起動してオンラインユーザー登録用のページが表示されます。必要事項を入力して送信してください。



注意  オンラインによるユーザー登録が行えない場合は、パッケージに同梱の「ユーザー登録はがき」に必要事項を記入の上、FAX (03-5333-3441) にてユーザー登録を行ってください。オンライン登録していただいたお客様は、二重登録になる可能性がありますので登録はなさないでください。

注意  すでにユーザーIDをお持ちのお客様で、住所等に変更がありましたら「ユーザー登録画面より、お客様ログイン ID、および、パスワードにてログイン後、「会員情報を更新する」にて変更できます。オンラインによる変更が行えない場合は、「ユーザー登録変更届」に必要事項をご記入のうえ、FAX (03-5720-7156) にてお送りください。

ユーザー登録変更届

製品名: e.Typist エントリー-2
ユーザーID ナンバー:
シリアルナンバー:

変更前

郵便番号:
都道府県名:
住所(番地まで):
ビル・マンション名:
法人名:
学校名:
所属部署名: 個人/管理者名:
学部学科名:
電話番号: () Fax 番号: ()
E-mail:

変更後

郵便番号:
都道府県名:
住所(番地まで):
ビル・マンション名:
法人名:
学校名:
所属部署名: 個人/管理者名:
学部学科名:
電話番号: () Fax 番号: ()
E-mail:

* E-mail アドレスをご記入いただければ、当社から新製品情報やキャンペーン情報を提供させていただきます。
* このユーザー登録変更届は印刷してからお使いください。

- ◆ ユーザーID ナンバーはお持ちの方のみご記入ください。
- ◆ シリアルナンバー未記入の場合は登録変更をいたしかねます。
- ◆ 使用許諾契約により登録名義の変更はできません。ただし、法人登録の場合の所属部署名、担当者名の変更は可能です。

